

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | TR |
| 担 当 教 員 | 齋木 基 |
| 科 目 名 (中 項 目) | からだの仕組み I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 解剖学、生理学を初めて学習する学生を対象とした入門となる授業。身近な話題を取り上げ、学生が生理学に興味・関心をもつことを目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 解剖学、生理学という科目の理解 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 「学生のしおり」Ⅲ学内生活、3受講の心得について」に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 齋木 基 日本体育経営学会（現 日本体育・スポーツ経営学会）第16回大会 1989年3月 中学校教諭 1級免許状(保健体育) 取得 1989年3月 高等学校教諭 2級免許状(保健体育) 取得 1990年4月 高等学校教諭 1級免許状(保健体育) 取得 2008年3月 柔道整復師免許取得 2012年10月 柔道整復師専科教員取得 1993年3月 学会発表(口頭)「企業フィットネスに関する調査」 日本体育経営学会（現 日本体育・スポーツ経営学会）第16回大会 |

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 1 項 目 | 筋の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 骨格筋の分類と比較、肉離れや筋肉痛のメカニズムを理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」、プリント、新聞記事 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 神経の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 神経の分類方法、脳の働きと運動器疾患との関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」、プリント、新聞記事 |
| 備考 | 前回の復習テスト |
| 3 項 目 | 代謝・体温の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 基礎代謝、ダイエットに関する生理学を理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」、プリント、新聞記事 |
| 備考 | 前回の復習テスト |
| 4 項 目 | 生殖の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 不妊治療の現状、受精・妊娠・出産のメカニズムを理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」、プリント、新聞記事 |
| 備考 | 前回の復習テスト |
| 5 項 目 | 皮膚の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 皮膚の構造、紫外線と皮膚の関係、アレルギーと皮膚の関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」、プリント、新聞記事 |
| 備考 | 前回の復習テスト |
| 6 項 目 | 前半の追加授業、中間テスト |
| 学習目標・ポイント | 中間テスト、免疫の基礎を理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 体液の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 体液の分類、ムクミと浮腫のメカニズム、酸塩基平衡について理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」、プリント、新聞記事 |
| 備考 | 前回の復習テスト |
| 8 項 目 | 血液の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 血液型と疾患の研究、血液の成分について理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」、プリント、新聞記事 |
| 備考 | 前回の復習テスト |
| 9 項 目 | 毛髪の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 毛の構造、男性型脱毛症のメカニズム、毛包幹細胞について理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」、プリント、新聞記事 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 期末テスト と 睡眠の生理学 |
| 学習目標・ポイント | レム睡眠とノンレム睡眠、脳波、金縛りとレム睡眠の関係について理解する |
| 使用する材料 | 教科書「生理学(南江堂)」、プリント、新聞記事 |
| 備考 | 期末テスト |
| 11 項 目 | 骨の理解 |
| 学習目標・ポイント | 骨の役割、骨の名前を理解する |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 筋の理解 |
| 学習目標・ポイント | 筋の役割、筋の名前を理解する |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 脈管の理解 |
| 学習目標・ポイント | 血液の役割、脈管の名前を理解する |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 神経の理解 |
| 学習目標・ポイント | 神経の役割、神経の名前を理解する |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 内臓の理解 |
| 学習目標・ポイント | 内臓の役割、内臓の名前を理解する |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 解剖学Ⅲ(内臓学) |
| 担 当 教 員 | 西口 隆彦 |
| 科 目 名 (中 項 目) | からだの仕組みⅡ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 本校の目標は国家試験合格が目標ではあるが、内臓学においては与えられた短い時間数のなかで効率よく学習できるように模型を実際に配布触れさせ、次年度に実施される大阪大学での解剖実習に役立つ講義を行う。 |
| 到 達 目 標 | 過去の国家試験に出題される問題よりやや難題が十分に解けることができる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。必要と認めた場合、小テストを実施する。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 昭和58年4月～平成4年3月 大阪大学歯学部第2解剖学講座助手として勤務 系統解剖学講義および実習を担当する 平成4年4月～平成30年3月 大阪大学歯学部第2解剖学講座非常勤講師 筋学講義を担当する |

| | | |
|-----------|---|---------------|
| 1 項 | 目 | 脳神経 |
| 学習目標・ポイント | | 用語の暗記 |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 2 項 | 目 | 消化器総論 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 3 項 | 目 | 口腔 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 4 項 | 目 | 咽頭・食道 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 5 項 | 目 | 胃・食道 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 6 項 | 目 | 大腸 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 7 項 | 目 | 肝臓 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 8 項 | 目 | 胆路 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 9 項 | 目 | 脾臓・腹膜 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 10 項 | 目 | 鼻腔・副鼻腔 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 11 項 | 目 | 喉頭 |
| 学習目標・ポイント | | 模型 |
| 使用する材料 | | 基本構造を説明できる |
| 備考 | | |
| 12 項 | 目 | 気管・肺 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 13 項 | 目 | 胸膜・縦隔 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 14 項 | 目 | 腎臓 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |
| 15 項 | 目 | 膀胱・尿道 |
| 学習目標・ポイント | | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | | 模型 |
| 備考 | | |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 解剖学Ⅵ(内臓学) |
| 担 当 教 員 | 西口 隆彦 |
| 科 目 名 (中 項 目) | からだの仕組みⅢ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 本校の目標は国家試験合格が大義ではあるが、内臓学においては与えられた短い時間数のなかで効率よく学習できるように模型を実際に触れさせ、次年度に実施される解剖実習に役立つ講義を行う。 |
| 到 達 目 標 | 国家試験に出題される問題よりやや難題が十分に解けることができる。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。必要と認めた場合、小テストを実施する。 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 昭和58年4月～平成4年3月 大阪大学歯学部第2解剖学講座助手として勤務 系統解剖学講義および実習を担当する 平成4年4月～平成30年3月 大阪大学歯学部第2解剖学講座非常勤講師 筋学を担当する |

| | |
|-----------|----------------|
| 1 項 目 | 男性生殖器 |
| 学習目標・ポイント | 基本構と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 男性生殖器 |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 女性生殖器 |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 女性生殖器 |
| 学習目標・ポイント | 基本構と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 内分泌器（下垂体・松果体） |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 内分泌器（甲状腺・上皮小体） |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 内分泌器（副腎・膵臓） |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 内分泌（性腺） |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 皮膚 |
| 学習目標・ポイント | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 皮膚 |
| 学習目標・ポイント | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 筋・関節 |
| 学習目標・ポイント | 基本構造を説明できる |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 視覚器 |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 視覚器 |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 聴覚器 |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 聴覚器 |
| 学習目標・ポイント | 基本構造と機能を説明できる |
| 使用する材料 | 模型 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 植物生理学 I |
| 担 当 教 員 | 吉田 篤 |
| 科 目 名 (中 項 目) | からだの働き I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2 (30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 人体の複雑な活動を解析し、生命に関するあらゆる謎を解き明かそうとする学問が生理学である。 |
| 到 達 目 標 | 生理学は正常な生体の機能を学ぶ学問であり、目標としてはプロフェッショナルになるために必要な知識を身につける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 担当科目における教育上の業績(1400文字以内) 大阪大学において解剖学・組織学講義、実習を実施 実務上の業績 1、職務の内容(研究業績はresearchmap参照) https://researchmap.jp/read0014194 |

| | |
|-----------|---------------------|
| 1 項 目 | 1 生理学とは |
| 学習目標・ポイント | C生体の恒常性と統合機能 D体液の区分 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 8 血液 |
| 学習目標・ポイント | A血液の成分 B止血 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 8 血液 |
| 学習目標・ポイント | C血液型 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 8 血液 |
| 学習目標・ポイント | D免疫 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 10 循環 |
| 学習目標・ポイント | A心臓 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 10 循環 |
| 学習目標・ポイント | B血管 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 10 循環 |
| 学習目標・ポイント | Cリンパ系 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 10 循環 |
| 学習目標・ポイント | D循環調節 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 11 呼吸 |
| 学習目標・ポイント | A呼吸器系の構造 B換気 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 11 呼吸 |
| 学習目標・ポイント | Cガス交換と運搬 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 11 呼吸 |
| 学習目標・ポイント | D呼吸周期の調節 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 13 栄養と代謝 |
| 学習目標・ポイント | A生体の必要な栄養素 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 13 栄養と代謝 |
| 学習目標・ポイント | Bエネルギー代謝 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 13 栄養と代謝 |
| 学習目標・ポイント | C栄養素の代謝 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 13 栄養と代謝 |
| 学習目標・ポイント | D食物と栄養 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 植物生理学Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 吉田 篤 |
| 科 目 名 (中 項 目) | からだの働きⅡ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 人体の複雑な活動を解析し、生命に関するあらゆる謎を解き明かそうとする学問が生理学である。 |
| 到 達 目 標 | 生理学は正常な生体の機能を学ぶ学問であり、目標としてはプロフェッショナルになるために必要な知識を身につける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 大阪大学において解剖学・組織学講義、実習を実施 実務上の業績 1、職務の内容(研究業績はresearchmap参照) https://researchmap.jp/read0014194 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 1 項 目 | 14 消化と吸収 |
| 学習目標・ポイント | A消化器系の構成とはたらき |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | (特筆事項) |
| 2 項 目 | 14 消化と吸収 |
| 学習目標・ポイント | B食物の消化と吸収 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 14 消化と吸収 |
| 学習目標・ポイント | C各栄養素の消化と吸収 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 6 内分泌 |
| 学習目標・ポイント | A内分泌腺とホルモン |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 6 内分泌 |
| 学習目標・ポイント | Bそれぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 6 内分泌 |
| 学習目標・ポイント | Bそれぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 6 内分泌 |
| 学習目標・ポイント | Bそれぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 6 内分泌 |
| 学習目標・ポイント | Cホルモンによる内部環境の恒常性維持 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 7 生殖 |
| 学習目標・ポイント | A性分化 B男性生殖器 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 7 生殖 |
| 学習目標・ポイント | C女性生殖器 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 7 生殖 |
| 学習目標・ポイント | D妊娠と分娩 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 12 尿の生成と排泄 |
| 学習目標・ポイント | A腎臓の構造と機能 B尿の生成 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 12 尿の生成と排泄 |
| 学習目標・ポイント | B尿の生成 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 12 尿の生成と排泄 |
| 学習目標・ポイント | C腎血流量 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 12 尿の生成と排泄 |
| 学習目標・ポイント | D排尿 E腎臓による体液の調節 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 医学英語 |
| 担 当 教 員 | 西田 定幸 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 外国語 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復師として、日本国内あるいは外国で実際に外国の患者さんを治療する際に、①必要な会話表現、②柔道整復治療の説明、③身体各部位を初めとする医学英単語・語句の習得を目的とする。 |
| 到 達 目 標 | ①来院から治療終了、再診までの必要な最低限度の英会話ができる。②柔道整復治療について、英語で外国の患者さんに説明できる。③身体各部位・内臓・その他に関する英単語・語句が理解できる。④柔道整復に関する英文を読むことができる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験(100満点)の70%、小テスト20%、レポート等10%、を合わせて100%で評価 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 昭和61年度 文部省主催 高等学校英語教育指導者講座(S62/2/5~3/6)受講 昭和63年度 文部省主催 中学校及び高等学校英語担当教員海外研修 (S63/7/25~9/18) 数研出版株式会社 英語教科書 POLESTAR Reading Course 編集委員(~H15/3) 平成25年 11月 TOEIC 975点 平成26年 3月 2013年度第3回 実用英語技能検定 1級合格 2、実務上の業績 昭和53年4月より平成21年3月まで奈良県立高等学校にて、英語科の教諭・教頭として勤務し、英文読解・作文・文法・会話等、英語全般の指導に従事する。定年退職後は、大阪府・京都府・奈良県の私立高校の非常勤講師として、主に大学進学指導を担当する。 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 英語の基礎 |
| 学習目標・ポイント | 会話や英文の構造の基礎について |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 来院時の応対(1) ・柔道整復治療(1)について ・人体各部の名称(1) |
| 学習目標・ポイント | (1)受付時の英語表現 ・(1)柔道整復師の説明 ・(1)人体の名称 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 来院時の応対(2) ・柔道整復治療(2)について ・人体各部の名称(2) |
| 学習目標・ポイント | (2)電話受付時の英語表現 ・(2)柔道整復術の施術方法の説明 ・(2)人体の名称 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 来院時の応対(3) ・柔道整復治療(3)について ・人体各部の名称(3) 復習(1) |
| 学習目標・ポイント | (3)治療前の英語表現 ・(3)柔道整復術の治療行為の制限の説明 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 来院時の応対(4) ・柔道整復治療(4)について ・人体各部の名称(4) |
| 学習目標・ポイント | (4)問診時の英語表現 ・(4)脱臼の整復の説明 ・(3)骨の名称 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 来院時の応対(5) ・柔道整復治療(5)について ・人体各部の名称(5) |
| 学習目標・ポイント | (5)診察時の英語表現 ・(5)脱臼・骨折の固定の説明 ・(4)骨の名称 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 来院時の応対(6) ・柔道整復治療(6)について ・人体各部の名称(6) 復習(2) |
| 学習目標・ポイント | (6)検査時の英語表現 ・(6)手技療法の概略説明 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 来院時の応対(7) ・柔道整復治療(7)について ・人体各部の名称(7) |
| 学習目標・ポイント | (7)柔道整復術①の英語表現 ・(7)手技療法の効果の説明 ・(5)筋肉の名称 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 来院時の応対(8) ・柔道整復治療(8)について ・人体各部の名称(8) |
| 学習目標・ポイント | (8)柔道整復術②の英語表現 ・(8)運動療法の説明 ・(6)筋肉の名称 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 来院時の応対(9) ・柔道整復治療(9)について ・人体各部の名称(9) |
| 学習目標・ポイント | (9)柔道整復術③の英語表現 ・(9)テーピング療法の説明 ・(7)筋肉の名称 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 来院時の応対(10) ・柔道整復治療(10)について ・人体各部の名称(10) 復習(3) |
| 学習目標・ポイント | (10)施術後の英語表現 ・(10)物理療法の説明 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 来院時の応対(11) ・柔道整復治療(11)について ・その他の医学用語(11) |
| 学習目標・ポイント | (11)会計・保険の英語表現 ・(11)自然治癒力の説明 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 来院時の応対の復習① ・柔道整復治療について ・その他の医学用語(12) |
| 学習目標・ポイント | 来院時の応対(1)～(11)の復習 ・(12)柔道整復師の職場 ・医学用語の理解・習得 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 来院時の応対の復習② ・柔道整復治療について ・(1)～(12)の医学用語の復習 |
| 学習目標・ポイント | 来院時の応対(1)～(11)の復習 ・(13)独立開業について ・医学用語の理解・習得 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 来院時の応対の補足① ・柔道整復治療の補足① ・(1)～(12)の医学用語の復習 |
| 学習目標・ポイント | 来院時の応対(1)～(11)の補足・柔道整復治療(1)～(13)の補足・医学用語の理解・習得 |
| 使用する材料 | 教師作成資料 |
| 備考 | |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | スポーツ栄養学 |
| 担 当 教 員 | 久木 久美子 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 健康科学 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 本授業は、スポーツ時の栄養管理について理解することを目的としているが、学びの前提として、栄養の基礎知識が必要である。そこで、本講義は、栄養の基本としてエネルギー及び五大栄養素の働きと含有食品についての講義後、スポーツ時の栄養管理について講義を行う。なお、柔道整復師として治療の対象は、アスリートのみだけではないことから、高齢期における栄養管理、さらに病態(肥満、高血圧など)やリハビリテーション時における栄養管理についても理解が深められるよう講義を行う。 |
| 到 達 目 標 | ①栄養の基本(エネルギー、五大栄養素)について説明できる。 ②症状別別(肥満、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、貧血、骨粗鬆症、貧血)の栄養管理について説明できる。 ③高齢期の栄養管理について説明できる。 ④スポーツ時の栄養管理について説明できる。 ⑤リハビリテーション時の栄養管理について説明できる。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 成績の評価項目及びその割合:単位認定試験50%、確認テスト40%、レポート課題10%合わせて100%で評価を行う。 ※単位認定試験、確認テスト:6割以上を合格とする。合格基準に満たない場合は、再試験対象となる。 ※レポート課題:内容を点検し返却する。なお、正当な理由がなく指定された期限までに提出がない場合は、成績評価を辞退したものと見なすので注意すること。 ※授業中に睡眠、飲食、騒ぐなど、授業受講に対し積極的な態度が見られない場合は、減点対象とする。 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 準備物:3色ほどの色つきペン、レジユメ・配付資料を綴じるA4サイズのファイル、ノート(書くことが多いため) 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | (1400文字以内) 1985年 栄養士免許取得 1987年 管理栄養士登録証取得 2014年 奈良女子大学大学院人間文化研究科 共生自然科学専攻 博士(学術)取得 1、担当科目における教育上の業績 1985年9月～現在に至る 栄養士・管理栄養士養成課程専門学校・短大・大学ならびに介護福祉士、鍼灸師、柔道整復師等の医療・福祉系の専門学校において非常勤講師として勤務 調理学、食品学、栄養学、スポーツ栄養学、臨床栄養学等を担当する 2007年4月～現在に至る 大阪国際大学短期大学部 栄養学科(2021年に名称変更)専任教員2016年より教授 栄養士基礎科目、食べ物と健康分野を担当する |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | オリエンテーション、1.栄養の基本(五大栄養素、体内での働き、糖質について) |
| 学習目標・ポイント | 五大栄養素の種類と働き、糖質を多く含む食品が説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料:糖尿病食事療法のための食品交換表 |
| 備考 | (特筆事項) |
| 2 項 目 | 1.栄養の基本(たんぱく質について) |
| 学習目標・ポイント | たんぱく質を多く含む食品、たんぱく質・Caを多く含む食品が説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料:糖尿病食事療法のための食品交換表 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 1.栄養の基本(脂質、ビタミンA(カロテン)について) |
| 学習目標・ポイント | 脂質を多く含む食品、緑黄色野菜・淡色野菜、食物繊維を多く含む食品が説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料:糖尿病食事療法のための食品交換表 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 1.栄養の基本(食物繊維[不溶性、水溶性]について)2.症状別栄養(便秘について) |
| 学習目標・ポイント | 不溶性・水溶性食物繊維の働きと含有食品、便秘の種類別栄養管理が説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料:糖尿病食事療法のための食品交換表 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 1.栄養の基本(エネルギーについて)、2.症状別栄養(肥満、やせについて) |
| 学習目標・ポイント | エネルギー供給栄養素について説明できる、肥満及びやせの原因について説明できる |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 4.スポーツ栄養(エネルギー産生栄養素バランス比について) |
| 学習目標・ポイント | PFC比が計算し、それを評価することができる |
| 使用する材料 | 配付資料 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 4.スポーツ栄養(グリコーゲン回復のための食事について) |
| 学習目標・ポイント | 糖質の摂取タイミング、糖質の質について説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 1.栄養の基本(脂質について) |
| 学習目標・ポイント | 脂肪、脂肪酸の特徴が説明できる |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 1.栄養の基本(脂質について) 2.症状別栄養(脂質異常症について) |
| 学習目標・ポイント | コレステロールの特徴が説明できる、脂質異常症予防のための栄養管理が説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料:動脈硬化について |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 1.栄養の基本(たんぱく質について) 2.症状別栄養(脳卒中について) |
| 学習目標・ポイント | アミノ酸の種類とたんぱく質の特徴が説明できる、脳卒中の種類と管理可能な危険因子について説明できる、高血圧の栄養管理について説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料:脳卒中について |
| 備考 | |
| 11 項 目 | エネルギー及びたんぱく質の摂取量とそのタイミング(3.高齢期、4.スポーツ時、5.リハビリテーション時) |
| 学習目標・ポイント | エネルギー及びたんぱく質(アミノ酸)の摂取量とそのタイミングについて説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料:アスリートのための栄養・食事ガイド、イラスト栄養学総論 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 1.栄養の基本(ミネラル[Ca、P、Mg]について)、2.症状別栄養(骨粗鬆症について) |
| 学習目標・ポイント | Caの体内での特徴、含有食品が説明できる、骨粗鬆症の栄養管理が説明できる |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 1.栄養の基本(ミネラル[Fe、Na、K]について)、2.症状別栄養(貧血、高血圧について) |
| 学習目標・ポイント | Fe、Na、Kの働きと含有食品について説明できる、貧血及び高血圧の栄養管理が説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料:栄養の基本がわかる図解事典 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 1.栄養の基本(ビタミン[脂溶性・水溶性]について)、2.症状別栄養(高尿酸血症、糖尿病について) |
| 学習目標・ポイント | ビタミンの働きと含有食品が説明できる、高尿酸血症及び糖尿病の栄養管理が説明できる |
| 使用する材料 | 教科書、配付資料:栄養の基本がわかる図解事典、アスリートのための栄養・食事ガイド |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 4.スポーツ栄養(調整期、試合前・直後の食事、水分摂取について) |
| 学習目標・ポイント | 調整期、試合前・直後の食事について説明できる、水分摂取の方法について説明できる。 |
| 使用する材料 | 配付資料:アスリートのための栄養・食事ガイド |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 解剖学 I (骨学) |
| 担 当 教 員 | 佐加良 英治 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 解剖学 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2 (30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 解剖学は、医療を志す者にとっては必須の学問であり、とりわけ柔道整復師には最も重要な科目のひとつである。本講義は運動器の中核をなす骨関節系について学習し、柔道整復師に必要な骨、関節、靭帯の構造を理解する。 |
| 到 達 目 標 | 骨・軟骨・関節・靭帯の構造を説明できる。 頭部・顔面の骨の構成を説明できる。 四肢の骨・関節を列挙し、骨の配置を図示できる。 椎骨の構造と脊柱の構成を説明できる。 骨盤の構成と性差を説明できる。 胸郭の構成と機能を説明できる。 骨の発生と成長について概説できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行うことを原則とする。ただし、必要に応じてレポート等を課し、その評価を単位認定試験評価に加えることがある。加える評価割合はレポートの内容と回数により異なる。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 イヤホン、ヘッドフォン等を着用したままの受講を禁止する。 講義と無関係なスマートフォン等の操作を禁止する。 解剖学では多くの専門用語を用いるので、その用語になれるためにも講義前にシラバスに従い教科書の通読等の予習を行うことを推奨する。 詳細なアトラスや図が掲載された参考図書を紹介するので、図書室等で併せて予習・復習することを推奨する。 高校までの勉強法と専門教育の勉強方法は異なる。地道に予習復習することが必要である。 詳しくは初回に説明する。 |
| | 1、担当科目における教育上の業績 兵庫医科大学において医学部准教授として勤務。以下の講義等を行った。 2021年4月～7月(兵庫医科大学において講義と演習を実施) 2021年8月～10月(兵庫医科大学において実習を実施) 2021年5月～2022年2月(平成医療学園専門学校で講義を実施) 2021年4月(九州歯科大学においてオンデマンド講義を実施) 2021年8月(九州工業大学大学院生命体工学研究科においてZoomによるリモート講義を実施) 2021年11月～2022年1月(西宮市大学交流協議会共通単位講座においてZoomによるリモート講義を実施) 2018年から2020年は同様の教育業績(liveとリモート)、2007年～2018年は西宮市大学交流協議会共通単位講座以外は同様である。 九州歯科大学において歯学部講師及び助手として勤務。以下の講義等を行った。 2006年～1990年:九州歯科大学において講義と実習、九州工業大学大学院生命体工学研究科(2001年～)において講義、健和看護学院(1990～1998年)、製鉄記念八幡看護専門学校(1997～2006年)、筑豊看護専門学校(2000～2006年)等で講義を実施 解剖学、医学概論、実験動物学、生命科学、自然科学実習、薬理学実習を担当する 2、実務上の業績(臨床経験等) 技術指導員:毎年夏に京都においてスクーリングを実施する(京都大学医学部) 試験官:毎年秋に京都において技術者の実技試験を実施する(京都大学医学部) ただし、2020年と2021年は新型コロナウイルス感染拡大により中止 |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | 運動系 骨格系総論: 役割、分類、構造 |
| 学習目標・ポイント | 骨の役割、分類、基本的構造、役割は物理的な役割と生理的な機能を分けて考える。骨の構造は、何故その様な形であるのかを考える。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p21~23 |
| 2 項 目 | 骨の発生と成長、骨表面の用語 |
| 学習目標・ポイント | 骨の発生と成長を比較し理解する。骨表面の用語の由来を理解し、専門用語になれる。骨の用語は骨格標本で、それぞれの用語の部分に触れて確認する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 24~25 |
| 3 項 目 | 骨の連結、関節の分類 |
| 学習目標・ポイント | 骨の連結、関節の分類と分布を理解する。関節は骨格標本で、構成する骨、連結部位、連結部位の形状、動き等を確認する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p25~28 |
| 4 項 目 | 骨格系各論、脊柱の役割と構成、頸椎 |
| 学習目標・ポイント | 椎骨の基本構造を確認し、その基本構造とは異なる環椎、軸椎、一般頸椎、隆椎の特徴を比較し理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p28~31 |
| 5 項 目 | 胸椎、腰椎、仙骨、尾骨、脊柱の彎曲、脊柱の連結 |
| 学習目標・ポイント | 胸椎、腰椎、仙骨、尾骨の構造の比較、脊柱の彎曲を理解する。重力と脊柱の関係を椎骨のかたち、椎間円板の大きさ、靭帯、彎曲等から考える。首の動きと頭蓋骨の連結を考える。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p31~33 |
| 6 項 目 | 胸郭、胸郭の連結 |
| 学習目標・ポイント | 胸郭を構成する骨を理解する。肋骨と胸骨との連結、胸椎との連結を理解する。呼吸をする時の胸郭の動きを考える。骨格標本を用いて肋骨の走行を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 33~36 |
| 7 項 目 | 上肢骨の構成、肩甲骨、鎖骨、上腕骨 |
| 学習目標・ポイント | 肩甲骨、鎖骨、上腕骨の連結部位、筋肉の付着部を理解する。教科書の本文、図、骨格標本を活用し、骨の特徴、各部位の名称を立体的に頭に入れる。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 36~40 |
| 8 項 目 | 橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨 |
| 学習目標・ポイント | 橈骨、尺骨の連結部位、筋肉の付着部を理解する。教科書の本文、図、骨格標本を活用し、骨の特徴、各部位の名称を立体的に頭に入れる。手根骨、中手骨、指骨の名称とつながりを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 40~42 |
| 9 項 目 | 上肢の関節 |
| 学習目標・ポイント | 上肢の関節の動きと構成、主要靭帯を理解する。各上肢の関節の動作を考えながら人体の役割を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 42~46 |
| 10 項 目 | 下肢骨の構成、寛骨、骨盤 |
| 学習目標・ポイント | 寛骨の部分の名称と筋肉の付着部を理解する。骨盤の構成、性差を理解する。骨盤の性差は骨盤計測と関連づけ、妊娠、分娩と骨盤の関係を考える。筋の付着部は二関節筋の理解が必要である。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 46~50 |
| 11 項 目 | 大腿骨、膝蓋骨、胫骨、 |
| 学習目標・ポイント | 大腿骨と胫骨の部分の名称と筋肉の付着部を理解する。筋の付着部は二関節筋の理解が必要である。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 50~52 |
| 12 項 目 | 腓骨、足根骨、中足骨、縦足弓、横足弓 |
| 学習目標・ポイント | 下肢の骨の主要な筋の付着部を理解する。足の骨の連結を理解する。足根骨と足弓は教科書の本文、図、骨格標本を活用し立体的に理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 52~55 |
| 13 項 目 | 下肢の関節 |
| 学習目標・ポイント | 下肢の関節の構成と分類を理解する。下肢の関節の補助装置、靭帯を理解する。下肢関節の主要靭帯の理解が重要。関節の動き(可動域)と関連づける。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 55~59 |
| 14 項 目 | 脳頭蓋の構成、顔面頭蓋の構成 |
| 学習目標・ポイント | 脳頭蓋、顔面頭蓋を構成する骨と数、主要部分の名称を理解する。それぞれの骨の連結を教科書の本文、図、骨格標本を活用し立体的に理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 59~64 |
| 15 項 目 | 頭蓋冠、頭蓋底、頭蓋前面、泉門、顎関節 |
| 学習目標・ポイント | 頭蓋冠、内頭蓋底、外頭蓋底、眼窩、鼻腔、副鼻腔、側頭部、泉門、顎関節を理解する。頭蓋にある穴、管、孔等にどのようなものが通るか、どのような骨の部分で構成されるかを確認する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 64~70 |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 解剖学Ⅱ(筋学) |
| 担 当 教 員 | 佐加良 英治 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 解剖学Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 解剖学は、医療を志す者にとっては必須の学問であり、とりわけ柔道整復師には最も重要な科目のひとつである。本講義はその解剖学の運動器の中核をなす筋系について学習し、柔道整復師に必要な筋肉の構造、作用、起始と停止、支配神経を理解する。 |
| 到 達 目 標 | 骨格筋の作用について説明できる。 四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。 姿勢と体幹の運動にかかわる筋群を概説できる。 呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる。 表情筋、咀嚼と嚥下の運動にかかわる筋群を概説できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行うことを原則とする。ただし、必要に応じてレポート等を課し、その評価を単位認定試験評価に加えることがある。加える評価割合はレポートの内容と回数により異なる。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 イヤホン、ヘッドフォン等を着用したままの受講を禁止する。 講義と無関係なスマートフォン等の操作を禁止する。 解剖学では多くの専門用語を用いるので、その用語になれるためにも講義前にシラバスに従い教科書の通読等の予習を行うことを推奨する。 詳細なアトラスや図が掲載された参考図書を紹介するので、図書室等で併せて予習・復習することを推奨する。 高校までの勉強法と専門教育の勉強方法は異なる。地道に予習復習することが必要である。 詳しくは初回に説明する。 (1400文字以内) |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 兵庫医科大学において医学部准教授として勤務。以下の講義等を行った。 2021年4月～7月(兵庫医科大学において講義と演習を実施) 2020年8月～10月、3月(兵庫医科大学において実習を実施) 2021年8月～10月(兵庫医科大学において実習を実施) 2021年5月～2022年2月(平成医療学園専門学校で講義を実施) 2021年4月(九州歯科大学においてオンデマンド講義を実施) 2021年8月(九州工業大学大学院生命体工学研究科においてZoomによるリモート講義を実施) 2021年11月～2022年1月(西宮市大学交流協議会共通単位講座においてZoomによるリモート講義を実施) 2018年から2020年は同様の教育業績(liveとリモート)、2007年～2018年は西宮市大学交流協議会共通単位講座以外は同様である。 九州歯科大学において歯学部講師及び助手として勤務。以下の講義等を行った。 2006年～1990年:九州歯科大学において講義と実習、九州工業大学大学院生命体工学研究科(2001年～)において講義、健和看護学院(1990～1998年)、製鉄記念八幡看護専門学校(1997～2006年)、筑豊看護専門学校(2000～2006年)等で講義を実施 解剖学、医学概論、実験動物学、生命科学、自然科学実習、薬理学実習を担当する 2、実務上の業績(臨床経験等) 技術指導員:毎年夏に京都においてスクーリングを実施する(京都大学医学部) 試験官:毎年秋に京都において技術者の実技試験を実施する(京都大学医学部) ただし、2020年と2021年は新型コロナウイルス感染拡大により中止 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 筋学総論:筋の形態と作用、筋の補助装置、筋の神経 |
| 学習目標・ポイント | 筋の基本構造と作用を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p70~76 |
| 2 項 目 | 筋学各論:表情筋、咀嚼筋 |
| 学習目標・ポイント | 主な表情筋の作用と神経支配を理解する。咀嚼筋の作用、付着部、神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 76~78 |
| 3 項 目 | 筋学各論:浅頸筋、外側頸筋、前頸筋、後頸筋、頸部の三角 |
| 学習目標・ポイント | 主な頸部の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。頸部の三角の構成を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p78~81 |
| 4 項 目 | 筋学各論:浅胸筋、深胸筋、横隔膜、呼吸運動 |
| 学習目標・ポイント | 主な胸部の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。呼吸筋、補助呼吸筋を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p81~84 |
| 5 項 目 | 筋学各論:前腹筋、側腹筋、後腹筋、膣径管 |
| 学習目標・ポイント | 主な腹部の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。膣径管の構成と通過物を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 85~88 |
| 6 項 目 | 筋学各論:浅背筋、深背筋 |
| 学習目標・ポイント | 主な背部の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 88~92 |
| 7 項 目 | 筋学各論:上肢帯の筋、回旋筋腱板 |
| 学習目標・ポイント | 上肢帯の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。回旋筋腱板の構成と作用を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 92~95 |
| 8 項 目 | 筋学各論:上腕の屈筋、上腕の伸筋 |
| 学習目標・ポイント | 上腕の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 95~97 |
| 9 項 目 | 筋学各論:前腕の屈筋、屈筋支帯、手根管 |
| 学習目標・ポイント | 前腕の屈筋の作用、付着部、神経支配を理解する。屈筋支帯、手根管の構造を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 97~100 |
| 10 項 目 | 筋学各論:前腕の伸筋、伸筋支帯 |
| 学習目標・ポイント | 前腕の伸筋の作用、付着部、神経支配を理解する。伸筋支帯の構造を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 100~102 |
| 11 項 目 | 筋学各論:母指球筋、小指球筋、中手筋 |
| 学習目標・ポイント | 主要な手の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 102~107 |
| 12 項 目 | 筋学各論:内寛骨筋、外寛骨筋、筋裂孔、血管裂孔 |
| 学習目標・ポイント | 主要な下肢帯の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。筋裂孔、血管裂孔を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 107~111 |
| 13 項 目 | 筋学各論:大腿の伸筋群、屈筋群、内転筋群、鷲足 |
| 学習目標・ポイント | 主要な大腿の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 111~114 |
| 14 項 目 | 筋学各論:下腿の伸筋群、腓骨筋群、屈筋群 |
| 学習目標・ポイント | 主要な下腿の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 114~118 |
| 15 項 目 | 筋学各論:足背の筋、母指球筋、小指球筋、中足筋 |
| 学習目標・ポイント | 主要な足の筋の作用、付着部、神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p 118~122 |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 解剖学Ⅳ(神経) |
| 担 当 教 員 | 佐加良 英治 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 解剖学Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 解剖学は、医療を志す者にとっては必須の学問であり、とりわけ柔道整復師には最も重要な科目のひとつである。本講義は諸器官を調整する神経系について学習し、基本的な神経系の構造と機能を把握する。併せて、主要な脳神経障害についても学習し、神経系の重要性を理解する。 |
| 到 達 目 標 | 中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。 髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環を説明できる。 大脳、小脳、脳幹、脊髄の構造、機能局在、伝導路を説明できる。 上位運動ニューロンと下位運動ニューロンを比較できる。 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。 脊髄神経と神経叢の構成および主な骨格筋支配と皮膚分布を概説できる。 交感神経と副交感神経の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行うことを原則とする。ただし、必要に応じてレポート等を課し、その評価を単位認定試験評価に加えることがある。加える評価割合はレポートの内容と回数により異なる。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 イヤホン、ヘッドフォン等を着用したままの受講を禁止する。 講義と無関係なスマートフォン等の操作を禁止する。 解剖学では多くの専門用語を用いるので、その用語になれるためにも講義前にシラバスに従い教科書の通読等の予習を行うことを推奨する。 詳細なアトラスや図が掲載された参考図書を紹介するので、図書室等で併せて予習・復習することを推奨する。 高校までの勉強法と専門教育の勉強方法は異なる。地道に予習復習することが必要である。 |
| 教育・実務業績 | (1400文字以内) 1、担当科目における教育上の業績 兵庫医科大学において医学部准教授として勤務。以下の講義等を行った。 2021年4月～7月(兵庫医科大学において講義と演習を実施) 2021年8月～10月(兵庫医科大学において実習を実施) 2021年5月～2022年2月(平成医療学園専門学校で講義を実施) 2021年4月(九州歯科大学においてオンデマンド講義を実施) 2021年8月(九州工業大学大学院生命体工学研究科においてZoomによるリモート講義を実施) 2021年11月～2022年1月(西宮市大学交流協議会共通単位講座においてZoomによるリモート講義を実施) 2018年から2020年は同様の教育業績(liveとリモート)、2007年～2018年は西宮市大学交流協議会共通単位講座以外は同様である。 九州歯科大学において歯学部講師及び助手として勤務。以下の講義等を行った。 2006年～1990年:九州歯科大学において講義と実習、九州工業大学大学院生命体工学研究科(2001年～)において講義、健和看護学院(1990～1998年)、製鉄記念八幡看護専門学校(1997～2006年)、筑豊看護専門学校(2000～2006年)等で講義を実施 解剖学、医学概論、実験動物学、生命科学、自然科学実習、薬理学実習を担当する 2、実務上の業績(臨床経験等) 技術指導員:毎年夏に京都においてスクーリングを実施する(京都大学医学部) 試験官:毎年秋に京都において技術者の実技試験を実施する(京都大学医学部) ただし、2020年と2021年は新型コロナウイルス感染拡大により中止 |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | A. 神経系の基礎1 |
| 学習目標・ポイント | 神経系の区分と特徴、神経組織の構造と機能を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p217~220 |
| 2 項 目 | A. 神経系の基礎2 |
| 学習目標・ポイント | 灰白質、白質、神経節、根、中枢神経系の区分、脳室系、髄膜と脳脊髄液の構造と機能を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p220~223 |
| 3 項 目 | B. 脳1 |
| 学習目標・ポイント | 【1】各部の形態と機能 a. 終脳(大脳半球)の構造と機能を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p223~226 |
| 4 項 目 | B. 脳2 |
| 学習目標・ポイント | 【1】各部の形態と機能 b. 間脳、c. 中脳、橋、延髄、d. 小脳の構造と機能を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p226~230 |
| 5 項 目 | C. 脊髄1 |
| 学習目標・ポイント | 【1】脊髄の区分を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p230~233 |
| 6 項 目 | C. 脊髄2 |
| 学習目標・ポイント | 【2】伝導路 a. 反射路(反射弓)、b. 上行性伝導路(感覚性伝導路)を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p233~235 |
| 7 項 目 | C. 脊髄3 |
| 学習目標・ポイント | 【2】伝導路 c. 下行性伝導路を理解する。運動ニューロンにおいては上位と下位を比較する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p236~238 |
| 8 項 目 | D. 末梢神経 【1】脳神経1 |
| 学習目標・ポイント | a. 嗅神経、b. 視神経、c. 動眼神経 d. 滑車神経 e. 三叉神経の走行と機能を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p238~241 |
| 9 項 目 | D. 末梢神経 【1】脳神経2 |
| 学習目標・ポイント | f. 外転神経、g. 顔面神経、h. 内耳神経の走行と機能を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p242~243 |
| 10 項 目 | D. 末梢神経 【1】脳神経3 |
| 学習目標・ポイント | i. 舌咽神経、j. 迷走神経 k. 副神経、l. 舌下神経の走行と機能を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p243~245 |
| 11 項 目 | D. 末梢神経 【2】脊髄神経1 |
| 学習目標・ポイント | a. 脊髄神経後枝、b. 頸神経叢から分枝する主要な神経を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p245~247 |
| 12 項 目 | D. 末梢神経 【2】脊髄神経2 |
| 学習目標・ポイント | c. 腕神経叢の構成と分枝する主要な神経を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p247~250 |
| 13 項 目 | D. 末梢神経 【2】脊髄神経3 |
| 学習目標・ポイント | d. 胸神経、e. 腰神経叢の構成と分枝する主要な神経を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p250~252 |
| 14 項 目 | D. 末梢神経 【2】脊髄神経4 |
| 学習目標・ポイント | f. 仙骨神経叢の構成と分枝する主要な神経を理解する。g. 陰部神経叢、h. 尾骨神経(Co)、i. デルマトームを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p252~256 |
| 15 項 目 | D. 末梢神経 【3】自律神経系 |
| 学習目標・ポイント | 交感神経と副交感神経の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p256~259 |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 解剖学Ⅴ(脈管) |
| 担 当 教 員 | 佐加良 英治 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 解剖学Ⅳ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 解剖学は、医療を志す者にとっては必須の学問であり、とりわけ柔道整復師には最も重要な科目のひとつである。本講義は循環器系を構成する心臓、脈管系の構造を学習する。併せて、主要な循環障害についても学習し、循環器系の重要性を理解する。 |
| 到 達 目 標 | 心臓の構造と分布血管等、刺激伝導系を説明できる。 体循環、肺循環と胎児循環を説明できる。 大動脈の分布域を説明できる。 頭頸部と四肢の主な動脈を示し、分布域を概説できる。 主な静脈を示し、門脈系と大静脈系の吻合部を説明できる。 リンパ領域と脾臓、胸腺、リンパ節の構造を概説できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行うことを原則とする。ただし、必要に応じてレポート等を課し、その評価を単位認定試験評価に加えることがある。加える評価割合はレポートの内容と回数により異なる。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 イヤホン、ヘッドフォン等を着用したままの受講を禁止する。 講義と無関係なスマートフォン等の操作を禁止する。 解剖学では多くの専門用語を用いるので、その用語になれるためにも講義前にシラバスに従い教科書の通読等の予習を行うことを推奨する。 詳細なアトラスや図が掲載された参考図書を紹介するので、図書室等で併せて予習・復習することを推奨する。 高校までの勉強法と専門教育の勉強方法は異なる。地道に予習復習することが必要である。 |
| 教育・実務業績 | (1400文字以内) 1、担当科目における教育上の業績 兵庫医科大学において医学部准教授として勤務。以下の講義等を行った。 2021年4月～7月(兵庫医科大学において講義と演習を実施) 2021年8月～10月(兵庫医科大学において実習を実施) 2021年5月～2022年2月(平成医療学園専門学校で講義を実施) 2021年4月(九州歯科大学においてオンデマンド講義を実施) 2021年8月(九州工業大学大学院生命体工学研究科においてZoomによるリモート講義を実施) 2021年11月～2022年1月(西宮市大学交流協議会共通単位講座においてZoomによるリモート講義を実施) 2018年から2020年は同様の教育業績(liveとリモート)、2007年～2018年は西宮市大学交流協議会共通単位講座以外は同様である。 九州歯科大学において歯学部講師及び助手として勤務。以下の講義等を行った。 2006年～1990年:九州歯科大学において講義と実習、九州工業大学大学院生命体工学研究科(2001年～)において講義、健和看護学院(1990～1998年)、製鉄記念八幡看護専門学校(1997～2006年)、筑豊看護専門学校(2000～2006年)等で講義を実施 解剖学、医学概論、実験動物学、生命科学、自然科学実習、薬理学実習を担当する 2、実務上の業績(臨床経験等) 技術指導員:毎年夏に京都においてスクーリングを実施する(京都大学医学部) 試験官:毎年秋に京都において技術者の実技試験を実施する(京都大学医学部) ただし、2020年と2021年は新型コロナウイルス感染拡大により中止 |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | 脈管系(循環器系)総論 |
| 学習目標・ポイント | 体循環と肺循環を理解する。血管の形態と構造を理解する。血管の名称の定義と基本構造を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p123~126 |
| 2 項 目 | 心臓1 |
| 学習目標・ポイント | 心臓の位置、形態、構造、弁を理解する。胸腔内における心臓の位置を把握する。動脈弁と房室弁の構造上の違いを認識する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p127~129 |
| 3 項 目 | 心臓2 |
| 学習目標・ポイント | 心臓壁の構造、刺激伝導系、心臓の脈管と神経、心膜を理解する。心臓がポンプとしての役割を果たすメカニズムを理解する。冠状動脈の走行と支配、虚血性心疾患について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p130~133 |
| 4 項 目 | 肺循環、上行大動脈、大動脈弓、下行大動脈 |
| 学習目標・ポイント | 肺循環を理解する。大動脈の走行と大動脈弓からの動脈の分岐を理解する。肺循環と体循環の違いを把握する。大動脈弓から分岐する動脈を確認する。臓側枝、壁側枝の違いを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p133~134 |
| 5 項 目 | 頭部、頸部の動脈1 |
| 学習目標・ポイント | 腕頭動脈、総頸動脈、外頸動脈、内頸動脈、大脳動脈輪を理解する。それぞれの動脈の枝の灌流領域を追う。終枝となる動脈、拍動触知部位に注意。頸動脈洞・頸動脈小体の違いを把握。脳血管障害と関連血管を把握する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p135~136 |
| 6 項 目 | 頭部・頸部の動脈2、上肢帯の動脈 |
| 学習目標・ポイント | 鎖骨下動脈とその枝、腋窩動脈とその枝を理解する。椎骨動脈、内胸動脈、肋頸動脈の走行に注意する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p137~139 |
| 7 項 目 | 上腕、前腕、手の動脈、胸大動脈 |
| 学習目標・ポイント | 上腕動脈、橈骨動脈、尺骨動脈とそれらの枝を理解する。胸大動脈の臓側枝と壁側枝を理解する。上肢の動脈の灌流領域と終枝、拍動触知部位に注意。臓側枝と壁側枝の違いを明確に。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p139~140 |
| 8 項 目 | 腹大動脈 |
| 学習目標・ポイント | 腹大動脈臓側枝と壁側枝を理解する。臓側枝の本数、各枝の分枝、灌流領域を確認する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p140~142 |
| 9 項 目 | 骨盤部の動脈 |
| 学習目標・ポイント | 総腸骨動脈、外腸骨動脈と内腸骨動脈とそれらの枝を理解する。各枝の分枝、灌流領域を確認する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p142~144 |
| 10 項 目 | 大腿、下腿、足の動脈 |
| 学習目標・ポイント | 大腿動脈、膝窩動脈、前脛骨動脈と後脛骨動脈とそれらの枝を理解する。各枝の分枝、灌流領域を確認する。終枝、拍動触知部位に注意。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p144~145 |
| 11 項 目 | 上大静脈、頭部・頸部の静脈、上肢の静脈、奇静脈系 |
| 学習目標・ポイント | 腕頭静脈の根、頭蓋内の静脈の走行、頸部の皮静脈を理解する。動脈と静脈の走行の違いを確認する。皮静脈の合流部位、奇静脈系の走行に注意。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p145~147 |
| 12 項 目 | 下大静脈、門脈、門脈系の側副循環路、門脈圧亢進症と循環障害を理解する。 |
| 学習目標・ポイント | 下大静脈の臓側根、壁側根の合流、門脈系と大静脈系の吻合を理解する。下大静脈臓側根の合流の左右差、門脈系の領域、側副循環路を確認する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p147~150 |
| 13 項 目 | 骨盤部の静脈、下肢の静脈。下肢静脈瘤、いわゆるエコノミー症候群と肺動脈塞栓症の関係を理解する。 |
| 学習目標・ポイント | 総腸骨静脈、外腸骨静脈、大腿静脈、膝窩静脈、前脛骨静脈、後脛骨静脈、下肢の皮静脈を理解する。総腸骨静脈、大腿静脈の動脈との位置関係を確認する。皮静脈の走行と合流部位に注意する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p150~151 |
| 14 項 目 | 胎児循環 |
| 学習目標・ポイント | 臍動脈、臍静脈、静脈管、動脈管、卵円孔等の胎生期特有の構造と機能を理解する。どの血管に動脈血、混合血、静脈血が流れているか確認する。胎児の成長と胎児循環の関係を把握する。胎盤の役割を確認する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p150~152 |
| 15 項 目 | リンパ系、脾臓、胸腺 |
| 学習目標・ポイント | 組織液とリンパの関係、胸管を経由するリンパの流れ、リンパ性器官を理解する。リンパ循環障害と病態について理解する。リンパ系と静脈の合流点、流入部位、一次リンパ器官、二次リンパ器官の構造を理解する。所属リンパ節と病気の関連を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書(解剖学)、骨格標本、パワーポイントによる講義(スクリーン、暗幕等の準備) |
| 備考 | 教科書:p152~156 |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 動物生理学 I |
| 担 当 教 員 | 佐藤 文彦 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 生理学 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2 (30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 人体の複雑な活動を解析し、生命に関するあらゆる謎を解き明かそうとする学問が生理学である。 |
| 到 達 目 標 | 生理学は正常な生体の機能を学ぶ学問であり、目標としてはプロフェッショナルになるために必要な知識を身につける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 担当科目における教育上の業績 2012年4月1日～(大阪大学において解剖学・組織学講義、実習を実施) 実務上の業績 1、職務の内容 2008年～2009年 臨床研修医 研究業績はresearchmap参照 https://researchmap.jp/d45 |

| | |
|-----------|---------------|
| 1 項 目 | 1 生理学とは |
| 学習目標・ポイント | A細胞の構造と機能 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | (特筆事項) |
| 2 項 目 | 1 生理学の基礎 |
| 学習目標・ポイント | B組織・器官と生体の機能系 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 2 筋の生理 |
| 学習目標・ポイント | A骨格筋 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 2 筋の生理 |
| 学習目標・ポイント | A骨格筋 B心筋 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 2 筋の生理 |
| 学習目標・ポイント | C平滑筋 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 3 神経の生理 |
| 学習目標・ポイント | A神経信号の伝達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 3 神経の生理 |
| 学習目標・ポイント | A神経信号の伝達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 3 神経の生理 |
| 学習目標・ポイント | B神経系の構成 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 3 神経の生理 |
| 学習目標・ポイント | B神経系の構成 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 3 神経の生理 |
| 学習目標・ポイント | C脳の高次機能 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 3 神経の生理 |
| 学習目標・ポイント | D内臓機能の調節 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 3 神経の生理 |
| 学習目標・ポイント | D内臓機能の調節 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 4 運動の生理 |
| 学習目標・ポイント | A運動の調節 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 4 運動の生理 |
| 学習目標・ポイント | B運動神経と運動単位 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 4 運動の生理 |
| 学習目標・ポイント | C脊髄による反射と調節 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 動物生理学Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 佐藤 文彦 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 生理学Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 人体の複雑な活動を解析し、生命に関するあらゆる謎を解き明かそうとする学問が生理学である。 |
| 到 達 目 標 | 生理学は正常な生体の機能を学ぶ学問であり、目標としてはプロフェッショナルになるために必要な知識を身につける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 担当科目における教育上の業績 2012年4月1日～(大阪大学において解剖学・組織学講義、実習を実施) 実務上の業績 1、職務の内容 2008年～2009年 臨床研修医 研究業績はresearchmap参照 https://researchmap.jp/d45 |

| | |
|-----------|---------------|
| 1 項 目 | 4 運動の生理 |
| 学習目標・ポイント | C脊髄による反射とその調節 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | (特筆事項) |
| 2 項 目 | 4 運動の生理 |
| 学習目標・ポイント | D脳幹による運動調節 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 4 運動の生理 |
| 学習目標・ポイント | E高次運動機能 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 5 感覚の生理 |
| 学習目標・ポイント | A感覚の一般的な特性 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 5 感覚の生理 |
| 学習目標・ポイント | B特殊感覚 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 5 感覚の生理 |
| 学習目標・ポイント | B特殊感覚 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 5 感覚の生理 |
| 学習目標・ポイント | C体性感覚 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 5 感覚の生理 |
| 学習目標・ポイント | D内臓感覚 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 5 感覚の生理 |
| 学習目標・ポイント | E痛覚 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 9 骨の生理 |
| 学習目標・ポイント | A骨の構造 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 9 骨の生理 |
| 学習目標・ポイント | B骨の成長 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 9 骨の生理 |
| 学習目標・ポイント | B骨の成長 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 15 体温とその調節 |
| 学習目標・ポイント | A体温 B熱産生 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 15 体温とその調節 |
| 学習目標・ポイント | C熱放散 D体温調節 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 15 体温とその調節 |
| 学習目標・ポイント | E気候馴化 F発熱とうつ熱 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 生理学Ⅲ |
| 担 当 教 員 | 佐藤 文彦/吉田 篤 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 生理学Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 人体の複雑な活動を解析し、生命に関するあらゆる謎を解き明かそうとする学問が生理学である。 |
| 到 達 目 標 | 生理学は正常な生体の機能を学ぶ学問であり、目標としてはプロフェッショナルになるために必要な知識を身につける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 担当科目における教育上の業績 佐藤 文彦 2012年4月1日～(大阪大学において解剖学・組織学講義、実習を実施) 実務上の業績 1、職務の内容 2008年～2009年 臨床研修医 研究業績はresearchmap参照 https://researchmap.jp/d4_5 吉田 篤 大阪大学において解剖学・組織学講義、実習を実施 実務上の業績 1、職務の内容(研究業績はresearchmap参照) https://researchmap.jp/read0014194 |

| | |
|-----------|--------------------------|
| 1 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A細胞、組織の加齢現象 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A細胞、組織の加齢現象 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A細胞、組織の加齢現象 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B高齢者の生理的特徴 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B高齢者の生理的特徴 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B高齢者の生理的特徴 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | C運動と加齢 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | C運動と加齢 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B競技者の生理的特徴・変化 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B競技者の生理的特徴・変化 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 生理学Ⅲ |
| 担 当 教 員 | 吉田 篤 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 生理学Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 人体の複雑な活動を解析し、生命に関するあらゆる謎を解き明かそうとする学問が生理学である。 |
| 到 達 目 標 | 生理学は正常な生体の機能を学ぶ学問であり、目標としてはプロフェッショナルになるために必要な知識を身につける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 担当科目における教育上の業績(1400文字以内) 大阪大学において解剖学・組織学講義、実習を実施 実務上の業績 1、職務の内容(研究業績はresearchmap参照) https://researchmap.jp/read0014194 |

| | |
|-----------|--------------------------|
| 1 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A細胞、組織の加齢現象 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A細胞、組織の加齢現象 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A細胞、組織の加齢現象 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B高齢者の生理的特徴 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B高齢者の生理的特徴 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B高齢者の生理的特徴 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | C運動と加齢 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 16 高齢者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | C運動と加齢 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | A成長に伴うからだや運動能力の発達 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B競技者の生理的特徴・変化 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化 |
| 学習目標・ポイント | B競技者の生理的特徴・変化 |
| 使用する材料 | テキスト |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 運動学 I |
| 担 当 教 員 | 甲斐 義浩 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 運動学 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2 (30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間 I 部 ・ 昼間 II 部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 身体運動を理解するために必要な力学、骨・関節・筋・神経系を中心とした運動器の構造と機能を教授し、その上で、上肢、下肢および体幹の各部位における運動学について説明する。 |
| 到 達 目 標 | 1. 四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について理解できる。 2. 運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で70%、小テスト30%を合わせて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 授業の進行を妨げる行為(私語、携帯電話の使用など)や、受講態度に明らかな問題がある場合(うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など)は受講をお断りします。 |
| 教育・実務業績 | 平成24年4月:京都橘大学 健康科学部 理学療法学科 准教授(現在に至る) 運動学、運動学演習、臨床運動学演習、運動生理学演習、動作分析学演習などを担当 平成24年4月:平成医療学園専門学校柔道整復師学科 非常勤講師(現在に至る) 運動学を担当 |

| | | |
|-----------|---|----------------------------|
| 1 項 | 目 | オリエンテーション、運動学総論 |
| 学習目標・ポイント | | 学習方法の導入。基本姿勢および運動の面と軸を理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | |
| 2 項 | 目 | 身体運動と力学1 |
| 学習目標・ポイント | | 物体に作用する力について理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 3 項 | 目 | 身体運動と力学2 |
| 学習目標・ポイント | | 運動の法則、仕事と力学的エネルギーについて理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 4 項 | 目 | 運動器の構造と機能1(骨・関節) |
| 学習目標・ポイント | | 骨関節の構造を理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 5 項 | 目 | 運動器の構造と機能2(骨格筋) |
| 学習目標・ポイント | | 筋の構造を理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 6 項 | 目 | 神経の構造と機能1 |
| 学習目標・ポイント | | 神経の構造と機能を理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 7 項 | 目 | 運動感覚 |
| 学習目標・ポイント | | 運動制御について理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 8 項 | 目 | 反射と随意運動 |
| 学習目標・ポイント | | 随意的な運動と反射について理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 9 項 | 目 | 四肢と体幹の運動1 |
| 学習目標・ポイント | | 上肢帯の運動について理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 10 項 | 目 | 四肢と体幹の運動2 |
| 学習目標・ポイント | | 肩甲上腕関節の運動について理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 11 項 | 目 | 四肢と体幹の運動3 |
| 学習目標・ポイント | | 肩甲胸郭関節の運動について理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 12 項 | 目 | 四肢と体幹の運動4 |
| 学習目標・ポイント | | 肘関節と前腕の運動について理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 13 項 | 目 | 四肢と体幹の運動5 |
| 学習目標・ポイント | | 手関節の運動について理解する① |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 14 項 | 目 | 四肢と体幹の運動6 |
| 学習目標・ポイント | | 手部の運動について理解する② |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |
| 15 項 | 目 | 四肢と体幹の運動7 |
| 学習目標・ポイント | | 股関節の運動について理解する |
| 使用する材料 | | 運動学テキスト |
| 備考 | | 確認テストの実施 |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 病理学 I |
| 担 当 教 員 | 福田 康夫 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 病理学概論 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 病理学総論の講義を通じて、ヒトの各種疾患の種類と成り立ちを理解する。また、国家試験問題に対処できるだけの知識を身に付ける。講義は医歯薬出版の病理学概論の教科書に準じて進め、必要な部分は随時補足説明を行う。 |
| 到 達 目 標 | ヒトに生じる各種疾患を病理学的観点から説明できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | (1400文字以内) 1、担当科目における教育上の業績 (どのような職務に就いて、どのような分野・科目の教育を行ったのか) 2003年より平成医療学園において病理学概論の講義を行ってきた。 また2004年から大阪大学歯学部において検査診断学の講義を行ってきている。 また2004年から大阪大学歯学部において検査診断学の講義を行ってきている。 2、実務上の業績(臨床経験等) ※業績がない場合は記入不要です。 1983年8月 大阪大学歯学部附属病院医員 1991年6月 大阪大学歯学部附属病院助手 2007年4月 大阪大学歯学部附属病院助教 2008年11月 大阪大学歯学部附属病院講師 1991年6月 大阪大学歯学部附属病院助手 2007年4月 大阪大学歯学部附属病院助教 2008年11月 大阪大学歯学部附属病院講師 上記経歴の全てにおいて、口腔病変の病理診断にたずさわってきた。 |

| | | |
|-----------|---|-----------------------------|
| 1 項 | 目 | 第1章 病理学とはどのような学問か 第2章 疾病の一般 |
| 学習目標・ポイント | | 病理学の役割を理解する |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 2 項 | 目 | 第2章 疾病の一般 第3章 細胞障害 |
| 学習目標・ポイント | | 障害による退行性病変 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 3 項 | 目 | 第3章 細胞障害 |
| 学習目標・ポイント | | 代謝障害と疾病 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 4 項 | 目 | 第4章 循環障害 |
| 学習目標・ポイント | | 循環障害による各種病変 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 5 項 | 目 | 第4章 循環障害 |
| 学習目標・ポイント | | 循環障害による各種病変 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 6 項 | 目 | 第4章 循環障害 |
| 学習目標・ポイント | | 循環障害による各種病変 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 7 項 | 目 | 第4章 循環障害 |
| 学習目標・ポイント | | 循環障害による各種病変 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 8 項 | 目 | 第5章 進行性病変 |
| 学習目標・ポイント | | 進行性病変、再生、化生 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 9 項 | 目 | 第5章 進行性病変 |
| 学習目標・ポイント | | 創傷治癒、移植 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 10 項 | 目 | 第6章 炎症 |
| 学習目標・ポイント | | 炎症の一般、形態 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 11 項 | 目 | 第6章 炎症 |
| 学習目標・ポイント | | 滲出性炎 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 12 項 | 目 | 第6章 炎症 |
| 学習目標・ポイント | | 滲出性炎 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 13 項 | 目 | 第6章 炎症 |
| 学習目標・ポイント | | 滲出性炎、増殖性炎 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 14 項 | 目 | 第6章 炎症 |
| 学習目標・ポイント | | 特異性炎 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 15 項 | 目 | 第6章 炎症 |
| 学習目標・ポイント | | 特異性炎 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 一般臨床医学 I |
| 担 当 教 員 | 春山 勝 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 一般臨床医学 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 本講義では一般臨床医学について、前期15回、後期15回で解説する。講義では柔道整復師として実臨床に必要な内科学の知識について、単なる暗記ではなく、解剖学、生理学および病理学と関連させて解説する。 |
| 到 達 目 標 | 一般臨床医学について国家試験の既出問題を確実に解くことができ、さらに主な内科疾患の病態生理について自分の言葉で説明できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 一般臨床医学は範囲が広く国試での出題数も多い教科である。教科書を丹念に読み込むことも国試対策としては有効だが、それよりもこれまでに国試に出題されたテーマに絞ってキーワードを覚えてしまう事の方が効率的な勉強法と考えられる。私の国試問題的中率は下記のように毎年85%以上であり、私が出るといったところは確実に中率が出ている。それをまとめたのが「2023年版国家試験対策 一般臨床確認事項集」であり、これを全て覚えてしまう事、さらに私が作成したオリジナルの問題集である「2023年版 一般臨床医学 新規作成問題集」を繰り返し解くことで国試では8割は取れる。一般臨床医学は深い問題は出題されないの、キーワードをとにかく覚えてしまうことが重要である。 |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 平成4年10月～平成11年3月 東京都立医療技術短期大学 非常勤講師 (老年看護学) 平成17年3月～平成23年9月 大川学園医療福祉専門学校 非常勤講師(一般臨床医学) 平成24年4月～令和2年2月 福島医療専門学校 非常勤講師(一般臨床医学) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 柔道整復学科 教授 第28回 柔道整復師国家試験 一般臨床医学 的中率 20/22題 90.9% 第29回 柔道整復師国家試験 一般臨床医学 的中率 19/22題 86.3% 第30回 柔道整復師国家試験 一般臨床医学 的中率 21/22題 95.4% 2、実務上の業績(臨床経験等) 昭和58年6月～平成7年6月 日本医科大学付属病院 老人科 平成7年7月～平成20年2月 春山内科医院 院長 平成10年1月～平成18年5月 全日本オステオパシー協会 会員 平成13年11月～平成19年6月 米国American Academy of Osteopathy 会員 平成18年6月～平成23年6月 日本クラシカルオステオパシー協会会長 平成20年3月～令和2年1月まで 薬剤を処方せず手技療法のみによる春山クリニック 院長 平成20年3月～現在 英国Institute of Classical Osteopathy 会員 平成2年9月 日本内科学会認定内科医 平成5年4月 日本老年医学会認定老年病専門医 平成29年9月 日本老年医学会 指導医 |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | オリエンテーション 内科診断学① |
| 学習目標・ポイント | 一般臨床の国試対策の解説 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | なし |
| 2 項 目 | 内科診断学② 心肺所見 |
| 学習目標・ポイント | 一般的な打診、聴診、生命兆候等の理解 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 内科診断学③ 神経学的所見 |
| 学習目標・ポイント | 感覚、反射検査など診断学上の重要な点についての理解 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 呼吸器① 呼吸の生理学、肺感染症、間質性肺炎、肺結核 |
| 学習目標・ポイント | 呼吸のパターン、年齢による差、気道感染症の特徴、肺結核についての理解 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 呼吸器② 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺塞栓症、肺腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | 特徴的な呼吸、口すぼめ呼吸、慢性閉塞性肺疾患の実際、肺腫瘍の症状 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 呼吸器③ 自然気胸、緊張性気胸 |
| 学習目標・ポイント | 自然気胸、緊張性気胸、フレイルチェスト、動揺胸郭の実際 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 循環器① 総論 心電図の実際、虚血性心疾患 |
| 学習目標・ポイント | 心電図での各波の意味、虚血性心疾患の実際と診断、治療、注意点 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 循環器② 先天性心疾患、高血圧、不整脈 |
| 学習目標・ポイント | 弁膜症の特徴、右→左シャントとは、高血圧症の実際、危険な不整脈 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 循環器③ リンパ、脈圧 |
| 学習目標・ポイント | リンパ節とリンパ管の解剖学および生理学的な特徴、効果的なリンパマッサージとは、脈 |
| 使用する材料 | 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 消化器① 食道、胃、消化管ホルモン、消化酵素 |
| 学習目標・ポイント | 逆流性食道炎、食道静脈瘤、胃炎、胃潰瘍、胃癌の実際、消化管ホルモン |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 消化器② 腸疾患 潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸癌 |
| 学習目標・ポイント | 小腸の特徴、バリエル板とは、大腸粘膜の特徴、大腸疾患の臨床的なポイント |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 肝・胆・膵① 急性肝炎、慢性肝炎、肝細胞癌 |
| 学習目標・ポイント | 各急性肝炎の特徴、慢性肝炎と肝硬変の差、肝細胞癌 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 肝・胆・膵② 胆石・胆嚢炎、膵炎、腹膜疾患 |
| 学習目標・ポイント | 胆石症の特徴、急性膵炎、慢性膵炎の臨床的特徴 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 代謝・栄養疾患 糖尿病、高脂血症、痛風 |
| 学習目標・ポイント | 糖尿病の診断、症状、合併症および治療の実際について |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 内分泌① 下垂体機能障害、甲状腺機能亢進症、橋本病 |
| 学習目標・ポイント | 下垂体前葉ホルモンと後葉ホルモン、ネガティブフィードバックとは |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら. 一般臨床医学. 医歯薬出版. 資料配布. パワーポイントファイルの供覧 |
| 備考 | |

| | |
|--|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 外科学 |
| 担 当 教 員 | 堀尾 哲郎 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 外科学概論 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 外科学における範囲、すなわち手術のみではなく周術期(術前・術後)の管理を含め、患者の全身・局所の診断・評価が重要であることを理解する。観血的処置を行うにあたって、個々の疾患を知ることと同時に、局所の観血的処置が必要であること、また全身的に観血的処置が可能であることの判断が重要である。局所・全身の診断・評価に関わる部分と麻酔、輸血など治療の実際の部分の概略を解説する。 |
| 到 達 目 標 | 医療人として外科的処置および外科的疾患を科学的に理解できるようになる。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 教科書の進行速度が速いことが予想されるので予習・復習が望ましい。 私語は厳禁 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 私の専門は病理学である。病理学を完成させるということは、各基礎医学科目・各臨床科目を会得することを意味する。なぜならば、大学・医療機関においてはCPC(臨床・病理検討会)が行われ、徹底的に病理学的に患者の死因を追求するからである。これに病理側から対応するには前記した各科目の知識が必要となってくる。この学問の経験を生かして、今までに大学医学部・栄養学部においては、病理学実習(病理標本検鏡)、専門学校看護科・理学療法科・作業療法科・柔道整復科・言語聴覚士科においては、基礎系科目では医学概論、解剖学・生理学・薬理学・病理学・生化学等、臨床科目では外科学・整形外科・内科学・神経内科学・耳鼻咽喉科学・眼科学・一般臨床医学等を担当してきた。 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 外科学とは |
| 学習目標・ポイント | 外科学の内容を歴史的推移を踏まえて理解する。特に観血的処置前後の要件の理解 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 損傷、創傷 |
| 学習目標・ポイント | 損傷、創傷が理解でき、治癒過程の正常・異常に対応できるようになる |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 熱傷、炎症と外科感染症 |
| 学習目標・ポイント | 熱傷の重症度を理解し対応ができる。種々の感染症を知り、その対応を理解する |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | 腫瘍の本態が説明ができ、原因、分類、治療を理解する |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | ショック、輸血、輸液 |
| 学習目標・ポイント | ショックの本態と分類・対応の理解。血液・体液の組成と輸血・輸液時の要件が説明できる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 消毒と滅菌、手術 |
| 学習目標・ポイント | 消毒・滅菌を理解し、適切な選択ができるようになる。手術の分類と基本主義が理解できる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 麻酔、移植と免疫 |
| 学習目標・ポイント | 除痛に関する歴史とその種類・対応を知る。移植の種類を知り、現況を理解する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 出血と止血、心肺蘇生法 |
| 学習目標・ポイント | 出血の種類が理解でき、ある程度の止血処置ができる。心肺蘇生の適応を知り、心肺蘇生ができるようになる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 脳外科的疾患、甲状腺・頸部疾患 |
| 学習目標・ポイント | 脳神経疾患、頸部疾患の種類を知り、症状からある程度類推できるようになる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 胸壁・呼吸器疾患、心臓・脈管疾患、乳腺疾患 |
| 学習目標・ポイント | 当該領域の概論と種類が理解できるようになる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 腹部外科疾患 |
| 学習目標・ポイント | 外科的疾患について概論と種類が理解できるようになる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 国家試験対策 |
| 学習目標・ポイント | 外科学概論の過去問題における考え方と傾向を理解し、実際に解いてみる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 試験問題 |
| 13 項 目 | 国家試験対策 |
| 学習目標・ポイント | 外科学概論の過去問題における考え方と傾向を理解し、実際に解いてみる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 試験問題 |
| 14 項 目 | 国家試験対策 |
| 学習目標・ポイント | 外科学概論の過去問題における考え方と傾向を理解し、実際に解いてみる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 試験問題 |
| 15 項 目 | 国家試験対策 |
| 学習目標・ポイント | 外科学概論の過去問題における考え方と傾向を理解し、実際に解いてみる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 試験問題 |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 整形外科学 |
| 担 当 教 員 | 堀尾 哲郎 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 整形外科学 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | ①国家試験の解説。解き方や落とし穴を重点的に説明します。②臨床症例の提示。症例を提示しながら、対応を考えてきます。③頻度の高い疾患の学習。基本的な理論から説明します |
| 到 達 目 標 | ①授業内の学習のみで国家試験70%②症例を通して、表現する力、思考する力を向上させる。③整形外科医1年目レベルの知識を習得する。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。選択問題＋記述問題 自分なりに、テキストとアンダーラインをまとめてください。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 予習は特に必要ありません。 授業予定 第1～5回 国家試験解説 第6回スポーツ外傷 第7回 骨折総論 第8回転子部骨折、頸部骨折 第9回 人工関節 第10回 ハンド(橈骨遠位端骨折) 第11～13回 脊椎 第14、15回 レントゲン |
| 教育・実務業績 | 私の専門は病理学である。病理学を完成させるということは、各基礎医学科目・各臨床科目を会得することを意味する。なぜならば、大学・医療機関においてはCPC(臨床・病理検討会)が行われ、徹底的に病理学的に患者の死因を追求するからである。これに病理側から対応するには前記した各科目の知識が必要となってくる。この学問の経験を生かして、今までに大学医学部・栄養学部においては、病理学実習(病理標本検鏡)、専門学校看護科・理学療法科・作業療法科・柔道整復科・言語聴覚士科においては、基礎系科目では医学概論、解剖学・生理学・薬理学・病理学・生化学等、臨床科目では外科学・整形外科学・内科学・神経内科学・耳鼻咽喉科学・眼科学・一般臨床医学等を担当してきた。 |

| | | |
|-----------|---|------------------------------|
| 1 項 | 目 | 国家試験対策 |
| 学習目標・ポイント | | 国家試験演習に参加する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | 必ず問題を解いて下さい |
| 2 項 | 目 | 国家試験対策 |
| 学習目標・ポイント | | 国家試験演習に参加する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | 必ず問題を解いて下さい |
| 3 項 | 目 | 国家試験対策 |
| 学習目標・ポイント | | 国家試験演習に参加する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | 必ず問題を解いて下さい |
| 4 項 | 目 | 国家試験対策 |
| 学習目標・ポイント | | 国家試験演習に参加する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | 必ず問題を解いて下さい |
| 5 項 | 目 | 国家試験対策 |
| 学習目標・ポイント | | 国家試験演習に参加する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | 必ず問題を解いて下さい |
| 6 項 | 目 | スポーツ外傷 |
| 学習目標・ポイント | | 診断のポイント、手術適応、術式を理解する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |
| 7 項 | 目 | 骨折総論 |
| 学習目標・ポイント | | 骨折手術における、手術の種類とその特性について理解する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |
| 8 項 | 目 | 脛子部骨折、頸部骨折 |
| 学習目標・ポイント | | 脛子部骨折、頸部骨折のそれぞれの術式とポイントを理解する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |
| 9 項 | 目 | 人工関節 |
| 学習目標・ポイント | | 診断のポイント、手術適応、術式を理解する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |
| 10 項 | 目 | ハンド(橈骨遠位端骨折) |
| 学習目標・ポイント | | 診断のポイント、手術適応、術式を理解する |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |
| 11 項 | 目 | 脊椎 |
| 学習目標・ポイント | | 脊椎疾患の診断と治療法、手術方法について |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |
| 12 項 | 目 | 脊椎 |
| 学習目標・ポイント | | 脊椎疾患の診断と治療法、手術方法について |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |
| 13 項 | 目 | 脊椎 |
| 学習目標・ポイント | | 脊椎疾患の診断と治療法、手術方法について |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |
| 14 項 | 目 | レントゲン |
| 学習目標・ポイント | | レントゲンの読影が一定レベルで出来る |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |
| 15 項 | 目 | レントゲン |
| 学習目標・ポイント | | レントゲンの読影が一定レベルで出来る |
| 使用する材料 | | なし |
| 備考 | | なし |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | リハビリテーション I |
| 担 当 教 員 | 横山 茂樹 |
| 科 目 名 (中 項 目) | リハビリテーション医学 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間 I 部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復師の職務上特性からも、リハビリテーションの理念とその概念を理解しておく意義は大きい。本講義では、リハビリテーション医学の総論を理解した上で、実践的なリハビリテーションについて解説する。 |
| 到 達 目 標 | 1. リハビリテーションの概念とその重要性を説明できる。 2. リハビリテーション医学に基づく治療(アプローチ)を説明できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト20%、レポート10%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」III学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 平成2年4月～平成14年3月 長崎大学医療技術短期大学部にて非常勤講師(運動学を担当) 平成10年4月～平成20年3月 山口コ・メディカル学院にて非常勤講師(スポーツリハビリテーションを担当) 平成14年4月～平成18年3月 長崎大学医学部保健学科にて助手 平成14年4月～平成18年3月 長崎市医師会看護専門学校 非常勤講師(リハビリテーション医学を担当) 平成18年4月～平成20年3月 聖隷クリストファー大学准教授(運動学・運動療法学・義肢装具学・他を担当) 平成20年4月～平成23年3月 吉備国際大学教授(スポーツリハビリテーション・運動療法・他を担当) 平成23年4月～現在 京都橘大学 理学療法学科 教授(運動療法・スポーツ障害・他を担当) 平成23年4月～現在 吉備国際大学 非常勤講師 (スポーツリハビリテーションを担当) 2、実務上の業績(臨床経験等) 昭和63年4月～平成14年3月 長崎大学医学部付属病院 理学療法部 理学療法士として勤務 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 1 項 目 | リハビリテーションの概念と歴史 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの定義と理念を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P1-5 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | リハビリテーション医学 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの分類を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P7-14 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | リハビリテーション医学の基礎医学1 |
| 学習目標・ポイント | 運動学の基礎的用語を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P15-22 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | リハビリテーション医学の基礎医学2 |
| 学習目標・ポイント | 関節構造を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P22-32 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | リハビリテーション医学の基礎医学3 |
| 学習目標・ポイント | 運動器障害の病態を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P33-36 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | リハビリテーション医学の基礎医学4 |
| 学習目標・ポイント | 治療方法を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P37-44 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | リハビリテーション医学の基礎医学4 |
| 学習目標・ポイント | 治療方法を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P45-48 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | リハビリテーション医学の評価と診断1 |
| 学習目標・ポイント | 障害の捉え方とその評価法を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P49-52 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | リハビリテーション医学の評価と診断2 |
| 学習目標・ポイント | 障害の捉え方とその評価法を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P52-58 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | リハビリテーション医学の評価と診断3 |
| 学習目標・ポイント | 障害の捉え方とその評価法を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P58-68 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | リハビリテーション医学の評価と診断4 |
| 学習目標・ポイント | 障害の捉え方とその評価法を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P69-82 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | リハビリテーション医学の評価と診断5 |
| 学習目標・ポイント | 障害の捉え方とその評価法を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P82-87 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | リハビリテーションの治療1 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの治療法を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P89-97 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | リハビリテーションの治療2 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの治療法を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーション医学」P98-106 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | まとめ |
| 学習目標・ポイント | 基礎的知識を確認する |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|--|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | リハビリテーション I |
| 担 当 教 員 | 堀江 淳 |
| 科 目 名 (中 項 目) | リハビリテーション医学 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 近年、医療機関でのリハビリテーションのみでなく、対象者の社会背景を考慮した在宅でのリハビリテーションが重要視されるようになってきた。それに伴い、柔道整復師の職務も、対象者の医学的、社会的背景を理解した上で行われることが求められ、リハビリテーションに関する知識が必要となってきた。 |
| 到 達 目 標 | リハビリテーションに関する基礎知識から、実際の対象者を意識した応用的知識、技術の習得を目指す。更に、柔道整復師として、リハビリテーションの視点に立った業務が遂行できるようになる。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 試験90%、授業への参加姿勢10%を内訳とし、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う。 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 担当科目における教育上の業績 平成19年4月～平成23年3月 西九州大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 専任講師として運動生理学、理学療法総合演習、呼吸循環器系理学療法学、呼吸循環器理学療法学実習、呼吸循環器系理学療法学特論、臨床実習Ⅰ・Ⅱ、臨床評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱを担当 平成23年4月～平成25年3月 神戸国際大学リハビリテーション学部理学療法学科 准教授として内部障害理学療法学、内部障害理学療法学実習、モチベーションアッププログラム、リハビリテーション活動演習、研究法セミナー、卒業研究、初期体験実習、臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳを担当 平成25年4月～現在に至る 京都橘大学健康科学部理学療法学科 教授として運動生理学演習、理学療法研究法Ⅰ、理学療法研究法Ⅱ、理学療法総合演習、内部障害系理学療法学基礎演習、内部障害系理学療法学応用演習、ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習、ヘルスプロモーション理学療法学応用演習、理学療法技術学Ⅲ(内部障害)、臨床基礎実習、検査・測定実習、臨床評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ、卒業研究を担当 実務上の業績(臨床経験) 平成2年4月～平成6年3月 洛和会音羽病院リハビリテーションセンター 理学療法士 平成6年4月～平成19年3月 大阪府立羽曳野病院呼吸器科(現:大阪府立はびきの医療センター) 理学療法士 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | リハビリテーションとは |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションという言葉を学習しノーマライゼーションの概念を学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 自立生活とADL、QOL |
| 学習目標・ポイント | 自立生活の獲得とは何か、ADL自立からQOL向上の変換について学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 医学的リハビリテーションとは |
| 学習目標・ポイント | 医学的リハビリテーションの対象、肢体不自由障害、内部障害について学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 障害児者の実態の把握 |
| 学習目標・ポイント | 現代社会における障害児者の数、問題、課題について学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | ICIDHからICFについて |
| 学習目標・ポイント | ICIDH、ICFの理論、概念を学習し、その相違点を理解する。また、具体的分類方法を学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 障害へのアプローチ |
| 学習目標・ポイント | 各障害へのアプローチ方法の概論について学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 運動学と機能解剖 |
| 学習目標・ポイント | 身体計測、関節可動域測定について学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | 実技としてのデモンストレーションを含む |
| 8 項 目 | 小児領域における運動発達評価 |
| 学習目標・ポイント | 粗大運動、微細運動の発達とその評価法について学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | 実技としてのデモンストレーションを含む |
| 9 項 目 | ADL評価法 |
| 学習目標・ポイント | ADL評価法の評価法について、バーセル指数、FIMを中心にその相違点を含め学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 心理評価と認知機能評価 |
| 学習目標・ポイント | 心因性疼痛と軽度認知障害、認知症の概念と評価法を学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 電気生理的検査、画像診断の実際 |
| 学習目標・ポイント | 神経電動検査、筋電図、脳波およびCT、MRIの読解について学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | リハビリテーション障害学1 |
| 学習目標・ポイント | 関節拘縮、関節変形、筋萎縮について学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | リハビリテーション障害学2 |
| 学習目標・ポイント | 神経麻痺、運動失調(協調障害)、高次機能障害について学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | リハビリテーション治療学1 |
| 学習目標・ポイント | 廃用症候群と筋力増強トレーニング、関節拘縮と可動域トレーニングについて学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | 実技としてのデモンストレーションを含む |
| 15 項 目 | リハビリテーション治療学2 |
| 学習目標・ポイント | 中枢神経障害の治療、ADLトレーニングについて学習する |
| 使用する材料 | テキスト、プリント配布 |
| 備考 | 実技としてのデモンストレーションを含む |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 病理学Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 福田 康夫 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 疾病と傷害演習 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 病理学総論の講義を通じて、ヒトの各種疾患の種類と成り立ちを理解する。また、国家試験問題に対処できるだけの知識を身に付ける。講義は医歯薬出版の病理学概論の教科書に準じて進め、必要な部分は随時補足説明を行う。 |
| 到 達 目 標 | ヒトに生じる各種疾患を病理学的観点から説明できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | (1400文字以内) 1、担当科目における教育上の業績 (どのような職務に就いて、どのような分野・科目の教育を行ったのか) 2003年より平成医療学園において病理学概論の講義を行ってきた。 また2004年から大阪大学歯学部において検査診断学の講義を行ってきている。 また2004年から大阪大学歯学部において検査診断学の講義を行ってきている。 2、実務上の業績(臨床経験等) ※業績がない場合は記入不要です。 1983年8月 大阪大学歯学部附属病院医員 1991年6月 大阪大学歯学部附属病院助手 2007年4月 大阪大学歯学部附属病院助教 2008年11月 大阪大学歯学部附属病院講師 1991年6月 大阪大学歯学部附属病院助手 2007年4月 大阪大学歯学部附属病院助教 2008年11月 大阪大学歯学部附属病院講師 上記経歴の全てにおいて、口腔病変の病理診断にたずさわってきた。 |

| | |
|-----------|----------------|
| 1 項 目 | 第7章 免疫異常、アレルギー |
| 学習目標・ポイント | 免疫の仕組み、免疫不全 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 第7章 免疫異常、アレルギー |
| 学習目標・ポイント | 自己免疫疾患 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 第7章 免疫異常、アレルギー |
| 学習目標・ポイント | アレルギー |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 第8章 腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | 腫瘍の形態 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 第8章 腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | 腫瘍の発育 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 第8章 腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | 生体への影響 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 第8章 腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | 癌の原因(外因、内因) |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 第8章 腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | 腫瘍の分類 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 第9章 先天性異常 |
| 学習目標・ポイント | 遺伝子、染色体異常 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 第9章 先天性異常 |
| 学習目標・ポイント | 奇形の原因と種類 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 第10章 病因 |
| 学習目標・ポイント | 内因 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 第10章 病因 |
| 学習目標・ポイント | 内因 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 第10章 病因 |
| 学習目標・ポイント | 栄養障害 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 第10章 病因 |
| 学習目標・ポイント | 物理的外因、化学的外因 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 第10章 病因 |
| 学習目標・ポイント | 生物学的外因 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 医療倫理 |
| 担 当 教 員 | 土岐 明寛 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 保健医療福祉 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(15) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 医療の全体像を歴史、現代の医学と医療倫理の大きな3つの分野に分けて学習する。 柔道整復師の業務に必要な基本的倫理観と患者への対応を身につける。 |
| 到 達 目 標 | 生命倫理においては、高度化した医療のハード面にソフトが追い付かずに我々が従来、経験してきた「生」や「死」に対する概念が大きく変化している。とりわけ医療倫理のあり方も厳しく問われることとなった。現代における医療倫理とは何かを、いくつかのテーマを取り上げて検討し議論し医療人としてどのような意識を持つべきか共に考える。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 授業内評価で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 土岐 明寛 1. 教育上の業績 平成29年4月～令和2年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科専任教員として勤務 令和2年4月～令和3年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科実技主任として勤務 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校において柔道整復師科学科長として勤務し現在に至る 2. 実務上の業績 ①臨床経験 平成15年4月～平成19年3月 鍼灸整骨院で施術補助スタッフとして勤務。 平成19年4月～平成23年7月 鍼灸整骨院や整形外科クリニックのスタッフとして勤務。 平成23年9月～平成24年6月 鍼灸整骨院管理柔整師として開院。 平成24年7月～平成25年3月 鍼灸整骨院で施術スタッフとして勤務。 ②教育経験 平成25年4月～柔道整復師養成施設にて専任教員として勤務し現在に至る。 平成31年4月～令和3年3月 宝塚医療大学 柔道整復学科の非常勤講師として勤務。 令和3年4月～追手門学院大学 基盤教育機構の非常勤講師として勤務し現在に至る。 ③研究歴 平成30年4月～令和3年3月 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員 |

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 1 項 目 | 社会保障制度とその特徴 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 医療保険制度とその特徴 |
| 学習目標・ポイント | 医療保険の目的と意義 |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 医療保険制度とその特徴 |
| 学習目標・ポイント | 医療保険の課題、保険診療 |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 柔道整復師業務における療養費 |
| 学習目標・ポイント | 療養費制度の概要、柔道整療養費 |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 柔道整復師業務における療養費 |
| 学習目標・ポイント | 療養費の算定① |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 柔道整復師業務における療養費 |
| 学習目標・ポイント | 療養費の算定② |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 柔道整復師業務における療養費 |
| 学習目標・ポイント | 療養費の算定③ |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 柔道整復師業務における療養費 |
| 学習目標・ポイント | ケーススタディ① |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 柔道整復師業務における療養費 |
| 学習目標・ポイント | ケーススタディ② |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 職業倫理 |
| 学習目標・ポイント | 医療従事者の職業倫理 |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 職業倫理 |
| 学習目標・ポイント | 柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 職業倫理 |
| 学習目標・ポイント | 柔道整復師の社会的責任と対応 |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 職業倫理 |
| 学習目標・ポイント | 医療における情報と責任 |
| 使用する材料 | 教科書(医歯薬出版【社会保障制度と柔道整復師の職業倫理】)、プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 衛生学 |
| 担 当 教 員 | 山口 敬治 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 衛生学・公衆衛生学 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 病気の予防と健康の保持・増進を図るための科学(衛生学・公衆衛生学)を理解する |
| 到 達 目 標 | 医療の一環を担う柔道整復師が当然身に付けるべき衛生学の知識と実践を習得する |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 内容が多いため、事前に教科書の当該項を読んでおくこと。 プレゼンテーションを多用する。最近の事件などを紹介する。理解を進めるためプリント配布する。 詳しくは最初の講義時に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 1988年10月～1990年9月国際協力事業団専門家 ザンビア大学獣医学部 上級講師 2017年9月～ 大手前大学非常勤講師食品衛生学実習担当 2018年9月～ 大阪調理製菓専門学校非常勤講師 公衆衛生学担当 2、実務上の業績(臨床経験等) 1978年10月～1999年3月北海道保健福祉部職員として、保健所業務、食肉検査所業務を行う 1997年4月～1999年3月国際協力機構派遣専門家 タイ保健省で食品衛生監視指導を行う 1999年5月～2013年3月北海道立衛生研究所において、感染症、食品衛生調査研究業務 2013年7月～2014年3月大阪市任期付き職員として、保健所業務を行う 2014年7月～2015年2月大阪市立大学客員研究員として、細菌学研究業務をおこなう 2015年3月～2016年3月北海道大学特任准教授として国際学生留学関連業務を行う 2016年7月～2017年3月大阪府臨時的職員として公衆衛生研究所ウイルス課勤務 2017年4月～2018年3月大阪健康安全研究所にて臨時職員 感染症・食品衛生検査業務 2020年5月～2020年9月大阪健康安全研究所にて臨時職員 感染症検査業務を行う |

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 1 項 目 | 衛生学・公衆衛生学の成り立ちと健康の概念 |
| 学習目標・ポイント | 公衆衛生の歴史、概要と健康定義、健康指標、衛生統計 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 病気とその予防、感染症その1 |
| 学習目標・ポイント | 感染症が成立する条件、予防法 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 感染症その2 |
| 学習目標・ポイント | 病原体と疾病との関係、院内感染と予防対策 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 消毒 |
| 学習目標・ポイント | 消毒の定義と消毒の応用方法(種病原体と種消毒法の組み合わせ) |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 環境衛生(その1) |
| 学習目標・ポイント | 環境問題と物理的・化学的環境条件(地球規模から身の回りまで) |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 環境衛生(その2) |
| 学習目標・ポイント | 公害: 水質汚濁と大気汚染などと環境基準 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 生活環境と食品衛生(対物保険の概要) |
| 学習目標・ポイント | 上下水道、衣服、住居、ゴミ問題および食品の安全性と食中毒 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 母子保健 |
| 学習目標・ポイント | 母子保健に関する各種指標および母子保健対策の実際 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 学校保健 |
| 学習目標・ポイント | 学校保健の組織と運営形態および保健学習と保健管理 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 産業保健 |
| 学習目標・ポイント | 産業保健の概要、問題点および職業病、労災、健康管理 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 成人と高齢者保健 |
| 学習目標・ポイント | 成人と高齢者の健康および生活習慣病と高齢者福祉 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 精神保健 |
| 学習目標・ポイント | 精神の病気とは何か? および精神障害者の福祉対策 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 地域保健と国際保健 |
| 学習目標・ポイント | 地域の保健活動と問題点国際保健組織の現状(WHOの活動など) |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 衛生行政と保健医療の制度 |
| 学習目標・ポイント | 衛生行政の組織とその役割および医療施設と従事者、保険について |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 医療の倫理と疫学 |
| 学習目標・ポイント | 医の倫理問題と医療の安全および疫学の理解とその方法 |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 関係法規 |
| 担 当 教 員 | 石井 裕己 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 関係法規 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2 (30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部 ・ 昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復は現状の法規化において、医療並びに医療人としての位置づけであり、学習により社会倫理観、適応力を包括的に持ち合わせた医療人、社会人の育成を構築する。 |
| 到 達 目 標 | 過去の問題集を参考に国家試験の出題傾向を分析し、合格に向けての対策が立てられる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 授業内評価試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 序論:法の意義、柔道整復師法の総論 |
| 学習目標・ポイント | 柔道整復師の業務に必要な法の基礎を学ぶ |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 柔道整復師法の免許 |
| 学習目標・ポイント | 資格要件、名簿登録・訂正・取消、免許証の交付再交付等の内容を知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 柔道整復師の免許続き～柔道整復師の国家試験 |
| 学習目標・ポイント | 返納、行政処分、国家試験の受験資格と試験科目等を知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 業務 |
| 学習目標・ポイント | 業務の禁止、業務範囲について知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 施術所 |
| 学習目標・ポイント | 開設・休止等の要件、構造設備基準を知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 雑則 |
| 学習目標・ポイント | 広告制限、施術所等の名称制限について理解する。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 罰則 |
| 学習目標・ポイント | 罪刑法定主義、各罰則、両罰規定について理解する。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 指定登録機関及び指定試験機関 |
| 学習目標・ポイント | 指定登録機関及び指定試験機関の規定を知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 付則、医師法、歯科医師法、診療放射線技師法、薬剤師法 |
| 学習目標・ポイント | 免許の特例、受験資格の特例について知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 保健師助産師看護師法、理学療法士及び作業療法士法、視能訓練士法、言語聴覚士法、臨床工学技士法、義肢装具士法、救命救急士法、歯科衛生士法、歯科技工士法 |
| 学習目標・ポイント | 受験資格の特例について知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 医療法 |
| 学習目標・ポイント | 病院、診療所、助産所等の定義並びに医療サービスについて知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 社会福祉関係法規 |
| 学習目標・ポイント | 社会福祉法の概要、生活保護法、身体障害者福祉法等について知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 個人情報、柔道整復師と患者の権利 |
| 学習目標・ポイント | 個人情報保護法の概要を知る。インフォームドコンセント、リスクマネジメント、医療事故調査制度について知る。 |
| 使用する材料 | 関係法規:教科書(2022年度版) |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 授業内再評価 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔道 I |
| 担 当 教 員 | 室 王貴/丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 柔道 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 通年 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 武道の特性を理解させ、柔道の技術と精神性や礼儀作法を主に学び、对人的技能の向上、立ち技や寝技の習得、審判法やルール、投げの形を身につけるものとする。 |
| 到 達 目 標 | 柔道を通じて礼儀作法、受け身、立ち技、寝技、技の打込みなどの基本動作の練習。投げ込み、乱取り稽古など実戦練習の習得。座学として柔道の歴史や審判規定の修学。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 成績評価方法: 通年15コマにおいて、最後の授業に単位認定試験を行い授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。 試験内容については授業内で伝える。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと ①各自授業開始までに更衣室にて正しく柔道着を着用し準備すること。 ②授業開始時には道場中央で整列した状態で座って待つ事。出席呼名時に、更衣室にいる際は遅刻扱いとする。 ③体調を整え、手足の爪を切りケガに注意する事。 ④新型コロナウイルス感染予防の為、講道館指針を参考に必要に応じマスク着用の事等。 |
| 教育・実務業績 | 室 王貴 1、担当科目における教育上の業績 平成22年より教員助手として当校における柔道の授業を補助 平成26年より専科教員として当校における柔道の授業を担当 平成29年より認定実技審査(柔道実技)として自校審査員を担当 令和元年より認定実技審査(柔道実技)として名古屋平成看護医療の自校審査員を担当 2、実務上の業績(臨床経験等) ※業績がない場合は記入不要です。 平成22年3月から平成25年7月まで柔道整復師として、ひらた整骨院に勤務 平成25年11月に、むろ鍼灸整骨院を開業し院長として現在に至る 丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中) |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | 柔道の歴史や基礎知識の修学 |
| 学習目標・ポイント | 柔道着の着用方法や名称の説明。礼法、補強運動、受け身の基本動作の説明と練習。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 礼法、投げ技の基本動作(姿勢、組手、八方崩し、すり足継足動作、体さばき、受け身) |
| 学習目標・ポイント | 補強運動、後ろ受け身、横受け身、前回り受け身 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 礼法、投げ技の対人的技能(基礎) |
| 学習目標・ポイント | 補強運動、後ろ受け身、横受け身、前回り受け身の練習。背負投げの基本動作 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 受け身、投げ技、寝技の対人的技能(基礎) |
| 学習目標・ポイント | 補強運動、後ろ受け身、横受け身、前回り受け身の練習。寝技における固め技の基本動作 |
| 使用する材料 | 袈裟固め、横四方固め、上四方固めの練習。立ち技における大内刈りの基本動作 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 受け身、投げ技、寝技の対人的技能(基礎、含む約束練習) |
| 学習目標・ポイント | 袈裟固め、横四方固め、上四方固めの練習。立ち技の基本動作と投げ込みの練習。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 受け身、投げ技、寝技の対人的技能(基礎、含む約束練習) |
| 学習目標・ポイント | 立ち技における投げを打つ前の相手を崩し、投げに有利な組手の基本動作を身につけること |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 受け身、投げ技、寝技の対人的技能(基礎含む動きながらの約束練習) |
| 学習目標・ポイント | 投げ技における自身が投げやすい得意技を身につけること。実際に投げること。 |
| 使用する材料 | 投げる動作が多くなるので、ケガをしない受け身を反復すること。 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 受け身、投げ技の対人的技能(動きながら投げるなどの応用練習)。 |
| 学習目標・ポイント | 実戦形式に動きながら相手を投げること。受けはケガをしない応用的な受け身を練習する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 受け身、投げ技の対人的技能(動きながら投げるなどの応用練習)。 |
| 学習目標・ポイント | 実戦形式に動きながら相手を投げること。受けはケガをしない応用的な受け身を練習する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 受け身、投げ技、寝技の対人的技能(応用、実戦形式の自由乱取り練習) |
| 学習目標・ポイント | 投げ技から固め技の移行を練習する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 受け身、投げ技、寝技の対人的技能(応用、実戦形式の自由乱取り練習) |
| 学習目標・ポイント | 立ち技の投げの際に単発的な技を仕掛けるのではなく、連続的に技を複数繰り出し投げる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 受け身、投げ技、寝技の対人的技能(応用、実戦形式の自由乱取り練習) |
| 学習目標・ポイント | 立ち技の投げの際に連続的に技を複数繰り出し姿勢を崩し、より実践的に相手を投げる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 受け身、投げ技、寝技の対人的技能(応用反復練習) |
| 学習目標・ポイント | 審判規定やルールを実際の動きに沿って説明する。 |
| 使用する材料 | 試験に向けての受け身、投げ技、寝技の反復練習 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 試験内容について説明、試験に向けての反復練習 |
| 学習目標・ポイント | 試験に向けての規定された身だしなみの説明、実技の説明をする。 |
| 使用する材料 | 試験に向けての受け身、投げ技、寝技の反復練習 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 定期試験(授業内評価) |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔道Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 益 賢明/丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 柔道Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 通年 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 基本動作と基本となる礼法、受け身、技の習得、安全な攻防と乱取り稽古の習得 |
| 到 達 目 標 | 安全に留意し基本動作と基本となる技の反復と新しい技の習得 |
| 成績評価方法及び基準 | 強い柔道ではなく柔道の基本である受け身や礼法、技をしっかりと習得できることを目標とする。 前期定期試験を実施し60点を合格基準とする。 単位認定試と授業内評価を合わせて100%で評価を行う。 必要出席数「学生のしおり」に準ずる。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 柔道創始者である嘉納治五郎は「文と武は分けられないとする「文武不岐」という言葉から、勉強には武的な要素があり、武にも文の要素がある」としており、柔道を学ぶことが一定の学習効果を上げることにつながると述べています。すなわち、柔道と学問が一体化しているということを学んで頂きたい。 また柔道を通じて礼節や医療人として人間力を鍛えて頂きたい。 授業中、水分の摂取は許可する。授業の説明は初回に説明する。 『「学生のしおり」学内生活 3受講の心得について』に従うこと |
| 教育・実務業績 | 益 賢明 平成17年より教員助手として当校における柔整理論上肢の授業を補助。 平成23年より専任教員として当校における柔整理論上肢の授業を担当。 実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。 丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中) |

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 1 項 目 | 授業の目的、内容、受け方等についてガイダンス |
| 学習目標・ポイント | 補強運動、前回り受け身 |
| 使用する材料 | 柔道の心構えの資料 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 礼法、投げ技の基本動作(姿勢、組み方、崩し、進退動作、体さばき、受け身) |
| 学習目標・ポイント | (体さばきの総合練習) |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 投げ技の対人的技能(基礎) |
| 学習目標・ポイント | 投げ技の基本動作(移動範囲を広くする) |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 投げ技の対人的技能(基礎) |
| 学習目標・ポイント | 打ち込み、約束練習、自由練習 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 投げ技の対人的技能(基礎、含 約束練習) |
| 学習目標・ポイント | 打ち込み、約束練習、自由練習 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 投げ技の対人的技能(基礎、約束練習) |
| 学習目標・ポイント | 打ち込み、約束練習、自由練習 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 投の形、形の必要性、形の概説及び歴史 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 投の形① |
| 学習目標・ポイント | 浮落の習得、乱取り |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 投の形② |
| 学習目標・ポイント | 浮落の習得、乱取り |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 投の形③ |
| 学習目標・ポイント | 背負投の習得、乱取り |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 投の形④ |
| 学習目標・ポイント | 背負投の習得、乱取り |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 投の形⑤ |
| 学習目標・ポイント | 肩車の習得、乱取り |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 投の形⑥ |
| 学習目標・ポイント | 肩車の習得、乱取り |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 投の形⑦ |
| 学習目標・ポイント | 投の形のまとめ、礼法 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 試験前のまとめ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔道Ⅲ |
| 担 当 教 員 | 益 賢明／丹治 良輔／室 王貴 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 柔道Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部 ・ 昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 礼儀等の習得、柔道実技の技術体得、認定実技審査に向けた対策 |
| 到 達 目 標 | 礼儀作法、受け身、投の形(9)、投げ技、乱取の体得 |
| 成績評価方法及び基準 | <p>礼法、受け身、形(9つ)、乱取りを習得できること 強い柔道ではなく柔道の基本である受け身や礼法をしっかりと習得できること。 また認定実技審査に合格できる基準まで柔道技を習得できるようにすること。</p> <p>単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う。 必要出席数「学生のしおり」に準ずる。</p> |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | <p>柔道創始者である嘉納治五郎は「文と武は分けられないとする「文武不岐」という言葉から、勉強には武的な要素があり、武にも文の要素がある」としており、柔道を学ぶことが一定の学習効果を上げることにつながると述べています。すなわち、柔道と学問が一体化している</p> <p>授業中、水分の摂取は許可する。授業の説明は初回に説明する。 『「学生のしおり」学内生活 3受講の心得について』に従うこと</p> |
| 教育・実務業績 | <p>益 賢明 平成17年より教員助手として当校における柔整理論上肢の授業を補助。 平成23年より専任教員として当校における柔整理論上肢の授業を担当。</p> <p>実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。</p> <p>丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命</p> <p>平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中)</p> <p>平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中)</p> <p>室 王貴 1、担当科目における教育上の業績 平成22年より教員助手として当校における柔道の授業を補助 平成26年より専科教員として当校における柔道の授業を担当 平成29年より認定実技審査(柔道実技)として自校審査員を担当 令和元年より認定実技審査(柔道実技)として名古屋平成看護医療の自校審査員を担当 2、実務上の業績(臨床経験等) ※業績がない場合は記入不要です。 平成22年3月から平成25年7月まで柔道整復師として、ひらた整骨院に勤務 平成25年11月に、むろ鍼灸整骨院を開業し院長として現在に至る</p> |

| | | |
|-----------|---|--------------------|
| 1 項 | 目 | 1、2年後期の復習 |
| 学習目標・ポイント | | 投の形9つのうち手技3つの復習 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 2 項 | 目 | 投の形(腰技3つ)、乱取、礼法 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 3 項 | 目 | 投の形(腰技3つ)、乱取、礼法 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 4 項 | 目 | 投の形(腰技3つ)、乱取、礼法 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 5 項 | 目 | 投の形(手技・腰技復習)、乱取、礼法 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 6 項 | 目 | 投の形(足技3つ)、乱取、礼法 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 7 項 | 目 | 投の形(足技3つ)、乱取、礼法 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 8 項 | 目 | 投の形(足技3つ)、乱取、礼法 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 9 項 | 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 10 項 | 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 11 項 | 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 12 項 | 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 13 項 | 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 14 項 | 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 15 項 | 目 | 試験 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔道整復術の適応 |
| 担 当 教 員 | 堀尾 哲郎 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 柔道整復術の適応 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2 (30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部 ・ 昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 医療人として、最低限、各疾患を鑑別することを目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 自らが治療する疾患を部位別・系統別に鑑別できるようにする。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 私の専門は病理学である。病理学を完成させるということは、各基礎医学科目・各臨床科目を会得することを意味する。なぜならば、大学・医療機関においてはCPC(臨床・病理検討会)が行われ、徹底的に病理学的に患者の死因を追求するからである。これに病理側から対応するには前記した各科目の知識が必要となってくる。この学問の経験を生かして、今までに大学医学部・栄養学部においては、病理学実習(病理標本検鏡)、専門学校看護科・理学療法科・作業療法科・柔道整復科・言語聴覚士科においては、基礎系科目では医学概論、解剖学・生理学・薬理学・病理学・生化学等、臨床科目では外科学・整形外科学・内科学・神経内科学・耳鼻咽喉科学・眼科学・一般臨床医学等を担当してきた。 |

| | |
|-----------|--------------------|
| 1 項 目 | 1. 柔道整復術の適否を考える |
| 学習目標・ポイント | その必要性について |
| 使用する材料 | 教科書(以下同様) |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 2. 損傷に類似した症状を示す疾患 |
| 学習目標・ポイント | 内蔵疾患の投影を疑う疼痛等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 3. 血流を伴う疾患 |
| 学習目標・ポイント | 動脈損傷等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 4. 末梢神経損傷を伴う疾患 |
| 学習目標・ポイント | 腕神経叢麻痺等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 5. 脱臼骨折 |
| 学習目標・ポイント | 肩関節脱臼骨折等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 6. 外出血を伴う損傷 |
| 学習目標・ポイント | 開放性骨折等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 7. 病的骨折および脱臼 |
| 学習目標・ポイント | 病的骨折等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 8. 意識障害を伴う損傷 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 頭蓋骨骨折等 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 9. 脊髄症状のある損傷 |
| 学習目標・ポイント | 頸椎損傷等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 10. 呼吸運動を伴う損傷 |
| 学習目標・ポイント | 胸部外傷等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 11. 内蔵損傷の合併が疑われる損傷 |
| 学習目標・ポイント | 骨折等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 12. 高エネルギー外傷 |
| 学習目標・ポイント | 外傷性ショック等 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 13. 演習1 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 14. 演習2 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 15. 演習3 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 社会保障制度 |
| 担 当 教 員 | 塚原 康夫 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 社会保障制度 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2 (30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | わが国の社会保障制度の現状を学び、医療が占める必要性とあり方について理解する。正当な取扱い方および知識を持つ。 |
| 到 達 目 標 | 開業資格を持って社会に出る施術者として正しい知識を身につけると共に、正当な取扱い方および知識を持って社会に貢献できる人になる。患者目線で施術を組み立てる能力を身につける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で70%、出席15%、授業内での積極性15%。単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明するが、知識を高め、自分だけの技術を持つ事で生きる術を見つける。 質問のタイミングは自由。目的がはっきりしている質問は大歓迎。 |
| 教育・実務業績 | 実務上の業績 昭和59年より手技療法者として実践経験(往診施術含む) 昭和61年よりあはき師資格をもって社会で実践勤務 平成01年 つかはら鍼灸整骨院開業 従事者への指導 平成05年 つかはら鍼灸整骨院奈良本院開業 開設者実習実施 全柔協学術講習や保険講習を実施(現在まで) 平成12年 平成医療学園にて実技講師等(現在まで) 平成26年 施術管理者交代 平成30年 全柔協事務局長代理(同年10月より) 平成31年 全柔協事務局長(同年4月より) |

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 1 項 目 | わが国の社会保障と国民負担とは |
| 学習目標・ポイント | 年金・医療・福祉が持つ国民の生存権保障を理解する |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 2 項 目 | わが国の医療保険制度(療養の給付と療養費の違い)とは |
| 学習目標・ポイント | 年金・医療・福祉が持つ国民の生存権保障を理解する |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 3 項 目 | 柔道整復師(療養費)のあり方と開業に必要な要件 |
| 学習目標・ポイント | 医療が持つ責任と療養費の今後を考える |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 4 項 目 | 柔道整復師(施術録と療養費申請)のあり方 |
| 学習目標・ポイント | 医療が持つ責任と療養費の今後を考える |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 5 項 目 | 柔道整復師基本施術録記載(内容記載と負傷名選択判断)料金とともに理解 |
| 学習目標・ポイント | 開業および施術に必要なスキル(交流分析・ストローク)を身につける |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 6 項 目 | 柔道整復師基本施術(付度と会話術)ペーシングコントロール |
| 学習目標・ポイント | 開業および施術に必要なスキル(業務範囲の可否判断)を身につける |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 7 項 目 | 柔道整復師基本施術(認知症と看護の在り方を知る) |
| 学習目標・ポイント | 開業および施術と療養費申請に必要なスキルを身につける |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 8 項 目 | 柔道整復師基本施術(施術録の完成と評価) |
| 学習目標・ポイント | 開業および施術と療養費申請に必要なスキルを身につける |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 9 項 目 | 柔道整復師基本施術(施術録の完成と評価)足関節捻挫 |
| 学習目標・ポイント | 開業および施術と療養費申請に必要なスキルを身につける |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 10 項 目 | 柔道整復師基本施術(施術録の完成と評価)投球肩 |
| 学習目標・ポイント | 開業および施術と療養費申請に必要なスキルを身につける |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 11 項 目 | 柔道整復師基本施術(施術録の完成と評価)腱鞘炎 |
| 学習目標・ポイント | 開業および施術と療養費申請に必要なスキルを身につける |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 12 項 目 | 柔道整復師基本施術(施術録の完成と評価)足関節骨折 |
| 学習目標・ポイント | 開業および施術と療養費申請に必要なスキルを身につける |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 13 項 目 | 柔道整復師基本施術(施術録の完成と評価)近位骨端線離開 |
| 学習目標・ポイント | 開業および施術と療養費申請に必要なスキルを身につける |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 14 項 目 | 柔道整復の施術まとめ(質疑応答) |
| 学習目標・ポイント | 理解度をチェックするためこれまでの内容を説明させる |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | 問題解決式に授業を行う。自分なりの記録をとり筆記試験評価に備える。 |
| 15 項 目 | 社会保障学まとめ(筆記試験範囲の確認とおさらい) |
| 学習目標・ポイント | 理解度をチェックするためこれまでの内容を説明させる |
| 使用する材料 | PPT(PC準備)筆記用具等、資料は評価される意識をもって保管整理する事。 |
| 備考 | これまでに保管整理した資料を駆使して解答を導き出す。 |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔整理論【総論】I |
| 担 当 教 員 | 北野 吉廣 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整学 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 2(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 総論における骨折の理論・理屈を理解することにより総論に続き学習する各論の内容を文字で記憶するだけではなく、頭の中で各部位の損傷がイメージできる容易さを獲得させる。各項終了時に小テスト10回を行い自宅学習を促す。 |
| 到 達 目 標 | 骨折に関する損傷理論、発生機序、症状、後遺症、小児骨損傷や高齢者の骨損傷の特徴が理解できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト20%、レポート10%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 柔道整復師 修士(保健医療学) 柔道整復師専科教員 公益財団法人柔道整復研修試験財団 認定実技審査員 一般社団法人日本柔道整復接骨医学会 認定柔道整復師 日本スポーツ整復療法学会 評議員 ジャパン・アスレティック・トレーナー協会(JATAC)認定ATC 昭和63年10月22日 キタノ整骨院開設 院長を務める(～平成11年1月31日) 平成11年2月10日 北野鍼灸整骨院開設 院長を務める(～平成23年3月31日) 平成17年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 非常勤講師 担当科目 柔整理論【総論】:柔道整復師に必要な骨折、脱臼、軟部組織損傷の症状や修復過程などの総論を教授した。 平成19年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専任教員 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 下肢実技:下肢の骨折、脱臼の整復、固定や軟部組織損傷の検査法、固定実技を行った。 平成21年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科学科長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 柔整理論【上肢】:肘関節から指までの骨折、肩鎖関節から指までの脱臼や軟部組織損傷の症状、整復法、固定法、後療法を教授した。 臨床実技:臨床で必要な柔道整復手技療法の実技を行った。 平成24年4月 平成医療学園専門学校 教務部長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 国対実技:認定実技審査に関わる骨折、脱臼、軟部組織損傷の整復、固定検査等の実技を行った。 平成27年10月 宝塚医療大学 柔道整復学科 非常勤講師 担当科目 スポーツ整復学:スポーツ外傷の各症状、治療法、トレーニング法を教授した。(～平成29年) スポーツ医療学テーピング(実技):スポーツ障害に対するテーピング実技を行った。 (～平成29年) 平成28年4月 平成医療学園専門学校 校長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ(現在に至る) 平成30年4月 宝塚医療大学 柔道整復学科 非常勤講師 担当科目 スポーツ医療学:すべての年齢層に対するスポーツ傷害の症状、治療法、トレーニング法を教授した。 スポーツ医療演習 I :スポーツ外傷に対するコンディショニングの実技を行った。 (現在に至る) |

| | | |
|-----------|---|--|
| 1 項 | 目 | 自己紹介・授業に対する説明・柔理概説 |
| 学習目標・ポイント | | 柔道整復の沿革、業務範囲心得を習得する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P2～P10 |
| 2 項 | 目 | 柔道整復術とは(概論)・人体に加わる力・身体の基礎的状态 |
| 学習目標・ポイント | | 概論、人体に加わる力、損傷時に加わる力などの損傷に対しての人体の損傷を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P11～P20 |
| 3 項 | 目 | 骨損傷の概説 |
| 学習目標・ポイント | | 骨損傷の分類、骨損傷の程度による分類を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P23～25 |
| 4 項 | 目 | 骨損傷の程度による分類・骨折線の方法による分類 |
| 学習目標・ポイント | | 骨損傷の程度による分類、骨折線の方法による分類を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P26～27 |
| 5 項 | 目 | 外創との交通の有無による分類・骨折の数 |
| 学習目標・ポイント | | 外創との交通・骨折の数による分類を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P27～28 |
| 6 項 | 目 | 外力の働いた部位による分類 |
| 学習目標・ポイント | | 外力の働いた部位による分類を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P28～29 |
| 7 項 | 目 | 外力の働いた部位による分類・受傷後の経過 |
| 学習目標・ポイント | | 外力の働いた部位による分類・経過による分類を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P29～31 |
| 8 項 | 目 | 骨折の症状 |
| 学習目標・ポイント | | 骨折の症状、特に一般外傷症状を理解する |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P31～32 |
| 9 項 | 目 | 骨折の症状 |
| 学習目標・ポイント | | 骨折の固有症状、全身症状を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P33～35 |
| 10 項 | 目 | 骨折の合併症(併発症・続発症) |
| 学習目標・ポイント | | 骨折の併発症、続発症の一部を理解させる。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P35～36 |
| 11 項 | 目 | 骨折の合併症(続発症) |
| 学習目標・ポイント | | 骨折の続発症の後半を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P36～37 |
| 12 項 | 目 | 骨折の合併症(後遺症) |
| 学習目標・ポイント | | 骨折の後遺症(過剰仮骨形成、偽関節変形癒合)を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P37～38 |
| 13 項 | 目 | 骨折の合併症(後遺症) |
| 学習目標・ポイント | | 骨折の後遺症(骨萎縮、ズデック骨萎縮、骨壊死)を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P38～39 |
| 14 項 | 目 | 骨折の合併症(後遺症) |
| 学習目標・ポイント | | 骨折の後遺症(関節運動障害、外傷性骨化性筋炎、フォルクマン拘縮)を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P39 |
| 15 項 | 目 | 小児骨折・前期末試験説明 |
| 学習目標・ポイント | | 小児骨折の特徴を理解する。(小児の骨の性質も含む) |
| 使用する材料 | | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | | 教科書P40～41 |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔整理論【総論】Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 北野 吉廣 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整学Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 総論における骨折、脱臼、軟部組織損傷の理論・理屈を理解することにより総論に続き学習する各論の内容を文字で記憶するだけではなく、頭の中で各部位の損傷がイメージできる容易さを獲得させる。 各項終了時に小テスト10回を行い自宅学習を促す。 |
| 到 達 目 標 | 高齢者の骨折や骨癒合に関する骨折総論と関節損傷(捻挫、脱臼)総論や筋腱などの軟部組織損傷総論を学び、それらの発生機序、症状などの特徴が理解できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト20%、レポート10%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 柔道整復師 修士(保健医療学) 柔道整復師専科教員 公益財団法人柔道整復研修試験財団 認定実技審査員 一般社団法人日本柔道整復接骨医学会 認定柔道整復師 日本スポーツ整復療法学会 評議員 ジャパン・アスレティック・トレーナー協会(JATAC)認定ATC 昭和63年10月22日 キタノ整骨院開設 院長を務める(～平成11年1月31日) 平成11年2月10日 北野鍼灸整骨院開設 院長を務める(～平成23年3月31日) 平成17年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 非常勤講師 担当科目 柔整理論【総論】:柔道整復師に必要な骨折、脱臼、軟部組織損傷の症状や修復過程などの総論を教授した。 平成19年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専任教員 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 下肢実技:下肢の骨折、脱臼の修復、固定や軟部組織損傷の検査法、固定実技を行った。 平成21年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科学科長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 柔整理論【上肢】:肘関節から指までの骨折、肩鎖関節から指までの脱臼や軟部組織損傷の症状、修復法、固定法、後療法を教授した。 臨床実技:臨床で必要な柔道整復手技療法の実技を行った。 平成24年4月 平成医療学園専門学校 教務部長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 国対実技:認定実技審査に関わる骨折、脱臼、軟部組織損傷の修復、固定検査等の実技を行った。 平成27年10月 宝塚医療大学 柔道整復学科 非常勤講師 担当科目 スポーツ整復学:スポーツ外傷の各症状、治療法、トレーニング法を教授した。(～平成29年) スポーツ医学テーピング(実技):スポーツ障害に対するテーピング実技を行った。(～平成29年) 平成28年4月 平成医療学園専門学校 校長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ(現在に至る) 平成30年4月 宝塚医療大学 柔道整復学科 非常勤講師 担当科目 スポーツ医学:すべての年齢層に対するスポーツ傷害の症状、治療法、トレーニング法を教授した。 スポーツ医学演習Ⅰ:スポーツ外傷に対するコンディショニングの実技を行った。(現在に至る) |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | 高齢者 |
| 学習目標・ポイント | 高齢者骨折の特徴を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P41～43 |
| 2 項 目 | 骨折の骨癒合日数、治癒経過、予後治癒に影響を与える因子 |
| 学習目標・ポイント | 骨癒合日数、治癒経過、予後、治癒に対する好適不適な条件を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P43～47 |
| 3 項 目 | 関節損傷の分類(靭帯、関節包の損傷) |
| 学習目標・ポイント | 関節損傷の分類、関節包損傷、軟骨損傷を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P52～56 |
| 4 項 目 | 関節軟骨損傷 |
| 学習目標・ポイント | 関節軟骨やその他構成組織の損傷を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P56～59 |
| 5 項 目 | 脱臼(定義と概説)発生頻度・性状による分類 |
| 学習目標・ポイント | 脱臼の概説、外傷性脱臼の意味、関節の政情による分類の意味を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P59～62 |
| 6 項 目 | 脱臼(位置による分類・脱臼数・時期・経過) |
| 学習目標・ポイント | 脱臼の分類(位置、数)をイラストでも理解し、直達性脱臼、介達性脱臼の違いを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P62～64 |
| 7 項 目 | 脱臼の症状・合併症・整復障害・経過と予後 |
| 学習目標・ポイント | 脱臼の固有症状、合併症を解説し、整復障害の状態も理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P64～66 |
| 8 項 目 | 筋の損傷 |
| 学習目標・ポイント | 筋損傷の直達外力、介達外力による違いを理解し程度による分類が理解できる。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P66～71 |
| 9 項 目 | 筋の損傷・腱の損傷 |
| 学習目標・ポイント | 筋損傷の外力の働き方による分類を理解させる。腱の解剖を理解させ損傷の程度による分類、損傷部位による分類を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P71～74 |
| 10 項 目 | 腱の損傷 |
| 学習目標・ポイント | 腱損傷の程度による分類が出来る。部位による分類が出来る。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P35～36 |
| 11 項 目 | 末梢神経の損傷・評価 |
| 学習目標・ポイント | 末梢神経損傷の程度による分類(セドゥン・サンダーランド)を対比し損傷レベルを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P80～85 |
| 12 項 目 | 評価・治療法(骨折の整復法) |
| 学習目標・ポイント | 非観血的整復法の利点と整復が適応しない場合を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P86～95 |
| 13 項 目 | 脱臼の整復法・軟部組織損傷の初期処置 |
| 学習目標・ポイント | 非観血的整復法の利点と整復が適応しない場合を理解する。RICE処置を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P95～98 |
| 14 項 目 | 固定法 |
| 学習目標・ポイント | 固定法の目的、固定の原則、固定の材料を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P98～105 |
| 15 項 目 | 後療法・後期末試験説明 |
| 学習目標・ポイント | 後療法の目的と意味を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P105～106 |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 外傷の保存療法 |
| 担 当 教 員 | 竹本 晋史 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整学Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(15) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復師として外傷の判断、経過及び治癒の判定までの施術を行うために必要な能力を身に付ける。 |
| 到 達 目 標 | 初期判断能力を養う。 経過観察能力を養う。 治癒の判断能力を養う。 |
| 成績評価方法及び基準 | 平常点 10% 小テスト 20% 試験 70% |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 柔道整復師は外傷を診て、治療する事が仕事。 その外傷が柔道整復師の守備範囲か守備範囲でないかを判断する事が大切である。 判断する為の基礎的な講義をさせていただきます。 |
| 教育・実務業績 | 平成12年 竹本鍼灸整骨院開設 平成19年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専科教員 平成24年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 学科長 平成29年9月～柔道整復認定実技審査員 令和3年4月～平成医療学園専門学校 教務部長 平成17年～現在 筋骨格画像研究会会長 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成26年3月 東洋療法教員養成学科卒業 平成26年4月～鍼灸科3年応用実技Ⅲ授業担当 |

| | |
|-----------|---------------------------|
| 1 項 目 | 外傷の総論 |
| 学習目標・ポイント | 外傷の疫学と初期診断、多数傷病者対応(トリアージ) |
| 使用する材料 | PC、プロジェクター |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 柔道整復師の治療法Ⅰ(整復、固定、後療法) |
| 学習目標・ポイント | 各損傷の初期診断と処置 |
| 使用する材料 | PC、プロジェクター |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 柔道整復師の治療法Ⅱ(指導管理、外傷予防) |
| 学習目標・ポイント | 各損傷の指導管理 |
| 使用する材料 | PC、プロジェクター |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 上肢の保存治療 |
| 学習目標・ポイント | 保存療法と観血療法の鑑別 |
| 使用する材料 | PC、プロジェクター |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 下肢の保存治療 |
| 学習目標・ポイント | 保存療法と観血療法の鑑別 |
| 使用する材料 | PC、プロジェクター |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 保存療法のまとめ |
| 学習目標・ポイント | 保存療法と観血療法の鑑別 |
| 使用する材料 | PC、プロジェクター |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 授業内試験(90分中の50分を利用) |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | PC、プロジェクター |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 総括 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔整理論【上肢】Ⅰ |
| 担 当 教 員 | 益 賢明 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整学Ⅳ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復学理論P220～262の全範囲を履修する事を目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 柔道整復師としての基礎を学習し、臨床にも通用する理論の学習を目標とする。 |
| 成績評価方法及び基準 | <p>基準： 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。</p> <p>成績評価方法： 単位認定試験80%、通常授業内での小テスト20%を合わせて100%で評価を行う。</p> |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | <p>『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教育・実務業績 | <p>担当科目における教育上の業績： 平成17年より教員助手として当校における柔整理論上肢の授業を補助。 平成23年より専任教員として当校における柔整理論上肢の授業を担当。</p> <p>実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。</p> |

| | |
|-----------|---------------------------|
| 1 項 目 | 鎖骨骨折① |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 鎖骨骨折② |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 肩甲骨骨折①(体部、上角、下角骨折、関節窩) |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 肩甲骨骨折②(関節窩、外科頸、肩峰) |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 上腕骨近位骨折①(骨頭、解剖頸) |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 上腕骨近位骨折②(外科頸、大結節、小結節) |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 上腕骨近位骨折③(外科頸、大結節、小結節) |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 上腕骨骨幹部骨折① |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 上腕骨骨幹部骨折②、橈骨神経損傷、尺骨神経損傷 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 上腕遠位端部骨折① |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 上腕遠位端部骨折② |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 上腕遠位端部骨折③ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 橈骨近位端部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 尺骨近位端部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 前期総復習 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔整理論【下肢】I |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整学V |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | <p>範囲:骨盤骨折から下腿遠位部骨折まで</p> <p>目的:1、国家試験の出題数と出題個所、傾向を説明し学習の重要性を高める。 2、授業、試験は教科書中心に行ない習得範囲を集中させる。 3、整復法は基本的には授業より除き実技と区別する。</p> |
| 到 達 目 標 | 各疾患の発生機序、症状・特徴、合併症などを理解し説明できるようになる。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | <p>成績評価は以下の方法にて行い、基準を満たした者に単位認定を行う。(「教員便覧」参照)</p> <p>1) 前期単位認定試験にて基準点(60%)を満たすこと。 2) 1)において不合格となった者については、実施する前期単位認定再試験において基準点(60%)を満たすこと。(*採点は60点を上限とする) 3) 1)を正当な理由で欠席した者については、実施する前期単位認定追試験において基準点(60%)を満たすこと。(*採点は80点を上限とする)</p> |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受講者へのメッセージ) | <p>解剖学的、生理学的知識の予習・復習を常に行っておくこと。 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活、3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 新型コロナウイルス対策のためにマスクを着用する。 詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | <p>1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など)</p> <p>2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師</p> |

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 1 項 目 | 骨盤骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 発生機序、症状、合併症を理解し説明できる。解剖学的部位の復習 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 骨盤骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 発生機序、症状、合併症を理解し説明できる。解剖学的部位の復習 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 骨盤骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 発生機序、症状、合併症を理解し説明できる。解剖学的部位の復習 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 大腿骨頸部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 分類・発生機序、症状、合併症を理解し説明できる。ポイント:骨折型とその定義 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 大腿骨頸部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 分類・発生機序、症状、合併症を理解し説明できる。ポイント:骨折型とその定義 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 大腿骨頸部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 分類・発生機序、症状、合併症を理解し説明できる。ポイント:骨折型とその定義 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 大腿骨骨幹部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 発生機序、症状、合併症を理解し説明できる。ポイント:好発部位・転位について |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 大腿骨骨幹部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 発生機序、症状、合併症を理解し説明できる。ポイント:好発部位・転位について |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 大腿骨遠位部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 発生機序、症状、転位を理解し説明できる。ポイント:転位・外力 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 膝蓋骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 骨折型の離開 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 下腿近位端部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 内顆・外顆骨折の転位や合併症の理解 ポイント:転位の相違と合併症 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 下腿近位端部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 内顆・外顆骨折の転位や合併症の理解 ポイント:転位の相違と合併症 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 下腿両骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 部位的特殊性と骨折についての理解。転位のイメージを持たせる。 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 下腿両骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 部位的特殊性と骨折についての理解。転位のイメージを持たせる。 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 果部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 分類と骨折の種類の理解 ポイント:骨折名 |
| 使用する材料 | プリント、スライド |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 解剖演習 I |
| 担 当 教 員 | 土岐 明寛/嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔道整復学演習 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 基礎医学である解剖学(骨学・筋学・内臓学)の理解を深める。 専門基礎分野で学習した解剖学(骨・筋・消化器系・呼吸器系)の復習、問題演習を加えながら、基礎的な知識を習得する。 |
| 到 達 目 標 | 解剖学(消化器系、呼吸器系)の問題が解けるようになる。 骨・筋の名称を覚え、それぞれの役割を理解する。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 小テスト等の授業内成果物と出席率を合わせて50%ずつ、計100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 土岐 明寛 1. 教育上の業績 平成29年4月～令和2年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科専任教員として勤務 令和2年4月～令和3年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科実技主任として勤務 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校において柔道整復師科学科長として勤務し現在に至る 2. 実務上の業績 ①臨床経験 平成15年4月～平成19年3月 鍼灸整骨院で施術補助スタッフとして勤務。 平成19年4月～平成23年7月 鍼灸整骨院や整形外科クリニックのスタッフとして勤務。 平成23年9月～平成24年6月 鍼灸整骨院管理柔整師として開院。 平成24年7月～平成25年3月 鍼灸整骨院で施術スタッフとして勤務。 ②教育経験 平成25年4月～柔道整復師養成施設にて専任教員として勤務し現在に至る。 平成31年4月～令和3年3月 宝塚医療大学 柔道整復学科の非常勤講師として勤務。 令和3年4月～追手門学院大学 基盤教育機構の非常勤講師として勤務し現在に至る。 ③研究歴 平成30年4月～令和3年3月 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員 嶋田 リエ 1. 担当科目における教育上の業績 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校 専任教員として勤務 2. 実務上の業績 臨床経験 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 同大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務 |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 1 項 目 | 解剖学とは① |
| 学習目標・ポイント | 解剖学(内臓学)のオリエンテーション |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 解剖学とは② |
| 学習目標・ポイント | これから学習する解剖学(内臓学)の楽しさを知る。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 脳神経 |
| 学習目標・ポイント | 脳神経を12個言えるようになる。簡単な役割を理解する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト① |
| 4 項 目 | 内臓学(消化器系)① |
| 学習目標・ポイント | 消化管の基本構造の理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 内臓学(消化器系)② |
| 学習目標・ポイント | 口腔について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト② |
| 6 項 目 | 内臓学(消化器系)③ |
| 学習目標・ポイント | 咽頭・食道について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 内臓学(消化器系)④ |
| 学習目標・ポイント | 胃・小腸について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト③ |
| 8 項 目 | 内臓学(消化器系)⑤ |
| 学習目標・ポイント | 大腸について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 内臓学(消化器系)⑥ |
| 学習目標・ポイント | 肝臓について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト④ |
| 10 項 目 | 内臓学(消化器系)⑦ |
| 学習目標・ポイント | 肝臓・胆のうについて理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 内臓学(消化器系)⑧ |
| 学習目標・ポイント | 膵臓・腹膜について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト⑤ |
| 12 項 目 | 内臓学(呼吸器系)① |
| 学習目標・ポイント | 鼻腔・副鼻腔について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 内臓学(呼吸器系)② |
| 学習目標・ポイント | 喉頭について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト⑥ |
| 14 項 目 | 内臓学(呼吸器系)③ |
| 学習目標・ポイント | 気管・肺について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 内臓学(呼吸器系)④ |
| 学習目標・ポイント | 胸膜・縦郭について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト⑦ |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 生理演習Ⅰ |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔道整復学演習Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 生理学の理解を深める。 |
| 到 達 目 標 | 生理学の理解を深め、人の体の正常を知る。その上で、2年生の正常から異常(病気)に繋げる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 授業内評価と出席にて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など) 2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師 |

| | |
|-----------|-------------------------|
| 1 項 目 | 生理学基礎(1) |
| 学習目標・ポイント | 細胞の構造と機能を復習・理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 生理学基礎(2) |
| 学習目標・ポイント | 細胞の構造と機能を復習・理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 生理学基礎(3) |
| 学習目標・ポイント | 細胞の構造と機能を復習・理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 血液の生理学の理解(1) |
| 学習目標・ポイント | 体液、血液の成分について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 血液の生理学の理解(2) |
| 学習目標・ポイント | 血液の液体成分およびその役割について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 血液の生理学の理解(3) |
| 学習目標・ポイント | 血液の細胞成分およびその役割について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 血液の生理学の理解(4) |
| 学習目標・ポイント | 免疫細胞とその働きについて理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 血液の生理学の理解(5) |
| 学習目標・ポイント | 血液の生理学前半のまとめ |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 筋の生理学の理解(1) |
| 学習目標・ポイント | 骨格筋の構造について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 筋の生理学の理解(2) |
| 学習目標・ポイント | 骨格筋の収縮と弛緩について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 筋の生理学の理解(3) |
| 学習目標・ポイント | 骨格筋の収縮と弛緩について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 筋の生理学の理解(4) |
| 学習目標・ポイント | 骨格筋と張力の関係について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 筋の生理学の理解(5) |
| 学習目標・ポイント | 筋電図について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 筋の生理学の理解(6) |
| 学習目標・ポイント | 心筋と平滑筋について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 筋の生理学の理解(7) |
| 学習目標・ポイント | 筋の生理学まとめ |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |

| | | |
|-----------|---|---------------------------|
| 16項 | 目 | 神経の生理学(1) |
| 学習目標・ポイント | | 神経系の構成要素を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 17項 | 目 | 神経の生理学(2) |
| 学習目標・ポイント | | 静止膜電位、活動電位を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 18項 | 目 | 神経の生理学(3) |
| 学習目標・ポイント | | 活動電位、興奮の伝導、興奮の伝達について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 19項 | 目 | 神経の生理学(4) |
| 学習目標・ポイント | | 活動電位、興奮の伝導、興奮の伝達について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 20項 | 目 | 神経の生理学(5) |
| 学習目標・ポイント | | 神経伝達物質と受容体について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 21項 | 目 | 循環の生理学(1) |
| 学習目標・ポイント | | 心臓の機能的解剖、電気的活動を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | ポイント:刺激伝導系 |
| 22項 | 目 | 循環の生理学(2) |
| 学習目標・ポイント | | 心電図の測定法、正常心電図を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | ポイント:正常心電図の描画 |
| 23項 | 目 | 循環の生理学(3) |
| 学習目標・ポイント | | 心臓の活動周期を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | ポイント:心周期の描画 |
| 24項 | 目 | 循環の生理学(4) |
| 学習目標・ポイント | | 心臓の活動周期を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | ポイント:心周期の描画 |
| 25項 | 目 | 循環の生理学(5) |
| 学習目標・ポイント | | 循環の生理学まとめ |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 26項 | 目 | 血液の生理学(1) |
| 学習目標・ポイント | | 止血、血液凝固機序を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 27項 | 目 | 血液の生理学(2) |
| 学習目標・ポイント | | 止血、血液凝固機序を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 28項 | 目 | 血液の生理学(3) |
| 学習目標・ポイント | | 血液型を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 29項 | 目 | 血液の生理学(4) |
| 学習目標・ポイント | | 白血球の種類、免疫について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 30項 | 目 | 血液の生理学(5) |
| 学習目標・ポイント | | 免疫の機序について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 解剖演習Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 土岐 明寛/丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔道整復学演習Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 基礎医学である解剖学(脈管学・神経学・内臓学)の理解を深める。 専門基礎分野で学習した解剖学(脈管・神経・泌尿器系・生殖器系)の復習、問題演習を加えながら、基礎的な知識を習得する。 |
| 到 達 目 標 | 解剖学(泌尿器系、生殖器系)の問題が解けるようになる。 脈管・神経の名称を覚え、それぞれの分布や役割を理解する。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 小テスト等の授業内成果物と出席率を合わせて50%ずつ、計100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 土岐 明寛 1. 教育上の業績 平成29年4月～令和2年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科専任教員として勤務 令和2年4月～令和3年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科実技主任として勤務 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校において柔道整復師科学科長として勤務し現在に至る 2. 実務上の業績 ①臨床経験 平成15年4月～平成19年3月 鍼灸整骨院で施術補助スタッフとして勤務。 平成19年4月～平成23年7月 鍼灸整骨院や整形外科クリニックのスタッフとして勤務。 平成23年9月～平成24年6月 鍼灸整骨院管理柔整師として開院。 平成24年7月～平成25年3月 鍼灸整骨院で施術スタッフとして勤務。 ②教育経験 平成25年4月～柔道整復師養成施設にて専任教員として勤務し現在に至る。 平成31年4月～令和3年3月 宝塚医療大学 柔道整復学科の非常勤講師として勤務。 令和3年4月～追手門学院大学 基盤教育機構の非常勤講師として勤務し現在に至る。 ③研究歴 平成30年4月～令和3年3月 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員 丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中) |

| | |
|-----------|----------------------|
| 1 項 目 | 泌尿器① |
| 学習目標・ポイント | 腎臓の構造について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 泌尿器② |
| 学習目標・ポイント | 尿管、膀胱、尿道について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト① |
| 3 項 目 | 男性生殖器① |
| 学習目標・ポイント | 精巣の構造について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト② |
| 4 項 目 | 男性生殖器② |
| 学習目標・ポイント | 副生殖器について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト③ |
| 5 項 目 | 女性生殖器① |
| 学習目標・ポイント | 卵巣の構造について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト④ |
| 6 項 目 | 女性生殖器② |
| 学習目標・ポイント | 子宮の構造について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト⑤ |
| 7 項 目 | 内分泌器① |
| 学習目標・ポイント | 下垂体ホルモンについて理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト⑥ |
| 8 項 目 | 内分泌器② |
| 学習目標・ポイント | その他、内分泌器について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト⑦ |
| 9 項 目 | 感覚器① |
| 学習目標・ポイント | 外皮の構造について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト⑧ |
| 10 項 目 | 感覚器② |
| 学習目標・ポイント | 視覚器の構造について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト⑨ |
| 11 項 目 | 感覚器③ |
| 学習目標・ポイント | 聴覚、平衡覚の構造について理解を深める。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 小テスト⑩ |
| 12 項 目 | 問題演習① |
| 学習目標・ポイント | 泌尿器の総合問題 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 問題演習② |
| 学習目標・ポイント | 生殖器の総合問題 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 問題演習③ |
| 学習目標・ポイント | 内分泌器、感覚器の総合問題 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | まとめ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | | |
|-----------|---|---------------------------|
| 16 項 | 目 | 脈管系① |
| 学習目標・ポイント | | 脈管総論、心臓について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 17 項 | 目 | 脈管系② |
| 学習目標・ポイント | | 心臓について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト① |
| 18 項 | 目 | 脈管系③ |
| 学習目標・ポイント | | 体循環 動脈系(胸部～頭部)について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト② |
| 19 項 | 目 | 脈管系④ |
| 学習目標・ポイント | | 体循環 動脈系(胸部～上肢)について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト③ |
| 20 項 | 目 | 脈管系⑤ |
| 学習目標・ポイント | | 体循環 動脈系(腹部～下肢)について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト④ |
| 21 項 | 目 | 脈管系⑥ |
| 学習目標・ポイント | | 静脈系について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト⑤ |
| 22 項 | 目 | 脈管系⑦ |
| 学習目標・ポイント | | 胎児循環、リンパ系について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト⑥ |
| 23 項 | 目 | 神経系① |
| 学習目標・ポイント | | 神経系概論について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト⑦ |
| 24 項 | 目 | 神経系② |
| 学習目標・ポイント | | 脳室系について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト⑧ |
| 25 項 | 目 | 神経系③ |
| 学習目標・ポイント | | 脳について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト⑨ |
| 26 項 | 目 | 神経系④ |
| 学習目標・ポイント | | 伝導路について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト⑩ |
| 27 項 | 目 | 神経系⑤ |
| 学習目標・ポイント | | 脳神経について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト⑪ |
| 28 項 | 目 | 神経系⑥ |
| 学習目標・ポイント | | 脊髄神経について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト⑫ |
| 29 項 | 目 | 神経系⑦ |
| 学習目標・ポイント | | 脊髄神経、自律神経について理解を深める。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | 小テスト⑬ |
| 30 項 | 目 | まとめ |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 生理演習Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔道整復学演習Ⅳ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要・目 的 | 生理学の理解を深める。 |
| 到 達 目 標 | 生理学の理解を深め、人の体の正常を知る。その上で、2年生の正常から異常(病気)に繋げる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数「学生のしおり」I教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 授業内評価と出席にて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など) 2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師 |

| | |
|-----------|--------------------------|
| 1 項 目 | 運動の生理学の理解(1) |
| 学習目標・ポイント | 運動に関する主な中枢神経を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 運動の生理学の理解(2) |
| 学習目標・ポイント | 伸張反射系について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 運動の生理学の理解(3) |
| 学習目標・ポイント | 誘発筋電図、姿勢反射について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 感覚の生理学の理解(1) |
| 学習目標・ポイント | 感覚及びその受容器について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 感覚の生理学の理解(2) |
| 学習目標・ポイント | 視覚・聴覚について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 感覚の生理学の理解(3) |
| 学習目標・ポイント | 深部感覚・痛覚について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 呼吸の生理学の理解(1) |
| 学習目標・ポイント | 呼吸筋とその働き、換気の仕組みについて理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 呼吸の生理学の理解(2) |
| 学習目標・ポイント | 肺気量を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 呼吸の生理学の理解(3) |
| 学習目標・ポイント | 酸素解離曲線について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 呼吸の生理学の理解(4) |
| 学習目標・ポイント | 呼吸周期の調節、化学受容器について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 呼吸の生理学の理解(5) |
| 学習目標・ポイント | 血液によるガス運搬について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 呼吸の生理学の理解(6) |
| 学習目標・ポイント | 呼吸の神経支配、化学受容器について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 骨の生理学の理解(1) |
| 学習目標・ポイント | 骨形成と骨吸収について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 骨の生理学の理解(2) |
| 学習目標・ポイント | カルシウム代謝について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 循環の生理学の理解(7) |
| 学習目標・ポイント | 血管系について理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |

| | | |
|-----------|---|----------------------|
| 16項 | 目 | 循環の生理学の理解(8) |
| 学習目標・ポイント | | 動脈圧の調節について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 17項 | 目 | 栄養と代謝の理解(1) |
| 学習目標・ポイント | | 三大栄養素とその構造・役割を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 18項 | 目 | 栄養と代謝の理解(2) |
| 学習目標・ポイント | | ATPの生成について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 19項 | 目 | 栄養と代謝の理解(3) |
| 学習目標・ポイント | | ATPの生成について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 20項 | 目 | 栄養と代謝の理解(4) |
| 学習目標・ポイント | | 栄養素の代謝について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 21項 | 目 | 消化と吸収の理解(1) |
| 学習目標・ポイント | | 消化管の構造と役割について理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 22項 | 目 | 消化と吸収の理解(2) |
| 学習目標・ポイント | | 消化酵素を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 23項 | 目 | 消化と吸収の理解(3) |
| 学習目標・ポイント | | 消化酵素を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 24項 | 目 | 消化と吸収の理解(4) |
| 学習目標・ポイント | | 消化管ホルモンを理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 25項 | 目 | 消化と吸収の理解(5) |
| 学習目標・ポイント | | 各栄養素の吸収を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 26項 | 目 | 内分泌の理解(1) |
| 学習目標・ポイント | | ホルモンの役割・分類を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 27項 | 目 | 内分泌の理解(2) |
| 学習目標・ポイント | | ホルモンのフィードバック調節を理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 28項 | 目 | 内分泌の理解(3) |
| 学習目標・ポイント | | 下垂体ホルモンを理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 29項 | 目 | 内分泌の理解(4) |
| 学習目標・ポイント | | 副腎皮質ホルモンを理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |
| 30項 | 目 | 内分泌の理解(4) |
| 学習目標・ポイント | | その他ホルモンを理解する。 |
| 使用する材料 | | 教科書、プリント |
| 備考 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔理演習Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔道整復学演習Ⅴ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 1年次の前期課程を終え、様々な疑問や理解が不十分な点も出てくると想定できる。基礎的な骨・筋を理解した上で、柔整理論の復習を行う。また、グループディスカッションを交えて、各疾患を自ら考え、イメージとして捉えられるようになる。 |
| 到 達 目 標 | 将来、柔道整復師として臨床の現場で対応できるように、何故そうなるのか、どうしたらいいのかなど、まずは疑問を持つこと。そこから、考える力を身に付ける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験(筆記試験)で80%と平常点(レポート・小テスト)20%を合わせて100%の評価 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 令和4年4月～平成医療学園専門学校 専任教員として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 同大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務 |

| | |
|-----------|--------------------|
| 1 項 目 | 組織の損傷 |
| 学習目標・ポイント | 骨の損傷① |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 組織の損傷 |
| 学習目標・ポイント | 骨の損傷② |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 組織の損傷 |
| 学習目標・ポイント | 骨の損傷③ |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 組織の損傷 |
| 学習目標・ポイント | 骨の損傷④ |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 上肢骨折① |
| 学習目標・ポイント | 鎖骨骨折① |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 上肢骨折② |
| 学習目標・ポイント | 鎖骨骨折② |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 下肢骨折① |
| 学習目標・ポイント | 骨盤骨骨折① |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 下肢骨折② |
| 学習目標・ポイント | 骨盤骨骨折② |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 上肢骨折③ |
| 学習目標・ポイント | 肩甲骨骨折① |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 下肢骨折③ |
| 学習目標・ポイント | 大腿骨近位部骨折① |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 下肢骨折④ |
| 学習目標・ポイント | 大腿骨近位部骨折② |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 下肢骨折⑤ |
| 学習目標・ポイント | 大腿骨近位部骨折③ |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 上肢骨折④ |
| 学習目標・ポイント | 上腕骨近位部骨折① |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 上肢骨折⑤ |
| 学習目標・ポイント | 上腕骨近位部骨折② |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 上肢骨折⑥ |
| 学習目標・ポイント | 上腕骨近位部骨折③ |
| 使用する材料 | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | |

| | | |
|-----------|---|--------------------|
| 16 項 | 目 | 下肢骨折⑥ |
| 学習目標・ポイント | | 大腿骨骨幹部骨折① |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 17 項 | 目 | 上肢骨折⑦ |
| 学習目標・ポイント | | 上腕骨遠位部骨折① |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 18 項 | 目 | 上肢骨折⑧ |
| 学習目標・ポイント | | 上腕骨遠位部骨折② |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 19 項 | 目 | 上肢骨折⑨ |
| 学習目標・ポイント | | 上腕骨遠位部骨折② |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 20 項 | 目 | 下肢骨折⑦ |
| 学習目標・ポイント | | 大腿骨骨幹部～遠位部骨折 |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 21 項 | 目 | 上肢骨折⑩ |
| 学習目標・ポイント | | 前腕近位部骨折① |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 22 項 | 目 | 下肢骨折⑧ |
| 学習目標・ポイント | | 膝蓋骨骨折 |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 23 項 | 目 | 上肢骨折⑪ |
| 学習目標・ポイント | | 肘頭骨折 |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 24 項 | 目 | 下肢骨折⑨ |
| 学習目標・ポイント | | 下腿近位部骨折 |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 25 項 | 目 | 上肢骨折⑫ |
| 学習目標・ポイント | | 前腕骨幹部骨折 |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 26 項 | 目 | 上肢骨折⑬ |
| 学習目標・ポイント | | 前腕骨幹部骨折 |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 27 項 | 目 | 下肢骨折⑩ |
| 学習目標・ポイント | | 下腿骨幹部骨折～果部骨折 |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 28 項 | 目 | 下肢骨折⑪ |
| 学習目標・ポイント | | 下腿骨幹部骨折～果部骨折 |
| 使用する材料 | | 教科書、スライド、プリント、小テスト |
| 備考 | | |
| 29 項 | 目 | まとめ① |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 30 項 | 目 | まとめ② |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

| | |
|--|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 解剖生理 |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔道整復学演習Ⅵ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 夏季集中 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 解剖学・生理学の基礎講義を通じて学ぶことにより、受講者は人体の基本的な骨格、心臓などの循環系、内臓学、中枢神経系、末梢神経系、感覚器に関する基礎的な知識を獲得する。 1年生で学んだ解剖学、生理学の基礎をもう一度覚えなおす。 |
| 到 達 目 標 | 人体の基本構造を機能と関連づけて理解し、基礎的問題をどの角度から聞かれても答えられるよう目標とする。また写真やイラストの問題も対応できるようにする。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 前期定期試験を実施し60点を合格基準とする。 単位認定試と授業内評価を合わせて100%で評価を行う。 必要出席数「学生のしおり」に準ずる。 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ) | 学生が主体となって自から学ぶ姿勢で取り組んで頂きたい。解剖学、生理学の文章だけを覚えるのではなく人体の解剖をイメージできるように取り組んで頂きたい。 授業中、水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。授業の説明は初回に説明する。 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など) 2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師 |

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 1 項 目 | 骨格系 |
| 学習目標・ポイント | 上肢の骨格系(上肢の骨格の名称、位置、働きを理解する。) |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 骨格系 |
| 学習目標・ポイント | 下肢の骨格系(下肢の骨格の名称、位置、働きを理解する。) |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 筋系 |
| 学習目標・ポイント | 上肢全体の筋(上肢全体の起始、停止、神経支配を理解する。) |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 筋系 |
| 学習目標・ポイント | 下肢全体の筋(下肢全体の起始、停止、神経支配を理解する。) |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 脈管系 |
| 学習目標・ポイント | 動脈系(主の動脈系を理解する。) |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 内臓系 |
| 学習目標・ポイント | 消化器系(口、唾液腺、歯、舌、咽頭の特徴を理解する。) |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 内臓系 |
| 学習目標・ポイント | 呼吸器系(鼻腔、喉頭、気管、肺の特徴を理解する。) |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 内臓系 |
| 学習目標・ポイント | 泌尿器系(腎臓、尿路、膀胱の特徴を理解する。) |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 解剖学まとめ |
| 学習目標・ポイント | 解剖学の基礎を理解する。 |
| 使用する材料 | 確認試験 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 生理学の基礎 |
| 学習目標・ポイント | 糖質、脂質、蛋白質、細胞の機能的構造を理解する。 |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 血液 |
| 学習目標・ポイント | 血液の役割、血液の組成、免疫機能を理解する。 |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 免疫のしくみ |
| 学習目標・ポイント | 免疫の仕組みを理解する。 |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 循環 |
| 学習目標・ポイント | 心臓の基本的性質、心電図を理解する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | 項目の練習問題 |
| 14 項 目 | 神経系 |
| 学習目標・ポイント | 神経の基本的構造を理解する。 |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 神経系 |
| 学習目標・ポイント | 活動電位、興奮の伝導、興奮の伝達を理解する。 |
| 使用する材料 | 項目の練習問題 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対柔理 |
| 担 当 教 員 | 丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔道整復学演習Ⅶ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 1年次、2年次で学んだ柔道整復理論内容を復習・整理し、柔道整復師として必要な知識を習得しつつ、最終的には国家試験に合格することを目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 全範囲を復習し、自分の知識として理論的に整理・説明することが出来る。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト20%、レポート10%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次 「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更) 「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次 「柔整理論【下肢】Ⅱ・Ⅲ」担当(継続中) |

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 1 項 目 | 総論 骨折 |
| 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 総論 骨折(各論) |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 総論 骨折 |
| 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 総論 骨折(各論) |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 総論 関節 |
| 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 総論 関節(各論)、脱臼 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 総論 脱臼(各論) |
| 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 総論 脱臼(各論)、軟損 |
| 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 総論 軟損(各論) |
| 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 総論 評価、治療法 |
| 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 総論 治療法 |
| 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 総論 治療法、指導管理 |
| 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 下肢 骨盤部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 下肢 骨盤部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 前期復習 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |

| | |
|--|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 物療機器取り扱い |
| 担 当 教 員 | 竹本晋史 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(15) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 物理療法は運動療法と共に柔道整復治療の重要な治療法である。物理療法は損傷組織を自然な治癒過程に軌道修正し治癒に導く手段である。物理療法学は生物学や物理学を基盤とする知識であり、物理刺激を理解する必要がある。医療機器を取り扱う者として安全に、効果的に施術できる知識と技術を養う。 |
| 到 達 目 標 | 医療人としての知識と技術と常識を養う。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 平常点10% 小テスト20% 授業内評価70% |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ) | 評価⇒治療⇒評価 評価を上げるために必要な治療。この治療の中で重要な役割を果たすのが物理療法。医療機器の効果を知ると治療の幅が広がります。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 平成12年 竹本鍼灸整骨院開設 平成19年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専科教員 平成24年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 学科長 平成29年9月～柔道整復認定実技審査員 令和3年4月～平成医療学園専門学校 教務部長 平成17年～現在 筋骨格画像研究会会長 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成26年3月 東洋療法教員養成学科卒業 平成26年4月～鍼灸科3年応用実技Ⅲ授業担当 |

| | |
|-----------|------------------------------|
| 1 項 目 | 自己紹介・物理療法について(総論) |
| 学習目標・ポイント | 物療機器取り扱い及び原理についての理解 |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 温熱療法 |
| 学習目標・ポイント | ホットパック、パラフィン、エネルギー変換、超音波、各療法 |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 寒冷療法、光線療法、水治療法 |
| 学習目標・ポイント | 紫外線、赤外線、レーザー、各療法 |
| 使用する材料 | 実技教科書 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 電気刺激療法 |
| 学習目標・ポイント | 基礎、知覚神経刺激、運動神経・筋刺激療法、組織刺激 |
| 使用する材料 | 実技教科書 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 牽引療法、マッサージ療法 |
| 学習目標・ポイント | 持続法、間欠法 |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 安全管理 |
| 学習目標・ポイント | 禁忌、注意事項、誤作動・誤操作、医療事故 |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 疾患別物理療法(体験) |
| 学習目標・ポイント | 運動器疾患、中枢神経疾患、組織障害、各物理療法 |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔整理論【上肢】Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 益 賢明 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復学理論P263～304の全範囲を履修する事を目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 柔道整復師としての基礎を学習し、臨床にも通用する理論の学習を目標とする。 |
| 成績評価方法及び基準 | <p>基準： 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。</p> <p>成績評価方法： 単位認定試験80%、通常授業内での小テスト20%を合わせて100%で評価を行う。</p> |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | <p>『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教育・実務業績 | <p>担当科目における教育上の業績： 平成17年より教員助手として当校における柔整理論上肢の授業を補助。 平成23年より専任教員として当校における柔整理論上肢の授業を担当。</p> <p>実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。</p> |

| | |
|-----------|---------------------------|
| 1 項 目 | 上腕骨遠位骨折(上腕骨顆上骨折①) |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 上腕骨遠位骨折(上腕骨顆上骨折②) |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 上腕骨遠位骨折(外顆骨折) |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 上腕骨遠位骨折(内側上顆)、橈骨近位端部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 肘頭骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 肘関節脱臼 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 肘内障 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 肘の側副靭帯損傷 野球肘 テニス肘、 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 9 項 目 | バンナー病、変形性関節症、橈骨骨幹部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 10 項 目 | ガレアジ骨折 モンテギア骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 橈尺両骨骨幹部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 前腕コンパートメント症候群、腱交差症候群 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 橈骨神経麻痺 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 尺骨神経麻痺 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔整理論【下肢】Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 1年次に引き続き、柔道整復理論の下肢体幹分野について、基礎として解剖・機能面を確認後、外傷の発生・各部特徴・治療等について理論的に学習させる。 |
| 到 達 目 標 | 自分の知識として理論的に整理・説明することが出来る。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト20%、レポート10%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中) |

| | | |
|----|-----------|-----------------------------------|
| 1 | 項目 | 柔理下肢 膝関節部の損傷 膝蓋骨脱臼 |
| | 学習目標・ポイント | 1年次習得内容の復習・整理・理解 |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 2 | 項目 | 柔理下肢 膝関節部の損傷 半月板損傷～側副靭帯損傷 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 3 | 項目 | 柔理下肢 膝関節部の損傷 十字靭帯損傷～ジャンパー膝 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 4 | 項目 | 柔理下肢 膝関節部の損傷 分裂膝蓋骨～変形性膝関節症 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 5 | 項目 | 柔理下肢 下腿部の損傷 機能解剖復習～下腿骨骨幹部骨折 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 6 | 項目 | 柔理下肢 下腿部の損傷 下腿骨骨幹部骨折～下腿骨疲労骨折 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 7 | 項目 | 柔理下肢 下腿部の損傷 アキレス腱炎～コンパートメント症候群 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 8 | 項目 | 柔理下肢 足関節部の損傷 機能解剖復習～果部骨折 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 9 | 項目 | 柔理下肢 足関節部の損傷 距骨骨折～踵骨骨折 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 10 | 項目 | 柔理下肢 足関節部の損傷 足関節脱臼～足関節捻挫 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 11 | 項目 | 柔理下肢 足関節部の損傷 距骨滑車の骨軟骨腫瘍～三角骨障害 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 12 | 項目 | 柔理下肢 足・足趾部の損傷 機能解剖復習～立方骨骨折 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 13 | 項目 | 柔理下肢 足・足趾部の損傷 楔状骨骨折～中足骨骨折 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 14 | 項目 | 柔理下肢 足・足趾部の損傷 趾骨骨折～中足趾節関節・趾節間関節脱臼 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |
| 15 | 項目 | 柔理下肢 足・足趾部の損傷 セーバー病～モートン病 |
| | 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| | 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| | 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔整理論【上肢】Ⅲ |
| 担 当 教 員 | 益 賢明 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学Ⅳ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復学理論P304～350の全範囲を履修する事を目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 柔道整復師としての基礎を学習し、臨床にも通用する理論の学習を目標とする。 |
| 成績評価方法及び基準 | <p>基準： 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。</p> <p>成績評価方法： 単位認定試験80%、通常授業内での小テスト20%を合わせて100%で評価を行う。</p> |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | <p>『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教育・実務業績 | <p>担当科目における教育上の業績： 平成17年より教員助手として当校における柔整理論上肢の授業を補助。 平成23年より専任教員として当校における柔整理論上肢の授業を担当。</p> <p>実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。</p> |

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 1 項 目 | コーレス骨折① |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 2 項 目 | コーレス骨折② |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 3 項 目 | スミス骨折 掌側・背側 Barton 骨折 ショーファー骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 舟状骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 月状骨骨折 手根骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 橈骨手根関節脱臼 月状骨脱臼 月状骨周囲脱臼 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 7 項 目 | TFCC損傷、ドケルバン病 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 手根管症候群、ギヨン管症候群 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 9 項 目 | キーンベック病、マーデルング変形 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 中手骨骨折、ベネット骨折、 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 11 項 目 | CM関節脱臼、基節骨骨折、中節骨骨折、基節骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 12 項 目 | マレットフィンガー、MP関節脱臼、PIP関節脱臼、DIP関節脱臼 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 指の靭帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 14 項 目 | デュブイトラン拘縮、ヘバーデン拘縮、ボタン穴変形、スワンネック変形 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔整理論【下肢】Ⅲ |
| 担 当 教 員 | 丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学Ⅴ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 2年次前期に引き続き、柔道整復理論の下肢体幹分野について、基礎として解剖・機能面を確認後、外傷の発生・各部特徴・治療等について理論的に学習させる。 |
| 到 達 目 標 | 自分の知識として理論的に整理・説明することが出来る。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト20%、レポート10%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次 「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次 「柔整理論【下肢】」担当(継続中) |

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 1 項 目 | 柔理下肢 前期復習 |
| 学習目標・ポイント | 2年次習得内容の復習・整理・理解 |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 柔理頭部体幹 頸部の損傷 機能解剖復習～上位頸椎骨折 |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 柔理頭部体幹 頸部の損傷 中・下位頸椎骨折～むち打ち損傷 |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 柔理頭部体幹 頸部の損傷 むち打ち損傷～寝違え |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 柔理頭部体幹 頸部の損傷 胸郭出口症候群 |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 柔理頭部体幹 頸部の損傷 寝違え～長胸神経麻痺 |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 柔理頭部体幹 胸背部の損傷 機能解剖・肋骨骨折復習、胸骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 柔理頭部体幹 胸背部の損傷 胸椎の骨折～胸腰椎移行部椎体圧迫骨折 |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 柔理頭部体幹 胸背部の損傷 胸肋関節損傷～背部の軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 柔理頭部体幹 腰部の損傷 機能解剖復習～腰椎の骨折 |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 柔理頭部体幹 腰部の損傷 腰部の軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 復習① |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 復習② |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 復習③ |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 復習④ |
| 学習目標・ポイント | 機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する |
| 使用する材料 | 教科書、プロジェクター、授業プリント |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 運動学Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 甲斐 義浩 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学Ⅵ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1 (30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部 ・ 昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 身体運動を理解するために必要な力学、骨・関節・筋・神経系を中心とした運動器の構造と機能を教授し、その上で、上肢、下肢および体幹の各部位における運動学について説明する。 |
| 到 達 目 標 | 1. 四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について理解できる。 2. 運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で70%、小テスト30%を合わせて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 授業の進行を妨げる行為(私語、携帯電話の使用など)や、受講態度に明らかな問題がある場合(うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など)は受講をお断りします。 |
| 教育・実務業績 | 平成24年4月:京都橘大学 健康科学部 理学療法学科 准教授(現在に至る) 運動学、運動学演習、臨床運動学演習、運動生理学演習、動作分析学演習などを担当 平成24年4月:平成医療学園専門学校柔道整復師学科 非常勤講師(現在に至る) 運動学を担当 |

| | |
|-----------|------------------------|
| 1 項 目 | 四肢と体幹の運動8 |
| 学習目標・ポイント | 膝関節の運動について理解する |
| 使用する材料 | 運動学テキスト |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 四肢と体幹の運動9 |
| 学習目標・ポイント | 足関節と足部の運動について理解する |
| 使用する材料 | 運動学テキスト |
| 備考 | 確認テストの実施 |
| 3 項 目 | 四肢と体幹の運動10 |
| 学習目標・ポイント | 体幹と脊柱の運動について理解する |
| 使用する材料 | 運動学テキスト |
| 備考 | 確認テストの実施 |
| 4 項 目 | 四肢と体幹の運動11 |
| 学習目標・ポイント | 頚椎・胸椎・腰椎・骨盤の運動について理解する |
| 使用する材料 | 運動学テキスト |
| 備考 | 確認テストの実施 |
| 5 項 目 | 姿勢 |
| 学習目標・ポイント | 姿勢の定義と制御について理解する |
| 使用する材料 | 運動学テキスト |
| 備考 | 確認テストの実施 |
| 6 項 目 | 歩行のバイオメカニクス1 |
| 学習目標・ポイント | 歩行の8つの相について理解する |
| 使用する材料 | 運動学テキスト |
| 備考 | 確認テストの実施 |
| 7 項 目 | 歩行のバイオメカニクス2 |
| 学習目標・ポイント | 歩行時の力学的課題と対応について理解する |
| 使用する材料 | 運動学テキスト |
| 備考 | 確認テストの実施 |
| 8 項 目 | 運動発達と学習 |
| 学習目標・ポイント | 運動発達と運動学習について理解する |
| 使用する材料 | 運動学テキスト |
| 備考 | 確認テストの実施 |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 運動学Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 竹本 晋史 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学Ⅵ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 上肢、下肢、体幹の筋の起始停止作用をダイナミックに学び、人の動きを理解する。 |
| 到 達 目 標 | 筋の触診ができる。筋の動きを理解する。関節の動きを理解する。 |
| 成績評価方法及び基準 | 平常点 10% 小テスト 20% 試験 70% |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 臨床で活躍するためには必要な科目です。 暗記だけでなく、体で理解することで臨床に生かすことができます。 筋肉、関節を好きになりましょう。 |
| 教育・実務業績 | 平成12年 竹本鍼灸整骨院開設 平成19年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専科教員 平成24年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 学科長 平成29年9月～柔道整復認定実技審査員 令和3年4月～平成医療学園専門学校 教務部長 平成17年～現在 筋骨格画像研究会会長 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成26年3月 東洋療法教員養成学科卒業 平成26年4月～鍼灸科3年応用実技Ⅲ授業担当 |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 1 項 目 | はじめに 運動学の目的・運動の表し方 |
| 学習目標・ポイント | 四肢と体幹の筋、関節の構造を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 四肢と体幹の運動 |
| 学習目標・ポイント | 上肢の筋、関節を理解し、動きを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 四肢と体幹の運動 |
| 学習目標・ポイント | 上肢の筋、関節を理解し、動きを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 四肢と体幹の運動 |
| 学習目標・ポイント | 下肢の筋、関節を理解し、動きを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 四肢と体幹の運動 |
| 学習目標・ポイント | 下肢の筋、関節を理解し、動きを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 四肢と体幹の運動 |
| 学習目標・ポイント | 体幹の筋、関節を理解し、動きを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 四肢と体幹の運動 |
| 学習目標・ポイント | 体幹の筋、関節を理解し、動きを理解する。【授業内試験】 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 機能訓練指導 |
| 担 当 教 員 | 山口 悠 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学Ⅶ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習・実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復師が機能訓練の現場で必要とされる運動器疾患の基礎知識、動作分析、リハビリ実技・指導方法、コミュニケーション、介護分野の基礎知識を学ぶ |
| 到 達 目 標 | 機能訓練の必要な利用者に対して、リハビリ・手技療法・運動指導を行えるようにする |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 授業内評価＋授業内実技試験にて100点満点で評価する |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | H15.4～H17.3 松下電エインパルスアメリカンフットボール部 トレーナー研修 H20.3～H23.3 つかはら鍼灸・整骨院に柔道整復師として勤務 H23.4～ 山口整骨院 開業 H28.10～ 奈良県国体 成年男子バスケットボール部 専属トレーナー R4.4～ 大阪商業大学高等学校バスケットボール部 トレーナー |

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 1 項 目 | コーレス骨折① |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 2 項 目 | コーレス骨折② |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 3 項 目 | スミス骨折 掌側・背側 Barton 骨折 ショーファー骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 舟状骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 月状骨骨折 手根骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 橈骨手根関節脱臼 月状骨脱臼 月状骨周囲脱臼 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 7 項 目 | TFCC損傷、ドケルバン病 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 手根管症候群、ギヨン管症候群 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 9 項 目 | キーンベック病、マーデルング変形 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・症状・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 中手骨骨折、ベネット骨折、 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 11 項 目 | CM関節脱臼、基節骨骨折、中節骨骨折、基節骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 12 項 目 | マレットフィンガー、MP関節脱臼、PIP関節脱臼、DIP関節脱臼 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 指の靭帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 14 項 目 | デュブイトラン拘縮、ヘバーデン拘縮、ボタン穴変形、スワンネック変形 |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|--|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 一般臨床医学Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 春山 勝 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学Ⅷ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 本講義では一般臨床医学について、前期に引き続き解説する。講義では柔道整復師として実臨床に必要な内科学の知識について、単なる暗記ではなく、解剖学、生理学および病理学と関連させて解説する。 |
| 到 達 目 標 | 一般臨床医学について国家試験の既出問題を確実に解くことができ、さらに主な内科疾患の病態生理について自分の言葉で説明できる。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 「2023年版国家試験対策 一般臨床確認事項集」および 「2023年版 一般臨床医学 新規作成問題集」を繰り返し解くこと |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 1、担当科目における教育上の業績 平成4年10月～平成11年3月 東京都立医療技術短期大学 非常勤講師 (老年看護学) 平成17年3月～平成23年9月 大川学園医療福祉専門学校 非常勤講師(一般臨床医学) 平成24年4月～令和2年2月 福島医療専門学校 非常勤講師(一般臨床医学) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 柔道整復学科 教授 第28回 柔道整復師国家試験 一般臨床医学 的中率 20/22題 90.9% 第29回 柔道整復師国家試験 一般臨床医学 的中率 19/22題 86.3% 第30回 柔道整復師国家試験 一般臨床医学 的中率 21/22題 95.4% 2、実務上の業績(臨床経験等) 昭和58年6月～平成7年6月 日本医科大学付属病院 老人科 平成7年7月～平成20年2月 春山内科医院 院長 平成10年1月～平成18年5月 全日本オステオパシー協会 会員 平成13年11月～平成19年6月 米国American Academy of Osteopathy 会員 平成18年6月～平成23年6月 日本クラシカルオステオパシー協会会長 平成20年3月～令和2年1月まで 薬剤を処方せず手技療法のみによる春山クリニック 院長 平成20年3月～現在 英国Institute of Classical Osteopathy 会員 平成2年9月 日本内科学会認定内科医 平成5年4月 日本老年医学会認定老年病専門医 平成29年9月 日本老年医学会 指導医 |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | 内分泌② 副甲状腺、副腎疾患 |
| 学習目標・ポイント | カルシウム代謝の理解 副腎皮質ホルモン、髄質ホルモンの理解 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | (特筆事項なし) |
| 2 項 目 | 血液① 造血機構総論 貧血 |
| 学習目標・ポイント | 造血機構と骨髄内の病態生理 各貧血の特徴 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 血液② 白血病 紫斑病 血友病 ヘモグロビンの酸素解離曲線 |
| 学習目標・ポイント | 急性白血病の病態生理 慢性骨髄性白血病の特徴 紫斑病の特徴 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 腎臓① 腎とその生理学的機能 |
| 学習目標・ポイント | 糸球体濾過値とは 腎の生理学的な特徴を解剖学的な面から理解する |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 腎② 腎不全、ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎 慢性糸球体腎炎 膀胱炎 |
| 学習目標・ポイント | 各疾患の特徴の理解 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 神経疾患① 意識障害 神経反射 運動麻痺 |
| 学習目標・ポイント | 意識障害の実際、運動麻痺 痙縮と固縮 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 神経② 脳血管障害 クモ膜下出血 慢性硬膜下血腫 急性硬膜外血腫 |
| 学習目標・ポイント | 脳血管障害のステージ別の特徴、クモ膜下出血の臨床像、慢性硬膜下血腫の特徴 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 神経③ 頭痛・片頭痛・てんかん |
| 学習目標・ポイント | 見逃してはならない頭痛の特徴、片頭痛の発生病理、てんかんの特徴 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 神経④ 認知症 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症 |
| 学習目標・ポイント | 認知症の実際 パーキンソン病の特徴 上位運動ニューロン障害と下位運動ニューロン障害 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 神経⑤ 多発性硬化症 ギランバレー症候群、筋ジストロフィー |
| 学習目標・ポイント | 多発性硬化症の特徴、筋ジストロフィーの病理学的な特徴と臨床像 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 膠原病 慢性関節リウマチ、SLE、ベーチェット病 |
| 学習目標・ポイント | 各疾患の特徴の理解 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 感染症① 感染の病理学的な特徴 細菌感染症 |
| 学習目標・ポイント | 梅毒 破傷風 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 感染症② ウイルス感染症 |
| 学習目標・ポイント | AIDSの特徴 麻疹、風疹、水痘・带状疱疹、狂犬病 |
| 使用する材料 | 教科書: 奈良信雄ら.一般臨床医学 医歯薬出版、パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 水・電解質 免疫学の基礎 |
| 学習目標・ポイント | 国試に出題される水・電解質に関するテーマの解説 |
| 使用する材料 | パワーポイントファイルの供覧 配布資料 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 国試予想問題の解説 |
| 学習目標・ポイント | 前回の国試出題傾向からみた次回国試の予想問題の解説 |
| 使用する材料 | 配布資料 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | キネシオロジー&バイオメカニクス |
| 担 当 教 員 | 横山 茂樹 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学区 |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 各関節における機能解剖を理解した上で、臨床的な視点から各身体部位の機能障害に至るメカニズムを身体運動学および生体力学の観点から解説する。 |
| 到 達 目 標 | キネシオロジー(身体運動学)とバイオメカニクス(生体力学)の観点から、機能障害を説明できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験50%、小テストおよび課題30%、授業参加度・貢献度20%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 平成2年4月～平成14年3月 長崎大学医療技術短期大学部にて非常勤講師(運動学を担当) 平成10年4月～平成20年3月 山口コ・メディカル学院にて非常勤講師(スポーツリハビリテーションを担当) 平成14年4月～平成18年3月 長崎大学医学部保健学科にて助手 平成14年4月～平成18年3月 長崎市医師会看護専門学校 非常勤講師(リハビリテーション医学を担当) 平成18年4月～平成20年3月 聖隷クリストファー大学准教授(運動学・運動療法学・義肢装具学・他を担当) 平成20年4月～平成23年3月 吉備国際大学教授(スポーツリハビリテーション・運動療法・他を担当) 平成23年4月～現在 京都橘大学 理学療法学科 教授(運動療法・スポーツ障害・他を担当) 平成23年4月～現在 吉備国際大学 非常勤講師 (スポーツリハビリテーションを担当) 2、実務上の業績(臨床経験等) 昭和63年4月～平成14年3月 長崎大学医学部付属病院 理学療法部 理学療法士として勤務 |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | 総論 キネシオロジー／バイオメカニクス |
| 学習目標・ポイント | キネシオロジー／バイオメカニクスの概念を説明できる。 臨床応用の必要性について学習する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 足部・足関節 |
| 学習目標・ポイント | 足部・足関節における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 膝関節(1) |
| 学習目標・ポイント | 膝関節(とくに大腿脛骨関節)における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 膝関節(2) |
| 学習目標・ポイント | 膝関節(とくに膝蓋大腿関節)における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 大腿部・股関節 |
| 学習目標・ポイント | 大腿部／股関節における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 腰椎・骨盤(1) |
| 学習目標・ポイント | 腰椎・骨盤における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 腰椎・骨盤(2) |
| 学習目標・ポイント | インナーユニットにおける臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 頸椎／胸椎・胸郭 |
| 学習目標・ポイント | 頸椎／胸椎・胸郭における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 肩関節(1) |
| 学習目標・ポイント | 肩甲上腕関節における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 肩関節(2) |
| 学習目標・ポイント | 第2肩関節および周辺の関節における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 肘関節／前腕 |
| 学習目標・ポイント | 肘関節・前腕部における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 手関節／手指 |
| 学習目標・ポイント | 手関節／手指における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 基本動作(1) |
| 学習目標・ポイント | 歩行動作における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 基本動作(2) |
| 学習目標・ポイント | 立ち上がり動作、寝返り動作における臨床運動学的特性と機能障害を理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 基本動作(3) |
| 学習目標・ポイント | ランニング/ジャンプ動作における運動特性をバイオメカニクスの観点から理解する。 |
| 使用する材料 | 資料を配布する |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | リハビリテーションⅡ |
| 担 当 教 員 | 横山 茂樹 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔整学Ⅹ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復師の職務上特性からも、リハビリテーションの理念とその概念を理解しておく意義は大きい。本講義では、リハビリテーション医学の総論を理解した上で、実践的なリハビリテーションについて解説する。 |
| 到 達 目 標 | 1. リハビリテーションの概念とその重要性を説明できる。 2. リハビリテーション医学に基づく治療(アプローチ)を説明できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 単位認定試験60%、小テストおよび課題30%、授業参加度10%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 平成2年4月～平成14年3月 長崎大学医療技術短期大学部にて非常勤講師(運動学を担当) 平成10年4月～平成20年3月 山口コ・メディカル学院にて非常勤講師(スポーツリハビリテーションを担当) 平成14年4月～平成18年3月 長崎大学医学部保健学科にて助手 平成14年4月～平成18年3月 長崎市医師会看護専門学校 非常勤講師(リハビリテーション医学を担当) 平成18年4月～平成20年3月 聖隷クリストファー大学准教授(運動学・運動療法学・義肢装具学・他を担当) 平成20年4月～平成23年3月 吉備国際大学教授(スポーツリハビリテーション・運動療法・他を担当) 平成23年4月～現在 京都橘大学 理学療法学科 教授(運動療法・スポーツ障害・他を担当) 平成23年4月～現在 吉備国際大学 非常勤講師 (スポーツリハビリテーションを担当) 2、実務上の業績(臨床経験等) 昭和63年4月～平成14年3月 長崎大学医学部付属病院 理学療法部 理学療法士として勤務 |

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 1 項 目 | リハビリテーションの治療1 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの治療法を理解する |
| 使用する材料 | 「理学療法JP89-98 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | リハビリテーションの治療2 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの治療法を理解する |
| 使用する材料 | 「理学療法JP98-106 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | リハビリテーションの治療3 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの治療法を理解する |
| 使用する材料 | 「作業療法JP106-113 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | リハビリテーションの治療4 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの治療法を理解する |
| 使用する材料 | 「補装具JP113-121 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | リハビリテーションの治療5 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの治療法を理解する |
| 使用する材料 | 「補装具JP121-130 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | リハビリテーションの治療6 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの治療法を理解する |
| 使用する材料 | 「補装具JP130-138 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | リハビリテーションの治療7 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの治療法を理解する／関連職種役割を理解する |
| 使用する材料 | 「言語療法／「リハビリテーション医JP138-143 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | リハビリテーションの実際1 |
| 学習目標・ポイント | 疾患別リハビリテーションを理解する |
| 使用する材料 | 「脳卒中JP149-154 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | リハビリテーションの実際2 |
| 学習目標・ポイント | 疾患別リハビリテーションを理解する |
| 使用する材料 | 「脊髄損傷／小児疾患JP154-169 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | リハビリテーションの実際3 |
| 学習目標・ポイント | 疾患別リハビリテーションを理解する |
| 使用する材料 | 「切断JP169-177 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | リハビリテーションの実際4 |
| 学習目標・ポイント | 疾患別リハビリテーションを理解する |
| 使用する材料 | 「末梢神経損傷JP177-184 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | リハビリテーションの実際5 |
| 学習目標・ポイント | 疾患別リハビリテーションを理解する |
| 使用する材料 | 「関節リウマチJP184-192 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | リハビリテーションの実際6 |
| 学習目標・ポイント | 疾患別リハビリテーションを理解する |
| 使用する材料 | 「整形外科疾患JP192-201 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | リハビリテーションの実際7 |
| 学習目標・ポイント | 疾患別リハビリテーションを理解する |
| 使用する材料 | 「心疾患／呼吸器疾患／老人のリハJP201-209 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | リハビリテーションと福祉／まとめ |
| 学習目標・ポイント | 社会福祉制度を理解する |
| 使用する材料 | 「リハビリテーションと福祉JP209-221 |
| 備考 | |

| | |
|--|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対解剖 |
| 担 当 教 員 | 嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔道整復学演習Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | この授業では1、2年次で学習したこれらの科目を国家試験の出題傾向に沿って整理・まとめを行う。 そして、解剖学の分野の中でも柔道整復師に必要な内容の理解を深める。 講義の特徴は、問題演習を授業に加えて国家試験合格に必要な実践力と総合力を養成する。 |
| 到 達 目 標 | 国家試験合格に必要な実践力と総合力を身につける。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験と授業内評価を合わせて100%の評価を行う。 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 1、担当科目における教育上の業績 令和4年4月～平成医療学園専門学校 専任教員として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務 |

| | |
|-----------|----------------------------|
| 1 項 目 | 細胞の構造と機能 |
| 学習目標・ポイント | 細胞、組織、人体区分について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 消化器系の構造 |
| 学習目標・ポイント | 消化器系の機能的構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 消化器系の構造2 |
| 学習目標・ポイント | 消化器系の機能的構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 消化器系の構造3 |
| 学習目標・ポイント | 消化器系の機能的構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 呼吸器系の構造1 |
| 学習目標・ポイント | 呼吸器の機能的構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 呼吸器系の構造2 |
| 学習目標・ポイント | 呼吸調節の働きについて理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 泌尿器系の構造1 |
| 学習目標・ポイント | 泌尿器系の機能的構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 泌尿器系の構造2 |
| 学習目標・ポイント | 泌尿器系の機能的構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 生殖器系の構造1 |
| 学習目標・ポイント | 生殖器系の構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 生殖器系の構造2 |
| 学習目標・ポイント | 生殖器系の構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 神経系の構造1 |
| 学習目標・ポイント | 神経系の構造と機能について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 神経系の構造2 |
| 学習目標・ポイント | 神経系の構造と機能について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 神経系の構造3 |
| 学習目標・ポイント | 神経系の構造と機能について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 神経系の構造4 |
| 学習目標・ポイント | 神経系の構造と機能について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 前期のまとめ |
| 学習目標・ポイント | 前期の授業内容のまとめ |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対生理 |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔道整復学演習Ⅳ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 生理学は全ての医療系国家資格の国家試験で出題され、柔道整復師においては問題数が多い科目であり、国家試験の合否を左右する科目として位置づけられている。講義の特徴は、問題演習を授業に加えて国家試験合格に必要な実践力と総合力を養成する。 |
| 到 達 目 標 | 1、2年次で学習したこれらの科目を国家試験の出題傾向に沿って整理・まとめができる。そして、生理学の分野の中でも柔道整復師の臨床に必要な知識が習得できる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業)10試験について【必要出席数】』に準ずる。単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活、3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 新型コロナウイルス対策のためにマスクを着用する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など) 2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師 |

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 1 項 目 | 細胞の構造と機能 |
| 学習目標・ポイント | 細胞、組織、人体区分、物質輸送について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 骨の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 骨格系の総論と各論、カルシウム代謝について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 骨格筋の生理学1 |
| 学習目標・ポイント | 骨格筋の支配神経、筋収縮の機能について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 骨格筋の生理学2 |
| 学習目標・ポイント | 骨格筋・心筋・平滑筋の性質について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 循環系の生理学1 |
| 学習目標・ポイント | 心臓の構造、循環の生理学について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 循環系の生理学2 |
| 学習目標・ポイント | 脈管系、循環の生理学について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 循環系の生理学3 |
| 学習目標・ポイント | リンパ系、循環の生理学の理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 呼吸器系の生理学1 |
| 学習目標・ポイント | 呼吸器の機能的構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 呼吸器系の生理学2 |
| 学習目標・ポイント | 呼吸調節の働きについて理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 消化器系の生理学1 |
| 学習目標・ポイント | 消化器系の機能的構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 消化器系の生理学2 |
| 学習目標・ポイント | 消化の生理学について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 泌尿器系の構造と生理学1 |
| 学習目標・ポイント | 泌尿器系の機能的構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 泌尿器系の構造と生理学2 |
| 学習目標・ポイント | 泌尿器系の生理学について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 生殖器系の生理学1 |
| 学習目標・ポイント | 生殖器系の構造について理解を深める |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 前期のまとめ |
| 学習目標・ポイント | 前期の授業内容のまとめと中間テスト |
| 使用する材料 | テキスト「生理学(南江堂)」「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題、小テスト |
| 備考 | |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 必修柔理 |
| 担 当 教 員 | 土岐 明寛 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔道整復学演習 V |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習 |
| 開 講 期 間 | 通年 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | <p>整復術・固定術の理論と実技をリンクさせる。理論で学習した内容を実技に活かせるようになる。</p> <p>必修問題の国家試験対策として、理解度を上げる。</p> |
| 到 達 目 標 | <p>国家試験の必修問題での出題基準項目に対して、常に8割以上の正答率を目標とする。</p> |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | <p>【全科目共通事項】</p> <p>必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。</p> <p>授業内評価で100%で評価を行う。</p> |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受講者へのメッセージ) | <p>【全科目共通事項】</p> <p>『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと</p> <p>無断で教室からの退出を禁止する。</p> <p>水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。</p> <p>詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | <p>土岐 明寛</p> <p>1. 教育上の業績</p> <p>平成29年4月～令和2年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科専任教員として勤務</p> <p>令和2年4月～令和3年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科実技主任として勤務</p> <p>令和4年4月～ 平成医療学園専門学校において柔道整復師科学科長として勤務し現在に至る</p> <p>2. 実務上の業績</p> <p>①臨床経験</p> <p>平成15年4月～平成19年3月 鍼灸整骨院で施術補助スタッフとして勤務。</p> <p>平成19年4月～平成23年7月 鍼灸整骨院や整形外科クリニックのスタッフとして勤務。</p> <p>平成23年9月～平成24年6月 鍼灸整骨院管理柔整師として開院。</p> <p>平成24年7月～平成25年3月 鍼灸整骨院で施術スタッフとして勤務。</p> <p>②教育経験</p> <p>平成25年4月～柔道整復師養成施設にて専任教員として勤務し現在に至る。</p> <p>平成31年4月～令和3年3月 宝塚医療大学 柔道整復学科の非常勤講師として勤務。</p> <p>令和3年4月～追手門学院大学 基盤教育機構の非常勤講師として勤務し現在に至る。</p> <p>③研究歴</p> <p>平成30年4月～令和3年3月 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員</p> |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | 鎖骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 鎖骨骨折の診察および整復、固定 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 上腕骨外科頸骨折の診察および整復、上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | コーレス骨折 |
| 学習目標・ポイント | コーレス骨折の診察および整復、固定 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 第5中手骨頸部骨折、肋骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 第5中手骨頸部骨折の固定、肋骨骨折の固定 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 肩鎖関節上方脱臼 |
| 学習目標・ポイント | 肩鎖関節上方脱臼の診察および整復、固定 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 肩関節烏口下脱臼 |
| 学習目標・ポイント | 肩関節烏口下脱臼の診察および整復、固定 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 肘関節後方脱臼・肘内障 |
| 学習目標・ポイント | 肘関節後方脱臼の診察および整復、固定、肘内障の診察および整復 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 示指PIP関節背側脱臼、腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷 |
| 学習目標・ポイント | 示指PIP関節背側脱臼の固定、腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷の診察 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 包帯法 |
| 学習目標・ポイント | 包帯の巻き方、基本包帯法・冠名包帯法の種類と適応、および実施法 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 大腿部打撲・肉ばなれ、膝関節前十字靭帯損傷 |
| 学習目標・ポイント | 大腿部打撲・肉ばなれ、大腿四頭筋、ハムストリングスの診察、膝関節十字靭帯損傷の診察 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 膝関節側副靭帯損傷、膝関節半月板損傷 |
| 学習目標・ポイント | 膝関節側副靭帯損傷、膝関節半月板損傷の診察、膝関節内側側副靭帯損傷の固定 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 下腿三頭筋肉ばなれ、アキレス腱断裂 |
| 学習目標・ポイント | 下腿三頭筋肉ばなれの診察、アキレス腱断裂の固定 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 足関節外側靭帯損傷、下腿骨骨幹部骨折 |
| 学習目標・ポイント | 足関節外側靭帯損傷の診察、固定、下腿骨骨幹部骨折の固定 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 総合実技 I |
| 担 当 教 員 | 土岐 明寛／石井 裕己／丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔道整復学演習VI |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 演習・実技 |
| 開 講 期 間 | 夏期集中 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 卒業実技試験および認定実技審査に向けた本校の基礎実技および柔道の完成を目指す。認定実技審査に全員合格できるように1年生、2年生で教授された内容を引き継ぐ。 |
| 到 達 目 標 | 卒業実技試験および認定実技審査に全員が合格する。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 授業内成果物と出席率を合わせて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 土岐 明寛 1. 教育上の業績 平成29年4月～令和2年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科専任教員として勤務 令和2年4月～令和3年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科実技主任として勤務 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校において柔道整復師科学科長として勤務し現在に至る 2. 実務上の業績 ①臨床経験 平成15年4月～平成19年3月 鍼灸整骨院で施術補助スタッフとして勤務。 平成19年4月～平成23年7月 鍼灸整骨院や整形外科クリニックのスタッフとして勤務。 平成23年9月～平成24年6月 鍼灸整骨院管理柔整師として開院。 平成24年7月～平成25年3月 鍼灸整骨院で施術スタッフとして勤務。 ②教育経験 平成25年4月～柔道整復師養成施設にて専任教員として勤務し現在に至る。 平成31年4月～令和3年3月 宝塚医療大学 柔道整復学科の非常勤講師として勤務。 令和3年4月～追手門学院大学 基盤教育機構の非常勤講師として勤務し現在に至る。 ③研究歴 平成30年4月～令和3年3月 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員 石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中) |

| | | |
|-----------|---|------------------|
| 1 項 | 目 | 上肢疾患の整復・固定の復習① |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 2 項 | 目 | 上肢疾患の整復・固定の復習② |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 3 項 | 目 | 礼法、受身の復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 4 項 | 目 | 乱取の復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 5 項 | 目 | 下肢疾患の整復・固定の復習① |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 6 項 | 目 | 下肢疾患の整復・固定の復習② |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 7 項 | 目 | 投の形の復習①(手技) |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 8 項 | 目 | 投の形の復習②(腰技) |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 9 項 | 目 | 上肢・下肢疾患の検査法の復習① |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 10 項 | 目 | 上肢・下肢疾患の検査法の復習② |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 11 項 | 目 | 投の形の復習③(足技) |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 12 項 | 目 | 投の形の総復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 13 項 | 目 | 上肢・下肢疾患の総復習① |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 14 項 | 目 | 礼法、受身、投の形、乱取の総復習 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 15 項 | 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対Ⅰ |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基／嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔道整復学演習Ⅶ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 夏期集中 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 国家試験に向けての対策講義を行い、問題に対して対応できる学力をつけることを目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 一般問題60%以上とれるようにすることを目標とする。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 授業内評価試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 樋口 朋基 1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など) 2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師 嶋田 リエ 1、担当科目における教育上の業績 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校 専任教員として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 同大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務 |

| | |
|-----------|--------------------------|
| 1 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)1 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)2 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)3 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)4 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)5 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)6 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)7 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)8 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)9 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)10 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学教科書 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)11 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)12 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)13 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 一般問題対策(解剖/生理)14 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 解剖学・生理学教科書 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 一般問題対策(解剖学・生理学)まとめ 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 石井 裕己/丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔道整復学演習Ⅷ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 演習 |
| 開 講 期 間 | 通年 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 疑似国家試験問題を行い、問題解決能力や読解能力の向上を目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 基準点となる、必修40点(50問の80%)、一般問題120点(200問の60%)を超えるようにする。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 出席などで100%に評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命 丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次 「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次 「柔整理論【下肢】」担当(継続中) |

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 1 項 目 | 問題演習①-1 |
| 学習目標・ポイント | 必修問題の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 問題演習①-2 |
| 学習目標・ポイント | 前半分野(解剖学・生理学・運動学・病理学)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 問題演習①-3 |
| 学習目標・ポイント | 後半分野(衛生学、リハビリ、一般臨床、外科、整形、柔整理論)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 問題演習②-1 |
| 学習目標・ポイント | 必修問題の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 問題演習②-2 |
| 学習目標・ポイント | 前半(解剖学・生理学・運動学・病理学)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 問題演習②-3 |
| 学習目標・ポイント | 後半分野(衛生学、リハビリ、一般臨床、外科、整形、柔整理論)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 問題演習③-1 |
| 学習目標・ポイント | 必修問題の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 問題演習③-2 |
| 学習目標・ポイント | 前半(解剖学・生理学・運動学・病理学)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 問題演習③-3 |
| 学習目標・ポイント | 後半分野(衛生学、リハビリ、一般臨床、外科、整形、柔整理論)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 問題演習④-1 |
| 学習目標・ポイント | 必修問題の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 問題演習④-2 |
| 学習目標・ポイント | 前半(解剖学・生理学・運動学・病理学)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 問題演習④-3 |
| 学習目標・ポイント | 後半分野(衛生学、リハビリ、一般臨床、外科、整形、柔整理論)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 問題演習⑤-1 |
| 学習目標・ポイント | 必修問題の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 問題演習⑤-2 |
| 学習目標・ポイント | 前半(解剖学・生理学・運動学・病理学)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 問題演習⑤-3 |
| 学習目標・ポイント | 後半分野(衛生学、リハビリ、一般臨床、外科、整形、柔整理論)の理解 |
| 使用する材料 | 模試問題 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対リハ |
| 担 当 教 員 | 嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔道整復学演習Ⅹ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | リハ医学の講義を通じて学ぶことにより、基礎をしっかり理解させること。 国家試験問題の構成に解答するのに一部やや高度な知識を必要とする問題にも対応できることに繋がるのが目標。 また講義終了後には必ず各項目の練習問題を解かせて過去問の傾向を理解させる。 |
| 到 達 目 標 | |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 授業内評価に出席率を合わせて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 令和4年4月～平成医療学園専門学校 専任教員として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務 |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | リハビリテーションの理念、リハビリテーションの対象と障害者の実態 |
| 学習目標・ポイント | リハビリテーションの成立過程、医学的リハビリテーション、障害者の実態を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 障害の階層とアプローチ、リハビリテーションの評価学① |
| 学習目標・ポイント | ICIDHとICFを理解する。ADLの評価を理解する |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 3 項 目 | リハビリテーションの評価学②、リハビリテーションの障害学と治療学① |
| 学習目標・ポイント | 電気生理学検査、画像診断、運動失調を理解する。 筋萎縮、神経麻痺、MMT、痙縮、失語症を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 4 項 目 | リハビリテーションの障害学と治療学②、リハビリテーションの治療学 |
| 学習目標・ポイント | 失語症、失認症、失行症を理解する。 廃用症候群、関節拘縮、筋力強化、リハビリテーション医学の関連職種を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 5 項 目 | リハビリテーションの治療技術 |
| 学習目標・ポイント | 理学療法、作業療法、補装具を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 6 項 目 | リハビリテーションの実際 |
| 学習目標・ポイント | 脳卒中、パーキンソン病を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 高齢者のリハビリテーション① |
| 学習目標・ポイント | フレイル、地域リハビリテーションを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書『柔道整復師と機能訓練指導』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 高齢者のリハビリテーション② |
| 学習目標・ポイント | ポジショニング、シーティング、口腔ケア、栄養改善、閉じこもり予防、認知症を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書『柔道整復師と機能訓練指導』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 高齢者のリハビリテーション③ |
| 学習目標・ポイント | 機能訓練指導員を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書『柔道整復師と機能訓練指導』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 高齢者のリハビリテーション④ |
| 学習目標・ポイント | 疼痛・姿勢バランス評価、機能訓練におけるリスクマネジメントを理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書『柔道整復師と機能訓練指導』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 11 項 目 | まとめ① |
| 学習目標・ポイント | 演習問題の実施 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』『柔道整復師と機能訓練指導』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 12 項 目 | まとめ② |
| 学習目標・ポイント | 演習問題の実施 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』『柔道整復師と機能訓練指導』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 13 項 目 | まとめ③ |
| 学習目標・ポイント | 演習問題の実施 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』『柔道整復師と機能訓練指導』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 14 項 目 | まとめ④ |
| 学習目標・ポイント | 演習問題の実施 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』『柔道整復師と機能訓練指導』、授業資料、スライド |
| 備考 | |
| 15 項 目 | まとめ⑤ |
| 学習目標・ポイント | 演習問題の実施 |
| 使用する材料 | 教科書『リハビリテーション医学(第4版)』『柔道整復師と機能訓練指導』、授業資料、スライド |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対演習 |
| 担 当 教 員 | 益 賢明 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔道整復学演習X |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 演習 |
| 開 講 期 間 | 冬期集中 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 1・2年次で学んだ柔道整復理論内容を復習し、柔道整復師として必要な知識を習得する。 国家試験に合格することを目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 柔道整復師としての基礎を復習し、臨床にも通用する理論の学習を目標とする。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 日々の問題演習での結果と出席率で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 平成17年より教員助手として当校における柔整理論上肢の授業を補助。 平成23年より専任教員として当校における柔整理論上肢の授業を担当。 実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。 |

| | |
|-----------|---------------------------|
| 1 項 目 | 上肢骨折のまとめ① |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 上肢骨折のまとめ② |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 上肢骨折のまとめ③ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 上肢骨折のまとめ④ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 上肢骨折のまとめ⑤ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 上肢脱臼のまとめ① |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 上肢脱臼のまとめ② |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 上肢脱臼のまとめ③ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 上肢脱臼のまとめ④ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 上肢脱臼のまとめ⑤ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 上肢軟部組織損傷のまとめ① |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 上肢軟部組織損傷のまとめ② |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 上肢軟部組織損傷のまとめ③ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 上肢軟部組織損傷のまとめ④ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 上肢軟部組織損傷のまとめ⑤ |
| 学習目標・ポイント | 総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対衛生学・国対関係法規 |
| 担 当 教 員 | 石井 裕己/丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床柔道整復学演習XI |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 国家試験に向けて学生が苦手とする分野を聞き入れながら授業を行い、国家試験の総合的な点数を上げる事を目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 合同模擬試験、実力試験で全体の正答率を60%以上にすること。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 出席にて100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命 丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中) |

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 1 項 目 | 衛生学(必修範囲の国民の医療費、社会保険制度、療養費) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、必修問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 衛生学(予防接種、ワクチン、消毒) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、一般問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 衛生学(感染症) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、一般問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 衛生学(日本国憲法第25条、国際保健、地域保健、疫学) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、一般問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 衛生学(人口統計・疾病予防の段階) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、一般問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 衛生学(母子保健・学校保健) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、一般問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 衛生学(環境保健・生活保険) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、一般問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 衛生学(食中毒・産業保健・精神保健) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、一般問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 衛生学(廃棄物処理、公害、成人保険) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、一般問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 衛生学 総復習 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、一般問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 総則 柔道整復師法① |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、必修問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 柔道整復師法② |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、必修問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 柔道整復師法③ |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、必修問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 関係法規(医療法、医師法等) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、必修問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を克服し、必修問題に出題される範囲を取れるようにする。 |
| 使用する材料 | 自作プリント |
| 備考 | |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対解剖 |
| 担 当 教 員 | 嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 統合教育科目 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 4(120) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | この授業では1、2年次で学習したこれらの科目を国家試験の出題傾向に沿って整理・まとめを行う。 そして、解剖学の分野の中でも柔道整復師に必要な内容の理解を深める。 講義の特徴は、問題演習を授業に加えて国家試験合格に必要な実践力と総合力を養成する。 |
| 到 達 目 標 | 国家試験合格に必要な実践力と総合力を身につける。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 卒業総合試験の結果において他教科との協議後100%の評価を行う。 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 1、担当科目における教育上の業績 令和4年4月～平成医療学園専門学校 専任教員として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 同大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 脈管総論・心臓 |
| 学習目標・ポイント | 脈管系の基本構造を知り、心臓の特徴を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 動脈系① |
| 学習目標・ポイント | 頭頸部および上肢の脈管の流れを理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 動脈② |
| 学習目標・ポイント | 胸腹部および下肢の脈管の流れを理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 静脈系 |
| 学習目標・ポイント | 奇静脈・門脈・皮静脈の特徴を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 胎児循環・リンパ系 |
| 学習目標・ポイント | 胎児の循環系の特徴を理解し、リンパ系の流れ、役割を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 脈管系総合問題演習 |
| 学習目標・ポイント | 脈管系の総合問題から、国家試験問題に対応できるようになる。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 感覚器 |
| 学習目標・ポイント | 各感覚器の特徴を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 骨総論、各論(脊柱) |
| 学習目標・ポイント | 骨の構造、発生、関節を理解する。脊柱の基本構造を復習し、各脊柱の特徴を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 骨各論(上肢・下肢) |
| 学習目標・ポイント | 体肢骨の部位の名称、関節の構造と特徴を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 骨各論(頭部) |
| 学習目標・ポイント | 頭蓋骨の構成を知り、各頭蓋骨の特徴を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 骨格系総合問題演習 |
| 学習目標・ポイント | 骨格系の総合問題から、国家試験問題に対応できるようになる。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 筋系(頭部・体幹の筋) |
| 学習目標・ポイント | 頭部・体幹の筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 筋系(上肢の筋) |
| 学習目標・ポイント | 上肢の筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 筋系(下肢の筋) |
| 学習目標・ポイント | 下肢の筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 体表解剖 |
| 学習目標・ポイント | 主に体表から観察できる脈管系や神経系の部位を知る。 |
| 使用する材料 | テキスト「解剖学(医歯薬出版)」、演習問題 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対生理 |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 統合教育科目 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 4(120) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 生理学の基本を十分に理解することで、国家試験における設問の変化に対応できるようにする |
| 到 達 目 標 | 国家試験の合格 |
| 成績評価方法及び基準 | 卒業総合試験の結果において他教科との協議後100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活、3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 新型コロナウイルス対策のためにマスクを着用する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など) 2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師 |

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 1 項 目 | 9.内分泌系の機能 |
| 学習目標・ポイント | 甲状腺のホルモン、副腎皮質のホルモン |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 9.内分泌系の機能 |
| 学習目標・ポイント | 副腎髄質のホルモン、膵臓のホルモン |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 9.内分泌系の機能 |
| 学習目標・ポイント | 精巣のホルモン、卵巣のホルモン |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 10.生殖 |
| 学習目標・ポイント | 性分化、男性生殖器の構造、女性生殖器の構造 |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 10.生殖 |
| 学習目標・ポイント | 月経周期、卵巣周期、妊娠と分娩、乳汁分泌 |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 11.骨の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 骨吸収と再形成、カルシウム代謝に関わるホルモン |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 12.体液の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 体液の恒常性を維持する仕組み、体液の組成、酸塩基平衡の調節 |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 13.神経の基本的機能 |
| 学習目標・ポイント | 静止膜電位、活動電位、閾刺激、全か無かの法則、不応期、イオンチャンネル |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 13.神経の基本的機能 |
| 学習目標・ポイント | 興奮の伝導、興奮の伝達 |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 14.神経系の機能 |
| 学習目標・ポイント | 反射、体性神経系と自律神経系、末梢神経と中枢神経、自律神経系の機能 |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 14.神経系の機能 |
| 学習目標・ポイント | 視床下部の構造、運動調節、脊髄反射、脳幹の反射、小脳機能 |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 14.神経系の機能 |
| 学習目標・ポイント | 大脳皮質の機能、脳波、覚醒と睡眠、学習と記憶 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 15.筋肉の機能 |
| 学習目標・ポイント | 筋肉の種類と機能、筋収縮の仕組み、骨格筋の収縮の仕方、筋収縮のエネルギー |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 16.感覚の生理学 |
| 学習目標・ポイント | 感覚の一般的性質、体性感覚、深部感覚、内臓感覚、嗅覚、味覚、聴覚、視覚 |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 1~16までの復習 |
| 学習目標・ポイント | 全範囲の4択問題演習 |
| 使用する材料 | プリント、教科書 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対病理学 |
| 担 当 教 員 | 石井 裕己 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 統合教育科目 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 4(120) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 国家試験に向けて解剖学・生理学などの基礎を入れながら授業を行い、復習を重ねながら病理学を理解することを目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 合同模擬試験、実力試験で全体の正答率を60%以上にすること。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 卒業総合試験の結果において他教科との協議後100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命 |

| | | |
|-----------|---|----------------------------|
| 1 項 | 目 | 1.病理学の意義、2.疾病の一般、10.病因(内因) |
| 学習目標・ポイント | | 染色法・疾病の分類・自覚症状・他覚症状・病因(内因) |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 最新の国家試験問題 |
| 2 項 | 目 | 10.病因 |
| 学習目標・ポイント | | 外因(栄養障害・物理的外因) |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 3 項 | 目 | 10.病因 |
| 学習目標・ポイント | | 外因(化学的外因、病原微生物) |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 4 項 | 目 | 3.細胞傷害(退行性病変・代謝障害) |
| 学習目標・ポイント | | 萎縮・変性・代謝異常症 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 5 項 | 目 | 4.循環障害 |
| 学習目標・ポイント | | 充血・うっ血・虚血・貧血 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 6 項 | 目 | 4.循環障害 |
| 学習目標・ポイント | | 出血・血栓症・塞栓症・梗塞 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 7 項 | 目 | 4.循環障害 |
| 学習目標・ポイント | | リンパ管の循環障害・ショック |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 8 項 | 目 | 5.進行性病変(病的増殖)と細胞・組織の適応 |
| 学習目標・ポイント | | 肥大、過形成、再生、化生、創傷治癒、移植 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 9 項 | 目 | 6.炎症(一般。分類) |
| 学習目標・ポイント | | 滲出性炎・特異性炎 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 10 項 | 目 | 7.免疫異常・アレルギー |
| 学習目標・ポイント | | 免疫の仕組み・免疫不全 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 11 項 | 目 | 7.免疫異常・アレルギー |
| 学習目標・ポイント | | アレルギー・自己免疫疾患 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 12 項 | 目 | 8.腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | | 定義・形態・腫瘍マーカー・発育諸段階 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 13 項 | 目 | 8.腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | | 生体への影響・発癌の原因・癌の診断と治療 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 14 項 | 目 | 8.腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | | 腫瘍の分類 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |
| 15 項 | 目 | 9.先天性異常 |
| 学習目標・ポイント | | 単因子性遺伝・奇形 |
| 使用する材料 | | 自作プリント(・教科書) |
| 備考 | | 記述小テスト |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対運動学 |
| 担 当 教 員 | 竹本 晋史 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 統合教育科目 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 4(120) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 国家試験合格に向けた運動学知識の定着。苦手な分野を見つけ出し、暗記、問題演習を重ねてインプットとアウトプットを繰り返す。 |
| 到 達 目 標 | 苦手分野の克服 臨床で使えるケースを想定した学習 |
| 成績評価方法及び基準 | 卒業総合試験の結果において他教科との協議後100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 自身の苦手分野を見つだし、繰り返し学習する事で克服しましょう。 運動学は臨床で使うことばかりですので、暗記するだけでなく理解する事を目指しましょう。 国試では最低8割を取ろう。 |
| 教育・実務業績 | 平成12年 竹本鍼灸整骨院開設 平成19年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専科教員 平成24年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 学科長 平成29年9月～柔道整復認定実技審査員 令和3年4月～平成医療学園専門学校 教務部長 平成17年～現在 筋骨格画像研究会会長 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成26年3月 東洋療法教員養成学科卒業 平成26年4月～鍼灸科3年応用実技Ⅲ授業担当 |

| | |
|-----------|--------------------|
| 1 項 目 | はじめに 運動学の目的・運動の表し方 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 身体運動と力学・運動器の構造と機能 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 運動器の構造と機能と小テスト |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 神経の構造と機能 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 運動感覚 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 反射と随意運動 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 3回分のまとめと小テスト |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 四肢と体幹の運動(上肢) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 四肢と体幹の運動(下肢) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 四肢と体幹の運動(体幹) |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 3回分のまとめと小テスト |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 姿勢・歩行 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 運動発達・運動学習 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | まとめと評価 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 見直しと総括 |
| 学習目標・ポイント | 苦手分野を見つける・覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書・プリント |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対一般臨床 |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 統合教育科目Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 4(120) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 解剖学・生理学の知識を基礎とし、一般臨床医学における各疾患とその所見の意味を十分に理解することで、国家試験における設問の変化に対応できるようにする。 |
| 到 達 目 標 | 国家試験の合格 |
| 成績評価方法及び基準 | 卒業総合試験の結果において他教科との協議後100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活、3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 新型コロナウイルス対策のためにマスクを着用する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など) 2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師 |

| | | |
|-----------|---|---|
| 1 項 | 目 | 総論① |
| 学習目標・ポイント | | 医療面接、姿勢・体格、生命兆候等の理解 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 2 項 | 目 | 総論② |
| 学習目標・ポイント | | 感覚、反射検査など診断学上の重要な点についての理解 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 3 項 | 目 | 総論③ 神経系 |
| 学習目標・ポイント | | 神経学的所見、腱反射 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 4 項 | 目 | 呼吸器① 呼吸の生理学、肺炎、肺結核 |
| 学習目標・ポイント | | 呼吸の生理学、気道感染症、肺結核、 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 5 項 | 目 | 呼吸器② COPD、気胸 |
| 学習目標・ポイント | | 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺癌、気胸 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 6 項 | 目 | 循環器① 虚血性心疾患 心不全 |
| 学習目標・ポイント | | 虚血性心疾患、心不全 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 7 項 | 目 | 循環器② 血圧、不整脈 |
| 学習目標・ポイント | | 弁疾患、高血圧症、不整脈 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 8 項 | 目 | 循環器③ リンパ、ショック、水・電解質 |
| 学習目標・ポイント | | リンパ、ショック、水・電解質 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 9 項 | 目 | 消化器 |
| 学習目標・ポイント | | 逆流性食道炎、食道癌、食道静脈瘤、胃潰瘍、大腸炎、クローン病、大腸癌 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 10 項 | 目 | 代謝 |
| 学習目標・ポイント | | インスリンの作用、糖尿病の症状、合併症、高脂血症、痛風 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 11 項 | 目 | 肝胆膵 |
| 学習目標・ポイント | | 急性肝炎、慢性肝炎、胆石症、急性膵炎、慢性膵炎 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 12 項 | 目 | 内分泌 |
| 学習目標・ポイント | | 下垂体と視床下部、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患、クッシング症候群 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 13 項 | 目 | 血液 |
| 学習目標・ポイント | | 貧血総論、急性白血病、慢性骨髄性白血病、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 14 項 | 目 | 腎 |
| 学習目標・ポイント | | 糸球体濾過値 腎不全、ネフローゼ症候群 急性糸球体腎炎 膀胱炎 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 15 項 | 目 | 神経 ① |
| 学習目標・ポイント | | 錐体路、脳血管障害、くも膜下出血 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |

| | | |
|-----------|---|-----------------------------------|
| 16項 | 目 | 神経② |
| 学習目標・ポイント | | 認知症、パーキンソン病、ALS、筋ジストロフィー |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 17項 | 目 | リウマチ・膠原病 |
| 学習目標・ポイント | | 関節リウマチ、SLE、皮膚筋炎、強皮症、ベーチェット病、リウマチ熱 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 18項 | 目 | 感染症 |
| 学習目標・ポイント | | 感染症総論、細菌感染症、ウイルス感染症、エイズ、真菌感染症 |
| 使用する材料 | | 教科書、資料配布、スライド |
| 備考 | | |
| 19項 | 目 | 国家試験問題演習① |
| 学習目標・ポイント | | 国家試験問題の解説その1 |
| 使用する材料 | | 資料配布 |
| 備考 | | |
| 20項 | 目 | 国家試験問題演習② |
| 学習目標・ポイント | | 国家試験問題の解説その2 |
| 使用する材料 | | 資料配布 |
| 備考 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対外科整形 |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基/ 嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 統合教育科目Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 4(120) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 国家試験合格に必要なかつ十分な対応ができるための外科学、整形外科学の知識を獲得する。 |
| 到 達 目 標 | 医療人として外科的処置、外科的疾患及び整形外科疾患を科学的に理解できるようになる |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 卒業総合試験の結果において他教科との協議後100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 樋口 朋基 1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など) 2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師 嶋田 リエ 1、担当科目における教育上の業績 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校 専任教員として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 同大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 損傷、創傷 |
| 学習目標・ポイント | 損傷、創傷が理解でき、治癒過程の正常・異常に対応できるようになる |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 熱傷、炎症と外科感染症 |
| 学習目標・ポイント | 熱傷の重症度を理解し対応ができる。種々の感染症を知り、その対応を理解する |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 腫瘍 |
| 学習目標・ポイント | 腫瘍の本態が説明ができ、原因、分類、治療を理解する |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | ショック、輸血、輸液 |
| 学習目標・ポイント | ショックの本態と分類・対応の理解。血液・体液の組成と輸血・輸液時の要件が説明できる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 消毒と滅菌、手術 |
| 学習目標・ポイント | 消毒・滅菌を理解し、適切な選択ができるようになる。手術の分類と基本主義が理解できる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 麻酔、移植と免疫 |
| 学習目標・ポイント | 除痛に関する歴史とその種類・対応を知る。移植の種類を知り、現況を理解する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 出血と止血、心肺蘇生法 |
| 学習目標・ポイント | 出血の種類が理解でき、ある程度の止血処置ができる。心肺蘇生の適応を知り、心肺蘇生ができるようになる。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 脳外科疾患・頭部外傷 |
| 学習目標・ポイント | 脳出血、脳卒中の種類が理解できる。頭部外傷の種類を理解し、鑑別が出来るようになる |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 胸部外傷・腹部外傷 |
| 学習目標・ポイント | 胸部外傷・腹部外傷の種類を理解し、鑑別が出来るようになる。。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 外科学総まとめ |
| 学習目標・ポイント | 外科学の総復習および復習問題の実施 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 整形外科の診断学(検査法と診察) |
| 学習目標・ポイント | 実際の臨床で行われる整形外科疾患に対する検査や診察法を理解する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 整形外科総論(運動器の外傷) |
| 学習目標・ポイント | 各種の骨・関節損傷の内容とその治療方法についてまとめて理解し、柔道整復師として対応できるようにする。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 整形外科疾患各論(関節リウマチおよび全身疾患) |
| 学習目標・ポイント | 関節リウマチおよび感染疾患、代謝疾患など全身にわたる整形外科疾患を学習する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 整形外科疾患各論(スポーツ整形) |
| 学習目標・ポイント | スポーツ傷害全般の病態や治療法について学習する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 整形外科疾患各論(腫瘍) |
| 学習目標・ポイント | 整形外科で扱う骨・軟部腫瘍について理解する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | | |
|-----------|---|-------------------------------------|
| 16項 | 目 | 整形外科疾患各論1 |
| 学習目標・ポイント | | 肩関節から手指までの整形外科疾患の病態・治療法について整理し理解する。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 17項 | 目 | 整形外科疾患各論2 |
| 学習目標・ポイント | | 下腿、足の整形外科疾患の病態・治療法について整理し理解する。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 18項 | 目 | 整形外科疾患各論3 |
| 学習目標・ポイント | | 脊椎の整形外科疾患の病態・治療法について整理し理解する。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 19項 | 目 | 整形外科疾患各論4 |
| 学習目標・ポイント | | その他の整形外科疾患の病態・治療法について整理し理解する。 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 20項 | 目 | 整形外科学総まとめ |
| 学習目標・ポイント | | 整形外科学の総復習および復習問題の実施 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対柔理 |
| 担 当 教 員 | 丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 統合教育科目Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 4(120) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 1年次、2年次で学んだ柔道整復理論内容を復習・整理し、柔道整復師として必要な知識を習得しつつ、最終的には国家試験に合格することを目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 全範囲を復習し、自分の知識として理論的に整理・説明することが出来る。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 国対一般臨床、国対外科整形と併せて「卒業総合試験」を第1として成績を100点で評価する。出席状況や授業内評価も参考とする。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次 「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次 「柔整理論【下肢】」担当(継続中) |

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 1 項 目 | 下肢 股部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 下肢 股部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 下肢 大腿部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 下肢 膝部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 下肢 膝部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 下肢 膝部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 下肢 下腿部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 下肢 下腿部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 下肢 足部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 下肢 足部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 頭部・体幹 頭部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 頭部・体幹 頸部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 頭部・体幹 体幹部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 頭部・体幹 腰部 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 総合演習1 |
| 学習目標・ポイント | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | 教科書、授業プリント |
| 備考 | |

| | | |
|-----------|---|---------------------------------|
| 16項 | 目 | 総合演習2 |
| 学習目標・ポイント | | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | | 教科書、授業プリント |
| 備考 | | |
| 17項 | 目 | 総合演習3 |
| 学習目標・ポイント | | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | | 教科書、授業プリント |
| 備考 | | |
| 18項 | 目 | 総合演習4 |
| 学習目標・ポイント | | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | | 教科書、授業プリント |
| 備考 | | |
| 19項 | 目 | 総合演習5 |
| 学習目標・ポイント | | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | | 教科書、授業プリント |
| 備考 | | |
| 20項 | 目 | 総合演習6 |
| 学習目標・ポイント | | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | | 教科書、授業プリント |
| 備考 | | |
| 21項 | 目 | 総合演習7 |
| 学習目標・ポイント | | 1年次・2年次習得内容の復習・整理・理解、各論との関連性を理解 |
| 使用する材料 | | 教科書、授業プリント |
| 備考 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | トレーナー基礎 |
| 担 当 教 員 | 池尻 稔明 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎実技 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義・実技 |
| 開 講 期 間 | 集中 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 応急手当(1次救命処置・ファーストエイド)の大切さを理解させるとともに、応急手当を積極的に実施できる人材に育てることを目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 応急手当(1次救命処置・ファーストエイド)ができる。 スポーツ現場において外傷や緊急を要する事柄が起こった時、医療人として適切な判断、処置が出来るようにする。 夏の学外実習(堺サッカーフェスティバル等)に向けて行動できるようにする。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト20%、レポート10%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。 出席点とする。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 手指消毒・マスク着用の徹底 3蜜の回避 |
| 教育・実務業績 | (1400文字以内) 池尻 稔明 1、担当科目における教育上の業績 平成21年2月1日 赤十字救急法指導員 資格を取得し 日本赤十字兵庫県支部にて救急法講習指導を開始 平成22年4月1日 関西健康科学専門学校にて救急実習を実施 平成24年4月1日 貴校にて救急実習を実施 2、実務上の業績(臨床経験等) 平成29年11月15日 日本赤十字社兵庫県支部より功労として感謝状を授与される 平成30年10月2日 市民灸救命士講習を修了 令和元年7月 地域の幼稚園教諭に救急講習会を実施 現在も日本赤十字社兵庫県支部において救急法講習指導を継続中 嶋田 リエ 1、担当科目における教育上の業績 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校 専任教員として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 同大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務 |

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 1 項 目 | ファーストエイド(応急手当) |
| 学習目標・ポイント | ファーストエイドの重要性を伝え理解させる |
| 使用する材料 | 配布資料 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | ファーストエイド(応急手当) |
| 学習目標・ポイント | ファーストエイドの重要性を伝え理解させる |
| 使用する材料 | 配布資料 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 体位変換・回復体位・意識あった時の対応方法 |
| 学習目標・ポイント | 体位変換・回復体位を習得させる |
| 使用する材料 | 特になし |
| 備考 | 場所:柔道場を希望 |
| 4 項 目 | 1次救命処置(心肺蘇生及びAED) |
| 学習目標・ポイント | 胸骨圧迫・人工呼吸及びAEDを正しい手順で習得させる |
| 使用する材料 | リトルアン・AED等 |
| 備考 | 場所:柔道場を希望 |
| 5 項 目 | コロナ禍での1次救命処置(心肺蘇生及びAED) |
| 学習目標・ポイント | 胸骨圧迫・AEDを正しい手順で習得させる |
| 使用する材料 | リトルアン・AED等 |
| 備考 | 場所:柔道場を希望 |
| 6 項 目 | 1次救命処置・オートショックAEDについて・気道異物除去 |
| 学習目標・ポイント | オートショックAEDの使い方・気道異物除去の正しい方法を習得させる |
| 使用する材料 | リトルアン・AED等 |
| 備考 | 場所:柔道場を希望 |
| 7 項 目 | 止血法 |
| 学習目標・ポイント | 直接圧迫止血及び止血帯止血法を習得させる |
| 使用する材料 | 三角巾及び長さ20cm直径1cmほどの棒・ターニケット・ビニール袋 |
| 備考 | 場所:柔道場を希望 |
| 8 項 目 | 搬送① |
| 学習目標・ポイント | スパインボードを使用した搬送方法を理解する。 |
| 使用する材料 | スパインボード、スライド |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 搬送② |
| 学習目標・ポイント | スパインボードを使用した搬送方法を理解する。 |
| 使用する材料 | スパインボード、スライド |
| 備考 | |
| 10 項 目 | アイシング① |
| 学習目標・ポイント | アイシングの方法を理解する。 |
| 使用する材料 | スライド・アイシング用品一式 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | アイシング② |
| 学習目標・ポイント | アイシングの方法を理解する。 |
| 使用する材料 | スライド・アイシング用品一式 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | アイシング③ |
| 学習目標・ポイント | アイシングの方法を理解する。 |
| 使用する材料 | スライド・アイシング用品一式 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | RICE処置① |
| 学習目標・ポイント | RICE処置を理解する。 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 14 項 目 | RICE処置② |
| 学習目標・ポイント | RICE処置を理解する。 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |
| 15 項 目 | RICE処置③ |
| 学習目標・ポイント | RICE処置を理解する。 |
| 使用する材料 | スライド |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 骨体表(触診) |
| 担 当 教 員 | 益 賢明 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎実技Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 通年 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 臨床で必要な人体の現状を把握するため、解剖学の知識の取得、正常な状態の骨・筋の形と位置を正確に知ることにより現場で重要である触診の仕方を得ることを目的とする。 |
| 到 達 目 標 | 触診技術を取得し、その上で考えていく骨、筋の解剖学の理解することにより臨床の知恵を身につける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 実技試験(100%)で評価する。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 実技授業です。積極的に触診の練習をしましょう。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | <p>益 賢明</p> <p>担当科目における教育上の業績： 平成17年より教員助手として当校に勤務 平成23年より専任教員として当校に勤務</p> <p>実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。</p> |

| | | |
|-----------|---|-----------|
| 1 項 | 目 | 上肢の触診① |
| 学習目標・ポイント | | 骨の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 2 項 | 目 | 上肢の触診② |
| 学習目標・ポイント | | 骨の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 3 項 | 目 | 上肢の触診③ |
| 学習目標・ポイント | | 骨の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 4 項 | 目 | 上肢の触診④ |
| 学習目標・ポイント | | 筋の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 5 項 | 目 | 上肢の触診⑤ |
| 学習目標・ポイント | | 筋の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 6 項 | 目 | 上肢の触診⑥ |
| 学習目標・ポイント | | 筋の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 7 項 | 目 | 下肢の触診① |
| 学習目標・ポイント | | 骨の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 8 項 | 目 | 下肢の触診② |
| 学習目標・ポイント | | 骨の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 9 項 | 目 | 下肢の触診③ |
| 学習目標・ポイント | | 骨の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 10 項 | 目 | 下肢の触診④ |
| 学習目標・ポイント | | 筋の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 11 項 | 目 | 下肢の触診⑤ |
| 学習目標・ポイント | | 筋の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 12 項 | 目 | 体幹の触診① |
| 学習目標・ポイント | | 骨と筋の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 13 項 | 目 | 体幹の触診② |
| 学習目標・ポイント | | 骨と筋の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 14 項 | 目 | 体幹の触診③ |
| 学習目標・ポイント | | 骨と筋の触診 |
| 使用する材料 | | 解剖学教科書 |
| 備考 | | |
| 15 項 | 目 | 実技試験 |
| 学習目標・ポイント | | 授業の理解度を測る |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 包帯学 |
| 担 当 教 員 | 石井 裕己／嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎実技Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復師科が行う治療法には主に整復法・固定法、後療法の3種類がある。この科目では初めに固定における基礎的事項(固定の目的・範囲・肢位・固定材料の種類)を学んだ後、基本的包帯法と冠名包帯法を習得し、さらにそれらを組合せた身体各部位の包帯法の実習へと進めていく。 |
| 到 達 目 標 | 固定法の基本となる巻軸包帯を用いた想定患部固定について実技実習を行い、その基本的技術を習得することを目標とする。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 ①授業内評価 60% ②チェックシート 25% ③ノート・出席点 15% |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命 嶋田 リエ 1、担当科目における教育上の業績 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校 専任教員として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 同大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務 |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | 各用具や包帯の目的を知る |
| 学習目標・ポイント | 晒一端⇒裂、包帯の名称、手巻きを覚える。機械巻きは次回使用する旨伝える。 |
| 使用する材料 | 包帯セット購入分すべて(確認と使用方法の指導) |
| 備考 | 次回準備物の指示(自作ノートの作成、次回の授業予定指示) |
| 2 項 目 | 基本包帯実施 |
| 学習目標・ポイント | A.手関節遊離三角止めー環行帯ー蛇行帯ー上腕上部環行止め(肘関節90度) |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 3 項 目 | 各種基本包帯法 |
| 学習目標・ポイント | B.足背部ー下腿蛇行上行ー膝上部環行ー下腿蛇行下行ー足背部上行螺旋ー内外果上環 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 4 項 目 | 各種基本包帯法 |
| 学習目標・ポイント | C.肘90度、膝軽度屈曲位での関節部離開・集合亀甲帯 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 5 項 目 | 各種基本包帯法 |
| 学習目標・ポイント | D.提肘三角巾 上肢シーネ(金属副子)の粗止め |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 6 項 目 | 抜き打ち確認評価・出遅れ再評価 |
| 学習目標・ポイント | A.~D.までの再確認 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 7 項 目 | 各種基本包帯法 |
| 学習目標・ポイント | E.4. 5指全指帯・2. 3指指頭包裹帯 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 8 項 目 | 各種基本包帯法 |
| 学習目標・ポイント | F.拇指、手背部帯(左・右)上行麦穂・(左・右)下行麦穂 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 9 項 目 | 各種基本包帯法 |
| 学習目標・ポイント | G.前腕折転帯・下腿折転帯 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 10 項 目 | 抜き打ち確認評価・出遅れ再評価 |
| 学習目標・ポイント | A.~G.までの再確認 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 11 項 目 | 各種基本包帯法 |
| 学習目標・ポイント | H.足趾部包裹帯ー足背部鍔帯ー上行麦穂帯ー離開亀甲帯ー三節帯ー下行麦穂帯 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 12 項 目 | 各種基本包帯法 |
| 学習目標・ポイント | 試験内容:J.手足部被覆(手(上行)~肘(集合帯)~肩(上行)・足背~膝(離開帯))の複合巻軸 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 13 項 目 | 各種基本包帯法 |
| 学習目標・ポイント | 試験内容:J.手足部被覆(手(上行)~肘(集合帯)~肩(上行)・足背~膝(離開帯))の複合巻軸 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 14 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | チェック表・ノート提出、出席、授業態度等。 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 実技についての意識を指導する。 |
| 15 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | チェック表・ノート提出、出席、授業態度等。 |
| 使用する材料 | 白衣、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 実技についての意識を指導する。 |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | テーブ・キネ |
| 担 当 教 員 | 益 賢明/樋口 朋基 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎実技IV |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | テーピングの構造、種類を理解する。 関節を動かす筋の解剖学知識を知り、関節運動に制限をかけたり、動きを促進させるテーピングの技術を身につける。 |
| 到 達 目 標 | 筋の走行、目的に応じたテーピングの選択、貼る技術を身につけることを目的とする。 |
| 成績評価方法及び基準 | ・実技試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | ・患部の固定や保護など目的に応じたテーピング技術を身につけます。 ・筋の走行をテーブを貼ることで理解します。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | <p>益 賢明 担当科目における教育上の業績： 平成17年より教員助手として当校に勤務 平成23年より専任教員として当校に勤務</p> <p>実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。</p> <p>樋口 朋基 実務上の業績 平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など)</p> <p>令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師</p> |

| | |
|-----------|-------------------|
| 1 項 目 | テーピングの基礎 |
| 学習目標・ポイント | テーピングの種類、使い方を理解する |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 足関節のテーピング① |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 足関節のテーピング② |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 下腿部のテーピング① |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 膝関節のテーピング① |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 膝関節のテーピング② |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 大腿部のテーピング |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 肩関節のテーピング① |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 肩関節のテーピング② |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 上腕部・肘関節のテーピング① |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 上腕部・肘関節のテーピング② |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 前腕部・手関節のテーピング① |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 前腕部・手関節のテーピング② |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 体幹部のテーピング |
| 学習目標・ポイント | テーピング技術の向上 |
| 使用する材料 | テーピング |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 単位認定試験 |
| 学習目標・ポイント | 授業の理解度を測る |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 基礎実技上肢 I |
| 担 当 教 員 | 竹本 晋史 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整実技 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間 I 部 ・ 昼間 II 部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 知識としてまず、解剖を理解した上で各損傷を深く熟知してもらう。技術面では体表解剖を正確に触診出来ることを最低限のノルマとして、正確な柔道整復術と検査法、的確な固定法を身につけてもらう。また、患者への愛護的な扱いと対話の重要性を理解し社会奉仕の心を構築する。 |
| 到 達 目 標 | 医療人としての知識と技術と常識を養う事を目標とする。 |
| 成績評価方法及び基準 | 平常点10% 服装、身だしなみ、言動 レポート20% 各項目のまとめを図説入りで行う 実技試験70% 整復操作・固定操作(OSCE) |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 医療人としての知識と技術と常識を養う事は勿論、人格形成が最重要。 医療人として、柔道整復師としての自覚と責務を育ててください。 |
| 教育・実務業績 | 平成12年 竹本鍼灸整骨院開設 平成19年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専科教員 平成24年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 学科長 平成29年9月～柔道整復認定実技審査員 令和3年4月～平成医療学園専門学校 教務部長 平成17年～現在 筋骨格画像研究会会長 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成26年3月 東洋療法教員養成学科卒業 平成26年4月～鍼灸科3年応用実技Ⅲ授業担当 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 自己紹介・一般外傷症状・骨折・脱臼固有症状・包帯復習 |
| 学習目標・ポイント | 骨折・脱臼症状の再確認と包帯固定の理解。基本包帯から固定包帯への意識を持ってもらう |
| 使用する材料 | 包帯持参 |
| 備 考 | |
| 2 項 目 | シーネ作成 |
| 学習目標・ポイント | 固定時に使用するクラメルシーネの作成 |
| 使用する材料 | クラメル・木綿・ガーゼ・新聞・包帯 |
| 備 考 | |
| 3 項 目 | 肩部～上腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・臨床症状・骨片転位・変形から鑑別診断(徒手検査を含む)を行える能力を学ぶ。合併症の確認、整復を行う能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 4 項 目 | 肩部～上腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・臨床症状・骨片転位・変形から鑑別診断(徒手検査を含む)を行える能力を学ぶ。合併症の確認、整復を行う能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 5 項 目 | 肩部～上腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 整復操作、固定操作が正確にできるようになり、合併症の確認から、固定期間、指導管理が説明できる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 6 項 目 | 肩部～上腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 整復操作、固定操作が正確にできるようになり、合併症の確認から、固定期間、指導管理が説明できる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 7 項 目 | 肩部～上腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 診察から指導管理まで正確で迅速に行えるようになり、各疾患の臨床症状を整理し、損傷程度に合わせた整復・固定ができる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 8 項 目 | 肩部～上腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 診察から指導管理まで正確で迅速に行えるようになり、各疾患の臨床症状を整理し、損傷程度に合わせた整復・固定ができる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 9 項 目 | 肘部～前腕 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・臨床症状・骨片転位・変形から鑑別診断(徒手検査を含む)を行える能力を学ぶ。合併症の確認、整復を行う能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 10 項 目 | 肘部～前腕 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・臨床症状・骨片転位・変形から鑑別診断(徒手検査を含む)を行える能力を学ぶ。合併症の確認、整復を行う能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 11 項 目 | 肘部～前腕 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 整復操作、固定操作が正確にできるようになり、合併症の確認から、固定期間、指導管理が説明できる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 12 項 目 | 肘部～前腕 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 整復操作、固定操作が正確にできるようになり、合併症の確認から、固定期間、指導管理が説明できる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備 考 | |
| 13 項 目 | 肘部～前腕 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 診察から指導管理まで正確で迅速に行えるようになり、各疾患の臨床症状を整理し、損傷程度に合わせた整復・固定ができる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・アルフェンス・脱脂綿 |
| 備 考 | |
| 14 項 目 | 肘部～前腕 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 診察から指導管理まで正確で迅速に行えるようになり、各疾患の臨床症状を整理し、損傷程度に合わせた整復・固定ができる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・アルフェンス・脱脂綿 |
| 備 考 | |
| 15 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | 前期の理解度、技術の向上度を確認 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・シーネ |
| 備 考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 基礎実技下肢Ⅰ |
| 担 当 教 員 | 村上征寛/石井裕己 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整実技Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 外傷に対する評価、応急処置、リハビリを理解させる。 |
| 到 達 目 標 | それぞれの損傷に対して迅速にかつ丁寧な処置を行う。 |
| 成績評価方法及び基準 | <p>【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。</p> <p>授業内評価・出席などで100%の評価を行う。</p> |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | <p>【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教育・実務業績 | <p>村上 征寛 平成6年2月 柔道整復師専科教員免許修得 平成7年12月 村上鍼灸指圧整骨院 開設 平成14年7月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員 平成19年9月 柔道整復認定実技審査員 平成20年6月 全国柔整鍼灸協同組合 ボランティア局長 平成26年3月 日本陸連トレーナー部 所属 平成26年3月 東洋療法教員養成科 卒業</p> <p>石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命</p> |

| | |
|-----------|---|
| 1 項 目 | 自己紹介・実技とは |
| 学習目標・ポイント | 班分け・実技に対する心構え、実技試験の内容説明 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 足関節外側側副靭帯損傷 |
| 学習目標・ポイント | 足部の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 足関節外側側副靭帯損傷 |
| 学習目標・ポイント | テーピングの走行を理解し固定法を学ぶ。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント、ホワイトテーピング3.8mm、アンダーラップ |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 足関節外側側副靭帯損傷 応用 |
| 学習目標・ポイント | 基礎と応用を理解する。キネシオテーピング3.8mm、包帯(6裂) |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 足関節 局所副子固定・テーピング復習 |
| 学習目標・ポイント | 副子・包帯を用いた固定・テーピングの復習 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント、ホワイトテーピング3.8mm、クラーメル副子 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | アキレス腱断裂、アキレス腱周囲の損傷 |
| 学習目標・ポイント | 損傷を理解し、固定の重要性を学ぶ。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント、クラーメル副子、4裂・3裂包帯、枕子、ホワイトテーピング5.0mm |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 下腿三頭筋肉ばなれ |
| 学習目標・ポイント | 下腿部の解剖、損傷を理解し、検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント、クラーメル副子、4裂・3裂包帯、枕子、ホワイトテーピング5.0mm |
| 備考 | |
| 8 項 目 | ハムストリングス肉離れ |
| 学習目標・ポイント | ハムストリングスの解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | ハムストリングス肉離れ |
| 学習目標・ポイント | ハムストリングスの解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 膝蓋骨脱臼・膝蓋骨骨折 |
| 学習目標・ポイント | 膝蓋骨の特徴を理解し固定法を学ぶ。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント、キネシオテーピング3.8mm・5.0mm |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 大腿四頭筋打撲 |
| 学習目標・ポイント | 大腿四頭筋の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 大腿四頭筋打撲 |
| 学習目標・ポイント | 大腿四頭筋の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | 前期範囲内の復習 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 総復習 |
| 学習目標・ポイント | 前期範囲内の復習 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | 前期評価 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|--|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 基礎実技上肢下肢 |
| 担 当 教 員 | 竹本晋史 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整実技Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 夏期集中 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 知識としてまず、解剖を理解した上で各損傷を深く熟知してもらう。技術面では体表解剖を正確に触診出来ることを最低限のノルマとして、正確な柔道整復術と検査法、的確な固定法を身につけてもらう。また、患者への愛護的な扱いと対話の重要性を理解し社会奉仕の心を構築する。 |
| 到 達 目 標 | 医療人としての知識と技術と常識を養う事を目標とする。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 平常点10% 服装、身だしなみ、言動 レポート20% 各項目のまとめを図説入りで行う 実技試験70% 整復操作・固定操作 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受 講 者 へ の メ ッ セ ー ジ) | 医療人としての知識と技術と常識を養う事は勿論、人格形成が最重要。 医療人として、柔道整復師としての自覚と責務を育ててください。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 平成12年 竹本鍼灸整骨院開設 平成19年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専科教員 平成24年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 学科長 平成29年9月～柔道整復認定実技審査員 令和3年4月～平成医療学園専門学校 教務部長 平成17年～現在 筋骨格画像研究会会長 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成26年3月 東洋療法教員養成学科卒業 平成26年4月～鍼灸科3年応用実技Ⅲ授業担当 |

| | | |
|----|-----------|---|
| 1 | 項目 | 鎖骨骨折(転位無し) |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・脱脂綿 |
| | 備考 | |
| 2 | 項目 | 鎖骨骨折(転位あり) |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・脱脂綿 |
| | 備考 | |
| 3 | 項目 | 上腕骨外科頸外転型骨折(ハンギングキャスト) |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ |
| | 備考 | |
| 4 | 項目 | 上腕骨外科頸外転型骨折(ミッテルドルフ) |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ |
| | 備考 | |
| 5 | 項目 | 上腕骨類上骨折(伸展型) |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ |
| | 備考 | |
| 6 | 項目 | 橈骨遠位端骨折 |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ |
| | 備考 | |
| 7 | 項目 | 橈骨遠位端骨折 |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ |
| | 備考 | |
| 8 | 項目 | ハムSTRING損傷 |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・筋肉の走行を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花 |
| | 備考 | |
| 9 | 項目 | 大腿四頭筋損傷 |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・筋肉の走行を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花 |
| | 備考 | |
| 10 | 項目 | 大腿四頭筋損傷(打撲) |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・筋肉の走行を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花 |
| | 備考 | |
| 11 | 項目 | 膝内側副靭帯損傷 |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・関節の構造を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花 |
| | 備考 | |
| 12 | 項目 | 膝半月板損傷 |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・関節の構造を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花 |
| | 備考 | |
| 13 | 項目 | 足関節捻挫 |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・関節の構造を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花 |
| | 備考 | |
| 14 | 項目 | 総復習 |
| | 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・骨片転位、筋肉の走行、関節の構造を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・シーネ |
| | 備考 | |
| 15 | 項目 | 授業内評価 |
| | 学習目標・ポイント | 各自の弱点を認識し克服する。正確な固定法の理解。 |
| | 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ |
| | 備考 | |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 基礎実技上肢Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 竹本 晋史 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整実技Ⅳ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 知識としてまず、解剖を理解した上で各損傷を深く熟知してもらう。技術面では体表解剖を正確に触診出来ることを最低限のノルマとして、正確な柔道整復術と検査法、的確な固定法を身につけてもらう。また、患者への愛護的な扱いと対話の重要性を理解し社会奉仕の心を構築する。 |
| 到 達 目 標 | 医療人としての知識と技術と常識を養う事を目標とする。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 平常点10% 服装、身だしなみ、言動 レポート20% 各項目のまとめを図説入りで行う 実技試験70% 整復操作・固定操作 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受講者へのメッセージ) | 医療人としての知識と技術と常識を養う事は勿論、人格形成が最重要。 医療人として、柔道整復師としての自覚と責務を育ててください。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 平成12年 竹本鍼灸整骨院開設 平成19年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専科教員 平成24年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 学科長 平成29年9月～柔道整復認定実技審査員 令和3年4月～平成医療学園専門学校 教務部長 平成17年～現在 筋骨格画像研究会会長 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成26年3月 東洋療法教員養成学科卒業 平成26年4月～鍼灸科3年応用実技Ⅲ授業担当 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 手関節～指 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・臨床症状・骨片転位・変形から鑑別診断(徒手検査を含む)を行える能力を学ぶ。 合併症の確認、整復を行う能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・脱脂綿・アルフェンス |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 手関節～指 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・臨床症状・骨片転位・変形から鑑別診断(徒手検査を含む)を行える能力を学ぶ。 合併症の確認、整復を行う能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・ホワイトテープ・スタレ副子 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 手関節～指 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 整復操作、固定操作が正確にできるようになり、合併症の確認から、 固定期間、指導管理が説明できる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 手関節～指 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 整復操作、固定操作が正確にできるようになり、合併症の確認から、 固定期間、指導管理が説明できる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 手関節～指 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。整復時の骨の動きをイメージし、 再転位を防止する固定法を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・アルフェンス |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 手関節～指 骨折・脱臼・軟部組織損傷 |
| 学習目標・ポイント | 診察から指導管理まで正確で迅速に行えるようになり、各疾患の臨床症状を整理し、 損傷程度に合わせた整復・固定ができる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・アルフェンスシーネ |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 肩部～上腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷【復習】 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・臨床症状・骨片転位・変形から鑑別診断(徒手検査を含む)を行える能力を学ぶ。 合併症の確認、整復を行う能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・キネシオテープ・ストックネット |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 肩部～上腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷【復習】 |
| 学習目標・ポイント | 整復操作、固定操作が正確にできるようになり、合併症の確認から、 固定期間、指導管理が説明できる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・アルフェンスシーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 肩部～上腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷【復習】 |
| 学習目標・ポイント | 診察から指導管理まで正確で迅速に行えるようになり、各疾患の臨床症状を整理し、 損傷程度に合わせた整復・固定ができる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・ブライton・バケツ・お湯・脱脂綿・ハサミ |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 肘部～前腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷【復習】 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・臨床症状・骨片転位・変形から鑑別診断(徒手検査を含む)を行える能力を学ぶ。 合併症の確認、整復を行う能力を身につける。 |
| 使用する材料 | キャストライt・三角巾・ブルーラップ・ストックネット・ギブスカッター |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 肘部～前腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷【復習】 |
| 学習目標・ポイント | 整復操作、固定操作が正確にできるようになり、合併症の確認から、 固定期間、指導管理が説明できる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 石膏ギブス・三角巾・ブルーラップ・ストックネット・ギブスカッター |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 肘部～前腕部 骨折・脱臼・軟部組織損傷【復習】 |
| 学習目標・ポイント | 診察から指導管理まで正確で迅速に行えるようになり、各疾患の臨床症状を整理し、 損傷程度に合わせた整復・固定ができる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・シーネ |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 手部～指部 骨折・脱臼・軟部組織損傷【復習】 |
| 学習目標・ポイント | 概説・発生機序・臨床症状・骨片転位・変形から鑑別診断(徒手検査を含む)を行える能力を学ぶ。 合併症の確認、整復を行う能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・シーネ |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 手部～指部 骨折・脱臼・軟部組織損傷【復習】 |
| 学習目標・ポイント | 整復操作、固定操作が正確にできるようになり、合併症の確認から、 固定期間、指導管理が説明できる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・シーネ |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 手部～指部 骨折・脱臼・軟部組織損傷【復習】 |
| 学習目標・ポイント | 診察から指導管理まで正確で迅速に行えるようになり、各疾患の臨床症状を整理し、 損傷程度に合わせた整復・固定ができる能力を身につける。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・シーネ |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 基礎実技下肢Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 村上征寛/石井裕己 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 基礎柔整実技Ⅴ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 外傷に対するの評価、応急処置、リハビリを理解させる。 |
| 到 達 目 標 | それぞれの損傷に対して迅速にかつ丁寧な処置を行う。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 授業内評価、出席などで100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 村上 征寛 平成6年2月 柔道整復師専科教員免許修得 平成7年12月 村上鍼灸指圧整骨院 開設 平成14年7月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員 平成19年9月 柔道整復認定実技審査員 平成20年6月 全国柔整鍼灸協同組合 ボランティア局長 平成26年3月 日本陸連トレーナー部 所属 平成26年3月 東洋療法教員養成科 卒業 石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 肋骨骨折 固定法 |
| 学習目標・ポイント | 損傷を理解し、固定の重要性を学ぶ。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 膝関節側副靭帯損傷 |
| 学習目標・ポイント | 膝部の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 膝関節側副靭帯損傷 |
| 学習目標・ポイント | 損傷を理解し、固定の重要性を学ぶ。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント、ホワイトテーピング5.0mm、アンダーラップ |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 膝関節半月板損傷 |
| 学習目標・ポイント | 膝部の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 膝関節半月板損傷 |
| 学習目標・ポイント | 膝部の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 膝関節半月板損傷 |
| 学習目標・ポイント | 損傷を理解し、固定の重要性を学ぶ。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント、キネシオ3.8mm、5.0mm |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 膝関節十字靭帯損傷 |
| 学習目標・ポイント | 膝部の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 膝関節十字靭帯損傷 |
| 学習目標・ポイント | 膝部の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 下腿骨骨幹部骨折 固定法 |
| 学習目標・ポイント | 下腿部の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント、包帯(4または3裂)、枕子 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 下腿骨骨幹部骨折 固定法 |
| 学習目標・ポイント | 下腿部の解剖を理解し損傷を学び検査法の手順を覚える。 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント、包帯(4または3裂)、枕子 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 下腿部復習(前期範囲も含む) |
| 学習目標・ポイント | 前期・後期の復習 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 下腿部復習(前期範囲も含む) |
| 学習目標・ポイント | 前期・後期の復習 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 総復習(検査法・固定法) |
| 学習目標・ポイント | 前期・後期の復習 |
| 使用する材料 | 教科書(柔道整復学・実技編 改訂第2版)、プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | 前期・後期の復習 |
| 使用する材料 | 教科書、プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 授業内再評価 |
| 学習目標・ポイント | 後期評価 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 臨床柔整 I |
| 担 当 教 員 | 石井 裕己／嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 応用実技 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1 (30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 次の学年以降の実技授業への橋渡しとして、応用包帯法や副子などの固定材料を用いて、より実践的な固定法についても取り組む。 |
| 到 達 目 標 | 2年、3年次に実技がより理解しやすかつ座学に対しても学習意欲が向上し、認定実技試験、国家試験強いては卒後の就職、開業の際に施術の基礎としての包帯術を身に付ける。 |
| 成績評価方法及び基準 | <p>【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 評価は以下、①～④で評価する。</p> <p>①授業内評価 40% ②中間評価 25% ③チェックシート 20% ④ノート・出席 15%</p> |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | <p>【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教育・実務業績 | <p>石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命</p> <p>嶋田 リエ 1、担当科目における教育上の業績 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校 専任教員として勤務</p> <p>2、実務上の業績(臨床経験等) 平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 同大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務</p> |

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 1 項 目 | 各種の体幹包帯法 |
| 学習目標・ポイント | I.(左・右)肩上行麦穂帯(左・右)肩下行麦穂帯-提肘三角巾 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 2 項 目 | 各種の体幹包帯法 |
| 学習目標・ポイント | J.晒体幹帯(大腿股部・腰腹部又は妊産婦腹帯) |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 3 項 目 | 各種の体幹包帯法 |
| 学習目標・ポイント | K.デゾー包帯(1帯~2帯)(右・左) |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 4 項 目 | 各種の体幹包帯法 |
| 学習目標・ポイント | L.デゾー包帯(3帯~4帯)(右)・M.デゾー包帯(3帯~4帯)(左) |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 5 項 目 | 各種の体幹包帯法 |
| 学習目標・ポイント | N.ウェルポー包帯(右・左) |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 6 項 目 | 各種の体幹包帯法 |
| 学習目標・ポイント | O.ジュール包帯(右・左) |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 7 項 目 | 各種の体幹包帯法 |
| 学習目標・ポイント | K~O復習 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 8 項 目 | 中間評価 |
| 学習目標・ポイント | K~O復習 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 9 項 目 | 中間評価 |
| 学習目標・ポイント | K~O復習 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 10 項 目 | 目的別包帯術指導 P.背十字、デゾー変法 |
| 学習目標・ポイント | それぞれの帯に目的がある事と目的に沿った包帯走法を指導する。 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 11 項 目 | 目的別包帯術指導 Q.アルフェンスシーネ(指) |
| 学習目標・ポイント | それぞれの帯に目的がある事と目的に沿った包帯走法を指導する。 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 12 項 目 | 目的別包帯術指導 R. 上肢シーネ固定(手部~前腕~肘~上腕~肩)、三角巾 |
| 学習目標・ポイント | それぞれの帯に目的がある事と目的に沿った包帯走法を指導する。 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 13 項 目 | 評価確認 S.テーデン包帯(上肢・下肢) |
| 学習目標・ポイント | 総復習 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 14 項 目 | 授業内評価 S.テーデン包帯(上肢・下肢) |
| 学習目標・ポイント | チェック表・ノート提出、出席、授業態度等。 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |
| 15 項 目 | 授業内評価 S.テーデン包帯(上肢・下肢) |
| 学習目標・ポイント | チェック表・ノート提出、出席、授業態度等。 |
| 使用する材料 | 白衣(ケーシー)、包帯セット(学生)、評価チェック表、ノート、筆記用具 |
| 備考 | 次回準備物、授業予定指示 |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | スポーツ外傷 I |
| 担 当 教 員 | 山田 温/益 賢明 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 応用実技 II |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1 (30) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | スポーツ外傷・障害について外傷直後の評価からスポーツ競技復帰までのアスレティックリハビリテーションを学ぶ。またスポーツ競技向上のトレーニングについて学ぶ |
| 到 達 目 標 | 怪我の評価ができる。怪我の適切な処置ができる。怪我のリハビリプログラムが組める。スポーツ復帰までのプログラムが組める。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 山田 温 1、担当科目における教育上の業績 2004年4月～ 平成医療学園 柔道整復師科にて教務として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 2011年3月～ ワイズ接骨院にて管理柔整師として勤務 益 賢明 平成17年より教員助手として当校における柔道の授業を補助。 平成17年より教員助手として当校における柔整理論上肢の授業を補助。 平成23年より専任教員として当校における柔道の授業を担当。 平成23年より専任教員として当校における柔整理論上肢の授業を担当。 平成25年より専任教員として当校におけるトレーナー基礎の授業を担当。 実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。 |

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 1 項 目 | オリエンテーション、外傷の評価について |
| 学習目標・ポイント | SALTAPS、HOPS |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | RICES法について、アイシングの生理学について |
| 学習目標・ポイント | 二次的低酸素障害、ペインスパズムサイクル |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | ストレッチングについて(座学) |
| 学習目標・ポイント | 静的、動的ストレッチング |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | ストレッチングについて(実技) |
| 学習目標・ポイント | スタティック、ダイナミック、パートナー、PNF、IDストレッチングなど |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 足関節の外傷(座学) |
| 学習目標・ポイント | 靭帯、軟部組織の役割、鑑別診断など |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 足関節の外傷(実技) |
| 学習目標・ポイント | メディカルリハビリテーション |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 足関節の外傷(実技) |
| 学習目標・ポイント | アスレティックリハビリテーション |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 膝関節の外傷(座学) |
| 学習目標・ポイント | 靭帯、軟部組織の役割、鑑別診断など |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 膝関節の外傷(実技) |
| 学習目標・ポイント | メディカルリハビリテーション |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 膝関節の外傷(実技) |
| 学習目標・ポイント | アスレティックリハビリテーション |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 大腿部の外傷(座学) |
| 学習目標・ポイント | 靭帯、軟部組織の役割、鑑別診断など |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 大腿部の外傷(実技) |
| 学習目標・ポイント | メディカルリハビリテーション |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 大腿部の外傷(実技) |
| 学習目標・ポイント | アスレティックリハビリテーション |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 復習 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 今までの配布プリント |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 実技テスト |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 臨床柔整Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 松本 尚純 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 応用実技Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 通年 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 患者の疼痛、機能障害を解消するために、捻挫、打撲、挫傷の本質について理解し、損傷を的確に判断できるようになる。 |
| 到 達 目 標 | 各部位の損傷について、基本的な処置とその後の予後を予測し、機能面と運動面から治療することができる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 授業内評価で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 平成15年5月～平成27年2月 松本鍼灸整骨院 院長 平成27年3月～現在 まつもと整骨院鍼灸院 院長 平成26年3月～現在 公益財団法人日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー一部所属 平成17年～現在 筋骨格画像研究会講師 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成16年4月～平成18年9月 平成医療学園専門学校国家試験対策担当 平成18年10月 柔道整復師専科教員講習会修了 平成18年10月～平成29年3月 基礎実技上肢担当 平成29年4月～現在 画像診断担当 平成29年4月～令和1年11月 国対実技担当 令和2年4月～現在臨床柔整Ⅱ担当 |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 1 項 目 | 自己紹介・一般外傷の症状と処置の基本 |
| 学習目標・ポイント | 捻挫、打撲の症状についての理解と実技。 |
| 使用する材料 | 包帯持参・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 急性腰痛・腰椎捻挫 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・晒・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 急性腰痛・腰椎捻挫 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・晒・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 急性腰痛・腰椎捻挫 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・晒・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | キネシオテープ5cm・7.5cm |
| 5 項 目 | 寝違え・頸椎捻挫 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 寝違え・頸椎捻挫 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | キネシオテープ3.8cm、5cm |
| 7 項 目 | 寝違え・頸椎捻挫 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | キネシオテープ3.8cm、5cm |
| 8 項 目 | 下肢痛・股関節捻挫・膝関節捻挫・足関節捻挫・打撲・挫傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・晒・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 下肢痛・股関節捻挫・膝関節捻挫・足関節捻挫・打撲・挫傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・晒・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | キネシオテープ3.8cm、5cm |
| 10 項 目 | 下肢痛・股関節捻挫・膝関節捻挫・足関節捻挫・打撲・挫傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・晒・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | キネシオテープ3.8cm、5cm |
| 11 項 目 | 上肢痛・肩関節捻挫・肘関節捻挫・手関節捻挫・打撲・挫傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 上肢痛・肩関節捻挫・肘関節捻挫・手関節捻挫・打撲・挫傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | キネシオテープ3.8cm、5cm |
| 13 項 目 | 上肢痛・肩関節捻挫・肘関節捻挫・手関節捻挫・打撲・挫傷 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | キネシオテープ3.8cm、5cm |
| 14 項 目 | 授業内評価 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 包帯・晒・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | キネシオテープ3.8cm、5cm、7.5cm |
| 15 項 目 | 指関節・趾関節捻挫・打撲・挫傷全般 |
| 学習目標・ポイント | 概説・診方と検査の理解。治療方法と予後管理。 |
| 使用する材料 | 包帯・柔道整復学実技編持参 |
| 備考 | キネシオテープ3.8cm、5cm |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | スポーツ外傷Ⅱ |
| 担 当 教 員 | 山田 温 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 応用実技Ⅳ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1 (30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部 ・ 昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 主に上肢のスポーツ外傷のメカニズムを学び、原因、判断、処置の方法などを学ぶ。 キネシオテーピングの技術を習得する。 |
| 到 達 目 標 | スポーツの現場でケガに遭遇した時に、何をしないといけないかを判断し、適切な処置ができるようになる。 |
| 成績評価方法及び基準 | 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 実技試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 1、担当科目における教育上の業績 2004年4月～ 平成医療学園 柔道整復師科にて教務として勤務 2、実務上の業績 2011年3月～ ワイズ接骨院にて管理柔整師として勤務 |

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 1 項 目 | スポーツ外傷とは、筋肉の基礎 |
| 学習目標・ポイント | スポーツ外傷の意味を学ぶ。筋肉の基礎的な復習。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 応急処置とメディカルチェック |
| 学習目標・ポイント | RICE処置とメディカルチェックの項目を理解し、実際に体験する。 |
| 使用する材料 | 角度計、メジャー |
| 備考 | |
| 3 項 目 | ウォーミングアップとクールダウン |
| 学習目標・ポイント | W-PとC-Dの目的を理解する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | ストレッチの実際 |
| 学習目標・ポイント | 状況に応じたストレッチの選択と実技を習得する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | キネシオテーピングとは |
| 学習目標・ポイント | キネシオの目的、効果、貼り方など基本を知る。 |
| 使用する材料 | キネシオテーピング |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 肩関節の外傷① |
| 学習目標・ポイント | 腱板損傷 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 肩関節の外傷② |
| 学習目標・ポイント | 野球肩 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 肩関節のテーピング |
| 学習目標・ポイント | 肩関節に対する様々なキネシオの技術を習得する。 |
| 使用する材料 | キネシオテーピング、伸縮テーピング |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 肘関節の外傷① |
| 学習目標・ポイント | 野球肘 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 肘関節の外傷② |
| 学習目標・ポイント | テニス肘 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 肘関節のテーピング |
| 学習目標・ポイント | 肘関節に対する様々なキネシオの技術を習得する。 |
| 使用する材料 | 伸縮テーピング(50mm) |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 手関節・手部の外傷① |
| 学習目標・ポイント | 槌指 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 手関節・手部の外傷② |
| 学習目標・ポイント | TFCC |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 手関節・手部のテーピング |
| 学習目標・ポイント | 手関節・手部に対する様々なキネシオの技術を習得する。 |
| 使用する材料 | ホワイトテーピング、伸縮テーピング |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 授業内評価と総括 |
| 学習目標・ポイント | 与えられたテーマに対して適切なテーピングを巻くことができるか。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 高齢者と競技者の外傷予防 |
| 担 当 教 員 | 山口 悠 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 応用実技V |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義・演習・実技 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 高齢者及び競技者に起こりえる運動器系傷害の発生原因をイメージ・理解し、そこから予防する為に必要な運動法・固定法・指導法を学ぶ |
| 到 達 目 標 | 競技や高齢者、更には競技別・個人の体の特徴を見極めて、そこから起こりえる傷害を予測し、適切な指導・処置を行えるようにする。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 授業内評価＋レポート＋実技評価を合わせて100%で評価する |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 実技であり、事故を引き起こす可能性がある為、身勝手な行動を禁止とする |
| 教育・実務業績 | H15.4～H17.3 松下電工インパルスアメリカンフットボール部 トレーナー研修 H20.3～H23.3 つかはら鍼灸・整骨院に柔道整復師として勤務 H23.4～ 山口整骨院 開業 H28.10～ 奈良県国体 成年男子バスケットボール部 専属トレーナー R4.4～ 大阪城業大学高等学校バスケットボール部トレーナー |

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 1 項 目 | 総論 |
| 学習目標・ポイント | 授業計画・傷害予防について |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 競技者による傷害 |
| 学習目標・ポイント | スポーツ・年齢別での傷害を考える 柔道整復師として予防に使える技術・知識 |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 高齢者による傷害 |
| 学習目標・ポイント | 高齢者に起こりやすい傷害原因を理解し、予防・指導知識をつける |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 肩関節の傷害予防 |
| 学習目標・ポイント | 周辺解剖学、傷害原因を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 肘関節の障害予防 |
| 学習目標・ポイント | 周辺解剖学、傷害原因を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 腰部の傷害予防 |
| 学習目標・ポイント | 周辺解剖学、傷害原因を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 下肢傷害 総論 |
| 学習目標・ポイント | 周辺解剖学、傷害原因を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 股関節の傷害予防 |
| 学習目標・ポイント | 周辺解剖学、傷害原因を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 膝関節の傷害予防 |
| 学習目標・ポイント | 周辺解剖学、傷害原因を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 足関節の傷害予防 |
| 学習目標・ポイント | 周辺解剖学、傷害原因を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 子供のスポーツ傷害について |
| 学習目標・ポイント | 子供特有の傷害を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 子供に対しての運動指導 |
| 学習目標・ポイント | 子供の発育や特徴を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 傷害予防計画書作成 |
| 学習目標・ポイント | 子供の発育や特徴を理解し、予防処置・指導法を学ぶ |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 傷害予防計画書の発表 |
| 学習目標・ポイント | スポーツ別・年齢別で傷害を予測し、予防に必要な運動計画を作成する |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 傷害予防計画書の発表 |
| 学習目標・ポイント | スポーツ別・年齢別で傷害を予測し、予防に必要な運動計画を作成する |
| 使用する材料 | パソコン・配布教材・備品消耗品等 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | エコー画像 |
| 担 当 教 員 | 松本 尚純 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 画像評価実技 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | EBMにおいて超音波画像観察装置を用いて視覚的な説明を行う 治療院が増加しているなか臨床の現場で超音波画像観察装置を操作し、 様々な情報を得る為の基本的な技術を身につける。 |
| 到 達 目 標 | 超音波画像観察装置を操作し、 様々な情報を得る為の基本的な技術を身につける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 授業内評価で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 平成15年5月～平成27年2月 松本鍼灸整骨院 院長 平成27年3月～現在 まつもと整骨院鍼灸院 院長 平成26年3月～現在 公益財団法人日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー一部所属 平成17年～現在 筋骨格画像研究会講師 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成16年4月～平成18年9月 平成医療学園専門学校国家試験対策担当 平成18年10月 柔道整復師専科教員講習会修了 平成18年10月～平成29年3月 基礎実技上肢担当 平成29年4月～現在 画像診断担当 平成29年4月～令和1年11月 国対実技担当 令和2年4月～臨床柔整Ⅱ担当 |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 1 項 目 | 自己紹介・授業方針 |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | 教科書 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 超音波診断の現状・必要性 |
| 学習目標・ポイント | 超音波の基礎を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 超音波画像診断の基礎 膝・大腿部 |
| 学習目標・ポイント | 膝関節・大腿部の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 超音波画像診断の基礎 膝・大腿部 |
| 学習目標・ポイント | 膝関節・大腿部の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 下腿部 |
| 学習目標・ポイント | 下腿部の筋やアキレス腱などの解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 足関節部 |
| 学習目標・ポイント | 足関節の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 足関節部 |
| 学習目標・ポイント | 足関節の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 手部・肘部 |
| 学習目標・ポイント | 手部・肘関節の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 手部・肘部 |
| 学習目標・ポイント | 手部・肘関節の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 肩部(短軸)の観察 |
| 学習目標・ポイント | 肩関節の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 肩部(長軸)の観察 |
| 学習目標・ポイント | 肩関節の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 肩部(長軸)の観察 |
| 学習目標・ポイント | 肩関節の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 腰部の観察 |
| 学習目標・ポイント | 腰部の解剖学的位置関係を理解する |
| 使用する材料 | 教科書・超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 実技試験 |
| 学習目標・ポイント | 授業で観察した部位を描出し説明する。 |
| 使用する材料 | 超音波画像観察装置 |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 実技試験 |
| 学習目標・ポイント | 授業で観察した部位を描出し説明する。 |
| 使用する材料 | 超音波画像観察装置 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 鑑別画像 |
| 担 当 教 員 | 松本 尚純 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 画像評価実技Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | EBMにおいて視覚的な説明を行う治療院が増加しているなか 臨床の現場で画像から様々な情報を得る為の基本的な技術を身につける。 |
| 到 達 目 標 | 画像を読解できる能力を養う。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『学生のおしり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。 授業内評価で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のおしり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 平成15年5月～平成27年2月 松本鍼灸整骨院 院長 平成27年3月～現在 まつもと整骨院鍼灸院 院長 平成26年3月～現在 公益財団法人日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー一部所属 平成17年～現在 筋骨格画像研究会講師 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成16年4月～平成18年9月 平成医療学園専門学校国家試験対策担当 平成18年10月 柔道整復師専科教員講習会修了 平成18年10月～平成29年3月 基礎実技上肢担当 平成29年4月～現在 画像診断担当 平成29年4月～令和1年11月 国対実技担当 令和2年4月～現在臨床柔整Ⅱ担当 |

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 1 項 目 | 授業にあたっての注意など。画像の種類の説明。手指の骨折。 |
| 学習目標・ポイント | 受講中のルールの取り決め。X線写真の見方。手指のX線写真での解剖等。 |
| 使用する材料 | X線写真。 |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 四肢の疾患 |
| 学習目標・ポイント | 今まで習ってきた骨折を実際のX線写真で見る。 |
| 使用する材料 | X線とCT |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 四肢の疾患 |
| 学習目標・ポイント | 写真での骨折の形など。 |
| 使用する材料 | X線とCT |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 四肢の疾患 |
| 学習目標・ポイント | 足関節の内反ストレス写真の読み方、考え方。 |
| 使用する材料 | X線とCT |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 脊柱の疾患 |
| 学習目標・ポイント | 年齢、性別、疾患の違う腰椎の写真の見方。 |
| 使用する材料 | X線とCT |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 脊柱の疾患 |
| 学習目標・ポイント | 腰椎の写真について。椎間板ヘルニアの写真の読影の仕方。 |
| 使用する材料 | X線とCT |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 腰のMRI |
| 学習目標・ポイント | 腰椎のMRI 写真について。椎間板ヘルニアのMRI 写真の読影の仕方。 |
| 使用する材料 | MRI |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 膝のMRI |
| 学習目標・ポイント | 膝関節のMRI について。(前十時靭帯、後十時靭帯について。) |
| 使用する材料 | MRI |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 四肢のMRI |
| 学習目標・ポイント | 色々な患者のMRI 写真を見る。 |
| 使用する材料 | MRI |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 臨床エコー上肢 |
| 学習目標・ポイント | 上肢の疾患をエコーで観察するときの注意点 |
| 使用する材料 | エコー |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 臨床エコー下肢 |
| 学習目標・ポイント | 下肢の疾患をエコーで観察するときの注意点 |
| 使用する材料 | エコー |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 臨床エコー体幹 |
| 学習目標・ポイント | 頸部、腰部の観察の仕方 |
| 使用する材料 | エコー |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 復習・まとめ |
| 学習目標・ポイント | 国家試験に出題される画像を読解する能力を養う |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 試験 |
| 学習目標・ポイント | 読解力の確認 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 総括 |
| 学習目標・ポイント | 今後の課題について話し合う |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対実技 |
| 担 当 教 員 | 土岐 明寛／石井 裕己 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 総合実技 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間 I 部 ・ 昼間 II 部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 基礎実技の集大成となる授業であり、卒業実技試験および認定実技審査に向けた本校の基礎実技完成を目指す。認定実技審査に全員合格できるように1年生、2年生で教授された内容を引き継ぎ実技操作の再確認を行い、正確かつ安全な操作が出来るように指導する。 |
| 到 達 目 標 | 安心、安全な誘導、操作、固定が出来るようにする。 認定実技審査を全員が合格する。 卒業後の現場で活かせる力を付ける。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 実技試験で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 土岐 明寛 1. 教育上の業績 平成29年4月～令和2年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科専任教員として勤務 令和2年4月～令和3年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科実技主任として勤務 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校において柔道整復師科学科長として勤務し現在に至る 2. 実務上の業績 ①臨床経験 平成15年4月～平成19年3月 鍼灸整骨院で施術補助スタッフとして勤務。 平成19年4月～平成23年7月 鍼灸整骨院や整形外科クリニックのスタッフとして勤務。 平成23年9月～平成24年6月 鍼灸整骨院管理柔整師として開院。 平成24年7月～平成25年3月 鍼灸整骨院で施術スタッフとして勤務。 ②教育経験 平成25年4月～柔道整復師養成施設にて専任教員として勤務し現在に至る。 平成31年4月～令和3年3月 宝塚医療大学 柔道整復学科の非常勤講師として勤務。 令和3年4月～追手門学院大学 基盤教育機構の非常勤講師として勤務し現在に至る。 ③研究歴 平成30年4月～令和3年3月 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員 石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命 |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 授業方針・認定実技概要の説明、流れの説明 |
| 学習目標・ポイント | バイタルチェックや患者誘導、共通項目の確認。 |
| 使用する材料 | パソコン・プロジェクター、財団認定実技H30年度版DVD |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 鎖骨骨折の整復・固定 |
| 学習目標・ポイント | 整復では整復動作の目的を理解し正確な動作を指導する。固定ではデゾー包帯固定法を指導する。 |
| 使用する材料 | 局所副子、スタレ副子(患部圧迫用)厚紙 |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 上腕骨外科頸外転型骨折の整復、上腕骨骨幹部骨折の固定 |
| 学習目標・ポイント | 整復では動作の要点を指導する。固定ではミッドドルフ固定法を指導する。 |
| 使用する材料 | 帯、腋窩枕子、ミッドドルフ三角副子、スタレ副子 |
| 備考 | |
| 4 項 目 | コーレス骨折の整復・固定 |
| 学習目標・ポイント | 整復では転位を理解させ正確な動作を指導する。固定ではシーネ固定を指導する。 |
| 使用する材料 | シーネ、局所副子 |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 肩鎖関節上方脱臼の整復・固定 |
| 学習目標・ポイント | 整復では正確な整復動作を指導する。固定ではロバートジョーンズテーピング固定を指導する。 |
| 使用する材料 | テーピング50mm |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 肩関節前方烏口下脱臼の整復・固定 |
| 学習目標・ポイント | 整復ではヒポクラテス法を指導する。固定では肩関節上行麦穂帯を指導する。 |
| 使用する材料 | 局所副子 |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 肘関節後方脱臼の整復・固定、肘内障の整復 |
| 学習目標・ポイント | 整復では側臥位整復法を指導する。固定ではシーネ固定を指導する。 |
| 使用する材料 | シーネ、枕子 |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 肩関節軟部組織損傷(腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷)の検査法 |
| 学習目標・ポイント | 検査法では軟部組織への圧や抵抗のかけ方などを指導する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 第5中手骨頸部骨折の固定、手第2指PIP関節背側脱臼の固定 |
| 学習目標・ポイント | 手指のアルミ副子を用いた固定法を指導する。 |
| 使用する材料 | アルミ副子 |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 下肢軟部組織損傷(ハムストリングス損傷、大腿四頭筋打撲)の検査法 |
| 学習目標・ポイント | 検査法では検査する軟部組織への自動屈曲・他動伸展の方法を指導する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 膝関節軟部組織損傷(前十字靭帯損傷、内側側副靭帯損傷、半月板損傷)の検査法 |
| 学習目標・ポイント | 検査法では検査する軟部組織への圧のかけ方、牽引力、肢位などを指導する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 膝関節内側側副靭帯損傷の固定、肋骨骨折の固定 |
| 学習目標・ポイント | 膝ではテーピング固定を指導する。肋骨骨折では厚紙副子と晒を用いた固定を指導する。 |
| 使用する材料 | テーピング50mm、厚紙副子、晒 |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 下肢軟部組織損傷(下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷)の検査法 |
| 学習目標・ポイント | 検査法では軟部組織への検査の方法を指導する。 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 足関節外側靭帯損傷の固定 |
| 学習目標・ポイント | バスケットウィーブ固定、フィギュアエイト・ヒールロック固定、局所副子固定法を指導する。 |
| 使用する材料 | テーピング38mm、U字パッド、下肢シーネ |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 下腿骨骨幹部骨折の固定、アキレス腱断裂の固定 |
| 学習目標・ポイント | 下腿骨骨幹部骨折の固定、アキレス腱断裂の固定法を指導する。 |
| 使用する材料 | 下肢シーネ、局所副子、枕子 |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 国対実技・柔道 |
| 担 当 教 員 | 土岐 明寛／石井 裕己／丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 総合実技Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(30) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 演習・実技 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 認定実技審査に向けて実技・柔道の総合学習 |
| 到 達 目 標 | 認定実技審査の合格 |
| 成績評価方法及び基準 | <p>【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 実技試験で100%の評価を行う。</p> |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | <p>【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教育・実務業績 | <p>土岐 明寛 1. 教育上の業績 平成29年4月～令和2年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科専任教員として勤務 令和2年4月～令和3年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科実技主任として勤務 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校において柔道整復師科学科長として勤務し現在に至る</p> <p>2. 実務上の業績 ①臨床経験 平成15年4月～平成19年3月 鍼灸整骨院で施術補助スタッフとして勤務。 平成19年4月～平成23年7月 鍼灸整骨院や整形外科クリニックのスタッフとして勤務。 平成23年9月～平成24年6月 鍼灸整骨院管理柔整師として開院。 平成24年7月～平成25年3月 鍼灸整骨院で施術スタッフとして勤務。</p> <p>②教育経験 平成25年4月～柔道整復師養成施設にて専任教員として勤務し現在に至る。 平成31年4月～令和3年3月 宝塚医療大学 柔道整復学科の非常勤講師として勤務。 令和3年4月～追手門学院大学 基盤教育機構の非常勤講師として勤務し現在に至る。</p> <p>③研究歴 平成30年4月～令和3年3月 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員</p> <p>石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得</p> <p>丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中)</p> |

| | |
|-----------|----------|
| 1 項 目 | 実技復習① |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 柔道復習① |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 実技復習② |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 柔道復習② |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 実技復習③ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 柔道復習③ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 実技復習④ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 柔道復習④ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 実技復習⑤ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 柔道復習⑤ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 実技復習⑥ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 柔道復習⑥ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 実技復習⑦ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 柔道復習⑦ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 総合復習、まとめ |
| 学習目標・ポイント | |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 堺サッカー実習 |
| 担 当 教 員 | 樋口 朋基/嶋田 リエ |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床実習 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(45) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 講義で学んだ内容が臨床の場でどのように活用されているかを確認し、自身が学ぶべき事に気付く。教員が実際に選手やスタッフとどのような会話をしているか観察し、コミュニケーション能力の重要性に気付く。外傷に対してどのような対応をしているか観察し、迅速な処置が必要であることに気付く。 |
| 到 達 目 標 | 基礎医学の重要性を理解する。コミュニケーション能力の重要性を理解する。技術力の重要性に気付く。 |
| 成績評価方法及び基準 | レポート提出で100%の評価を行う。 医療人としての人格形成に努める。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | |
| 教育・実務業績 | <p>樋口 朋基</p> <p>1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など)</p> <p>2、実務上の業績(臨床経験等)</p> <p>令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師</p> <p>嶋田 リエ</p> <p>1、担当科目における教育上の業績</p> <p>令和4年4月～ 平成医療学園専門学校 専任教員として勤務</p> <p>2、実務上の業績(臨床経験等)</p> <p>平成26年4月～平成30年3月 大学トレーニング施設にてメディカルトレーナーとして勤務 同大学女子ラグビー部・男子ラグビー部トレーナーとして勤務</p> |

| | |
|-----------|--------------------------|
| 1 項 目 | 事前学習、オリエンテーション |
| 学習目標・ポイント | 実習に向けての心構えを学ぶ |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |

| | | |
|-----------|---|-----------------------------|
| 16項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 17項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 18項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 19項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 20項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 21項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 22項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 23項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 24項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 25項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 26項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 27項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、医科学スタッフとの連携・協力 |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 28項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、医科学スタッフとの連携・協力 |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 29項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、医科学スタッフとの連携・協力 |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 30項 | 目 | 総括 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

| | |
|-----------------|--|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 堺サッカー実習 |
| 担 当 教 員 | 益 賢明 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床実習Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(45) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 講義で学んだ内容が臨床の場でどのように活用されているかを確認し、自身が学ぶべき事に気付く。教員が実際に選手やスタッフとどのような会話をしているか観察し、コミュニケーション能力の重要性に気付く。外傷に対してどのような対応をしているか観察し、迅速な処置が必要であることに気付く。 |
| 到 達 目 標 | 基礎医学の重要性を理解する。コミュニケーション能力の重要性を理解する。技術力の重要性に気付く。 |
| 成績評価方法及び基準 | レポート提出で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 | 医療人としての人格形成に努める。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | 実務上の業績： 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。 平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。 平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。 |

| | |
|-----------|--------------------------|
| 1 項 目 | 事前学習、オリエンテーション |
| 学習目標・ポイント | 実習に向けての心構えを学ぶ |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |

| | | |
|-----------|---|-----------------------------|
| 16 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 17 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 18 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 19 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 20 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 21 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、ダイナミックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 22 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 23 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 24 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 25 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 26 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 27 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、医科学スタッフとの連携・協力 |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 28 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、医科学スタッフとの連携・協力 |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 29 項 | 目 | 試合帯同、治療ブース見学、医科学スタッフとの連携・協力 |
| 学習目標・ポイント | | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | | トレーナーバッグ |
| 備考 | | |
| 30 項 | 目 | 総括 |
| 学習目標・ポイント | | |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

平成医療学園専門学校 シラバス

| | |
|-----------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 治療所見学実習 |
| 担 当 教 員 | 益 賢明 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床実習Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(45) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 通年 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 学校生活、社会生活の中で人と人の繋がりの大切さを学び人格の育成に努める。 |
| 到 達 目 標 | 平成の医療人としての人格形成 |
| 成績評価方法及び基準 | レポート提出で100%の評価を行う。 |
| 履修にあたっての注意 | 医療人としての人格形成に努める。 |
| 教育・実務業績 | <p>実務上の業績：</p> <p>平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミーのチームトレーナーとして勤務。</p> <p>平成26年～30年 追手門学院大学の男子女子ラグビー部のチームトレーナーとして勤務。</p> <p>平成21年～現在まで 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のアカデミー活動(国内キャンプ、大会運営、海外遠征など)でのトレーナー活動。</p> |

| | |
|-----------|-----------------------|
| 1 項 目 | 事前説明 |
| 学習目標・ポイント | 治療所見学実習先での目標、注意点、守秘義務 |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | 臨床実習指導者が定める行動ができるか |
| 使用する材料 | |
| 備考 | |

| | | |
|-----------|---|---------------------|
| 16 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 17 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 18 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 19 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 20 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 21 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 22 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 23 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 24 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 25 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 26 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 27 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 28 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 29 項 | 目 | 治療所見学実習 |
| 学習目標・ポイント | | 臨床実習指導者が定める行動が出来るか |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |
| 30 項 | 目 | 治療所見学実習で学んだことの整理と総括 |
| 学習目標・ポイント | | デイリーノート等の完成と反省 |
| 使用する材料 | | |
| 備考 | | |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 堺サッカー実習 |
| 担 当 教 員 | 石井 裕己/丹治 良輔 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 臨床実習Ⅳ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(45) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 講義で学んだ内容が臨床の場でどのように活用されているかを確認し、自身が学ぶべき事に気付く。教員が実際に選手やスタッフとどのような会話をしているか観察し、コミュニケーション能力の重要性に気付く。外傷に対してどのような対応をしているか観察し、迅速な処置が必要であることに気付く。 |
| 到 達 目 標 | 基礎医学の重要性を理解する。コミュニケーション能力の重要性を理解する。技術力の重要性に気付く。 |
| 成 績 評 価 方 法 及 び 基 準 | 出席、レポート提出で100%評価する。 |
| 履 修 に あ た っ て の 注 意 (受講者へのメッセージ) | 医療人としての人格形成に努める。 |
| 教 育 ・ 実 務 業 績 | <p>石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命</p> <p>丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命</p> <p>平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中)</p> <p>平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中)</p> |

| | |
|-----------|--------------------------|
| 1 項 目 | 事前学習、オリエンテーション |
| 学習目標・ポイント | 実習に向けての心構えを学ぶ |
| 使用する材料 | プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、担架等の取り扱い |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 9 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 10 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 11 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、スタティックストレッチ |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 12 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 13 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 14 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |
| 15 項 目 | 試合帯同、治療ブース見学、非伸縮性テーピング |
| 学習目標・ポイント | トレーナーの役割を理解する |
| 使用する材料 | トレーナーバッグ |
| 備考 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 柔理演習 I |
| 担 当 教 員 | 北野 吉廣 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 職業教育 I |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(15) |
| 配 当 年 次 | 1年次 |
| 部 | 昼間部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復学・理論編の概説部分の解説と、総論における骨折の理論をより実践的な内容にし、しぼり解説する。また、実践的なキーワードを1年生の早期に記憶させるためのトレーニングを行う。 |
| 到 達 目 標 | 柔道整復師の歴史や現状の社会における位置づけを理解できる。骨折に関する専門用語や骨損傷の特徴が理解し分類が出来る。 |
| 成績評価方法及び基準 | 【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 毎回配布するプリントを完成させる70%、小テスト20%、平常点10%を合わせて100%で評価を行う等。 |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | 【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。 |
| 教育・実務業績 | 柔道整復師 修士(保健医療学) 柔道整復師専科教員 公益財団法人柔道整復研修試験財団 認定実技審査員 一般社団法人日本柔道整復接骨医学会 認定柔道整復師 日本スポーツ整復療法学会 評議員 ジャパン・アスレティック・トレーナー協会(JATAC)認定ATC 昭和63年10月22日 キタノ整骨院開設 院長を務める(～平成11年1月31日) 平成11年2月10日 北野鍼灸整骨院開設 院長を務める(～平成23年3月31日) 平成17年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 非常勤講師 担当科目 柔整理論【総論】:柔道整復師に必要な骨折、脱臼、軟部組織損傷の症状や修復過程などの総論を教授した。 平成19年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専任教員 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 下肢実技:下肢の骨折、脱臼の整復、固定や軟部組織損傷の検査法、固定実技を行った。 平成21年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 科学科長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 柔整理論【上肢】:肘関節から指までの骨折、肩鎖関節から指までの脱臼や軟部組織損傷の症状、整復法、固定法、後療法を教授した。 臨床実技:臨床に必要な柔道整復手技療法の実技を行った。 平成24年4月 平成医療学園専門学校 教務部長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 国対実技:認定実技審査に関わる骨折、脱臼、軟部組織損傷の整復、固定検査等の実技を行った。 平成27年10月 宝塚医療大学 柔道整復学科 非常勤講師 担当科目 スポーツ整復学:スポーツ外傷の各症状、治療法、トレーニング法を教授した。(～平成29年) スポーツ医療学テーピング(実技):スポーツ障害に対するテーピング実技を行った。 (～平成29年) 平成28年4月 平成医療学園専門学校 校長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ(現在に至る) 平成30年4月 宝塚医療大学 柔道整復学科 非常勤講師 担当科目 スポーツ医療学:すべての年齢層に対するスポーツ傷害の症状、治療法、トレーニング法を教授した。 スポーツ医療演習 I :スポーツ外傷に対するコンディショニングの実技を行った。 (現在に至る) |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 柔道整復術および柔道整復師の沿革 |
| 学習目標・ポイント | 柔道整復の沿革、業務範囲心得を習得する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P2～P10 |
| 2 項 目 | 人体に加わる力・身体の基礎的状态 |
| 学習目標・ポイント | 人体に加わる力、損傷時に加わる力などの損傷に対しての人体の損傷を理解する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P11～P15 |
| 3 項 目 | 痛みの基礎 |
| 学習目標・ポイント | 痛みの種類や運動器における痛みのメカニズムを理解する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P16～20 |
| 4 項 目 | 骨の形態と機能 |
| 学習目標・ポイント | 骨組織の解剖学を理解する。骨モデリングと骨リモデリング。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P21～23 |
| 5 項 目 | 骨損傷の概説・性状による分類 |
| 学習目標・ポイント | 骨損傷の定義や性状による分類を理解する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P23～25 |
| 6 項 目 | 骨損傷の程度による分類 |
| 学習目標・ポイント | 程度による分類、特に不全骨折中心に理解する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P25～26 |
| 7 項 目 | 骨折線の方法による分類・創部との交通の有無による分類・骨折の数を理解する。 |
| 学習目標・ポイント | 骨折線による分類や開放性骨折、骨折の数による分類の表現を理解する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P26～28 |
| 8 項 目 | 外力の働き方による分類 |
| 学習目標・ポイント | 外力の働き方による分類における骨折名を状態を理解する |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P28～31 |
| 9 項 目 | 骨折の部位による分類、受傷後の経過 |
| 学習目標・ポイント | 解剖学的部位名や骨折名との関係、新鮮骨折と陳旧性骨折を理解する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P31～31 |
| 10 項 目 | 骨折の症状 |
| 学習目標・ポイント | 骨折の一般外傷症状と骨折の固有症状を理解する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P31～33 |
| 11 項 目 | 骨折の固有症状 |
| 学習目標・ポイント | 骨折の固有症状の後半(転位と変形)およびショックを理解する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P33～35 |
| 12 項 目 | 骨折の合併症(併発症・続発症) |
| 学習目標・ポイント | 骨折の併発症と続発症(外傷性皮下気腫、脂肪塞栓症候群)を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P35～36 |
| 13 項 目 | 骨折の合併症(続発症) |
| 学習目標・ポイント | 骨折の続発症(仮骨の軟化および再骨折、遷延癒合、コンパートメント症候群等)を理解す |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P36～37 |
| 14 項 目 | 骨折の合併症(後遺症) |
| 学習目標・ポイント | 骨折の後遺症(過剰仮骨形成、偽関節、変形癒合、骨萎縮、ズデック骨萎縮)を理解する。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P37～39 |
| 15 項 目 | 骨折の合併症(後遺症) |
| 学習目標・ポイント | 骨折の後遺症(骨壊死、関節運動障害、外傷性骨化性筋炎、フォルクマン拘縮)を理解する。 |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 教科書P39～39 |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 手技療法 |
| 担 当 教 員 | 北野 吉廣 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 職業教育Ⅱ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(15) |
| 配 当 年 次 | 2年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 実技 |
| 開 講 期 間 | 前期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 柔道整復術の一つである手技療法を教授する。 |
| 到 達 目 標 | 各手技療法の特徴と効果を検証し、技術習得と適応疾患へ自己判断で手技を選択し提供することが出来る。 |
| 成績評価方法及び基準 | <p>【全科目共通事項】 必要出席数『学生のしおり』Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】に準ずる。</p> <p>8回目の授業内にて実技評価を行う。実技試験はルーブリック評価表をもとに試験を行い70%、授業内平常点30%とし、実技試験と授業内平常点を合わせて100%で評価を行う。</p> |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | <p>【全科目共通事項】 『学生のしおり』Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教育・実務業績 | <p>柔道整復師 修士(保健医療学) 柔道整復師専科教員 公益財団法人柔道整復研修試験財団 認定実技審査員 一般社団法人日本柔道整復接骨医学会 認定柔道整復師 日本スポーツ整復療法学会 評議員 ジャパン・アスレティック・トレーナー協会(JATAC)認定ATC 昭和63年10月22日 キタノ整骨院開設 院長を務める(～平成11年1月31日) 平成11年2月10日 北野鍼灸整骨院開設 院長を務める(～平成23年3月31日) 平成17年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 非常勤講師 担当科目 柔整理論【総論】:柔道整復師に必要な骨折、脱臼、軟部組織損傷の症状や修復過程などの総論を教授した。</p> <p>平成19年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専任教員 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 下肢実技:下肢の骨折、脱臼の整復、固定や軟部組織損傷の検査法、固定実技を行った。</p> <p>平成21年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科学科長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 柔整理論【上肢】:肘関節から指までの骨折、肩鎖関節から指までの脱臼や軟部組織損傷の症状、整復法、固定法、後療法を教授した。 臨床実技:臨床で必要な柔道整復手技療法の実技を行った。</p> <p>平成24年4月 平成医療学園専門学校 教務部長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ 国対実技:認定実技審査に関わる骨折、脱臼、軟部組織損傷の整復、固定検査等の実技を行った。</p> <p>平成27年10月 宝塚医療大学 柔道整復学科 非常勤講師 担当科目 スポーツ整復学:スポーツ外傷の各症状、治療法、トレーニング法を教授した。(～平成29年) スポーツ医療学テーピング(実技):スポーツ障害に対するテーピング実技を行った。 (～平成29年)</p> <p>平成28年4月 平成医療学園専門学校 校長 担当科目 柔整理論【総論】:上記と同じ(現在に至る)</p> <p>平成30年4月 宝塚医療大学 柔道整復学科 非常勤講師 担当科目 スポーツ医療学:すべての年齢層に対するスポーツ傷害の症状、治療法、トレーニング法を教授した。 スポーツ医療演習Ⅰ:スポーツ外傷に対するコンディショニングの実技を行った。 (現在に至る)</p> |

| | |
|-----------|--|
| 1 項 目 | 授業に対する説明・手技療法の概説・背部の手技療法① |
| 学習目標・ポイント | 手技療法の種類を確認し、背部へ手技療法する姿勢がとれる。(立ち位置、背部の見方) |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | バスタオル持参(ケーシーが望ましい。ジーパンなどのかたい素材の衣服は禁止) |
| 2 項 目 | 背部の手技療法② |
| 学習目標・ポイント | 背部へ手技療法が施せる。(軽擦法、圧迫法、揉捏法など) |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | バスタオル持参(ケーシーが望ましい。ジーパンなどのかたい素材の衣服は禁止) |
| 3 項 目 | 腰部、大腿部の手技療法 |
| 学習目標・ポイント | 腰部、大腿部へ手技療法が施せる。(軽擦法、圧迫法、揉捏法など) |
| 使用する材料 | 自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | バスタオル持参(ケーシーが望ましい。ジーパンなどのかたい素材の衣服は禁止) |
| 4 項 目 | 頸肩部の手技療法 |
| 学習目標・ポイント | 頸肩部へ手技療法が施せる。(軽擦法、圧迫法、揉捏法、運動療法など) |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | バスタオル持参(ケーシーが望ましい。かたい素材の衣服は禁止) |
| 5 項 目 | 上肢の手技療法① |
| 学習目標・ポイント | 指、手部、前腕へ手技療法が施せる。(軽擦法、圧迫法、揉捏法、叩打法など) |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター・タルク |
| 備考 | 肘関節までが素肌が出せる服装でのぞむ。(ケーシー、Tシャツなど) |
| 6 項 目 | 上肢の手技療法② |
| 学習目標・ポイント | 肘部、上腕部へ手技療法が施せる。(軽擦法、圧迫法、揉捏法、叩打法など) |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | 肩関節まで素肌が出せる服装でのぞむ。(Tシャツ、タンクトップなど) |
| 7 項 目 | 下肢の手技療法 |
| 学習目標・ポイント | 下腿、膝部へ手技療法が施せる。(軽擦法、圧迫法、揉捏法、叩打法など) |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター・タルク |
| 備考 | 大腿中央部まで素足が出せる服装でのぞむ。(短パンなど) |
| 8 項 目 | 手技療法の総括 |
| 学習目標・ポイント | 与えられた課題に対して適切な手技療法を選択し、施術が出来る。 |
| 使用する材料 | 教科書・自作プリント・PPT・プロジェクター |
| 備考 | ケーシー着用のこと。 |

| | |
|----------------------------|---|
| 年 度 | 令和4年度 |
| 学 科 | 柔道整復師科 |
| 開 講 科 目 名 | 必修柔道/倫理/保険 |
| 担 当 教 員 | 丹治 良輔/樋口 朋基/石井 裕己 |
| 科 目 名 (中 項 目) | 職業教育Ⅲ |
| 単 位 数 (時 間 数) | 1(15) |
| 配 当 年 次 | 3年次 |
| 部 | 昼間Ⅰ部・昼間Ⅱ部 |
| 授 業 形 態 | 講義 |
| 開 講 期 間 | 後期 |
| 授 業 概 要 ・ 目 的 | 国家試験に向けて必修の分野の強化をはかる。 |
| 到 達 目 標 | 合同模擬試験、実力試験で全体の正答率を80%以上にすること。 |
| 成績評価方法及び基準 | <p>【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。</p> <p>出席にて100%の評価を行う。</p> |
| 履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ) | <p>【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。</p> |
| 教育・実務業績 | <p>丹治 良輔 平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命</p> <p>平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中)</p> <p>平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】」担当(継続中)</p> <p>樋口 朋基 1.平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など) 2、実務上の業績(臨床経験等) 令和2年4月～ 宝塚医療大学 非常勤講師</p> <p>石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得 令和3(2021)年4月1日 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 実技主任を拝命</p> |

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 1 項 目 | 必修柔道 |
| 学習目標・ポイント | 歴史、理念 |
| 使用する材料 | 柔道整復師 国家試験 出題基準・プリント |
| 備考 | |
| 2 項 目 | 必修柔道 |
| 学習目標・ポイント | 教育的効果 |
| 使用する材料 | 柔道整復師 国家試験 出題基準・プリント |
| 備考 | |
| 3 項 目 | 必修倫理 |
| 学習目標・ポイント | 倫理・コミュニケーション、患者の権利 |
| 使用する材料 | 柔道整復師 国家試験 出題基準・プリント |
| 備考 | |
| 4 項 目 | 必修倫理 |
| 学習目標・ポイント | 医療の安全(リスクマネジメント、医療事故・医療過誤) |
| 使用する材料 | 柔道整復師 国家試験 出題基準・プリント |
| 備考 | |
| 5 項 目 | 必修保険 |
| 学習目標・ポイント | 社会保険制度(国民健康保険、健康保険法、後期高齢者医療制度) |
| 使用する材料 | 柔道整復師 国家試験 出題基準・プリント |
| 備考 | |
| 6 項 目 | 必修保険 |
| 学習目標・ポイント | 社会保険制度(労働災害補償制度、介護保険法、公的年金) |
| 使用する材料 | 柔道整復師 国家試験 出題基準・プリント |
| 備考 | |
| 7 項 目 | 必修保険 |
| 学習目標・ポイント | 社会福祉制度、国民医療費 |
| 使用する材料 | 柔道整復師 国家試験 出題基準・プリント |
| 備考 | |
| 8 項 目 | 必修保険 |
| 学習目標・ポイント | 柔道整復師と療養費 |
| 使用する材料 | 柔道整復師 国家試験 出題基準・プリント |
| 備考 | |